

平成 25 年度
豊田市男女共同参画社会に関する意識調査
報告書

平成 26 年3月

豊 田 市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	2
2	調査の実施概要	2
3	報告書の見方	2
4	用語の解説	3
II	調査結果の総括	5
1	調査結果の総括	6
III	調査結果	11
1	回答者の属性	12
2	男女の平等観について	17
3	男女の関わり・役割分担について	28
4	家庭における女・男のあり方について	51
5	地域活動における男女の役割分担について	58
6	職場における男女の役割分担について	64
7	ワーク・ライフ・バランスについて	78
8	男女共同参画社会実現に向けた豊田市の取組について	84
9	男女共同参画社会実現に関する今後の取組について	89
IV	その他・自由回答	91
1	回答者の属性	92
2	家庭における女・男のあり方について	94
3	地域活動における男女の役割分担について	95
4	職場における男女の役割分担について	96
5	ワーク・ライフ・バランスについて	97
6	男女共同参画社会実現に関する今後の取組について	100
7	自由回答	102
V	調査票	113

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、平成 22 年 3 月に発行した「第 2 次とよた男女共同参画プラン」の計画期間終了（平成 26 年度）に伴い、家庭、地域、職場等における男女共同参画に関する市民の意識や男女の平等・社会参加の実態等を調査し、過去の意識調査と比較・検証することにより、男女共同参画社会の実現に向けての施策展開の基礎とするとともに新プラン策定の基礎資料とすることを目的として実施しました。

2 調査の実施概要

●調査対象者

豊田市に居住している 20 歳以上の市民男女各 1,500 人を無作為に抽出

●調査期間

平成 25 年 9 月 21 日から 10 月 11 日まで

●調査方法

調査票による本人記入方式

郵送による配布、郵送による回収。

●回収結果

区分	配布数	回収数	回収率
女 性	1,500	775	51.7%
男 性	1,500	592	39.5%
不 明		16	
合 計	3,000	1,383	46.1%

3 報告書の見方

●集計について

本報告書では、設問ごとに全体の集計結果とクロス集計結果を記載しています。なお、クロス集計結果では、性別等の不明・無回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

●「N」について

グラフ中の「N」とは、Number of Cases の略で、各設問に該当する回答者総数を表します。

●「%」について

グラフ中の「%」は、小数点第 2 位以下を四捨五入しているため、単数回答の設問（1 つだけに○をつけるもの）であっても、合計が 100%にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合（あてはまるものすべてに○をつけるもの等）は、「N」に対する各選択肢の回答者数の割合を示します。

4 用語の解説

●男女共同参画社会

女性と男性が社会を構成する対等なメンバーとして認め合い、仕事、家庭、地域などあらゆる分野に参画し、喜びも責任も、ともに分かち合う社会をいいます。

●ジェンダー

生物学的な性別ではなく、『女らしさ、男らしさ』など文化的・社会的につくられた性差を指します。このようなジェンダー意識を持つことは、例えば「男は仕事・女は家庭」などのように、個人の個性や能力と関わりなく、男女の性別による役割を与えることにつながり、結果として女性も男性も生き方の幅を狭めてしまいます。

●固定的性別役割分担

男女を問わず個人の能力等によって役割の分担を決めることが適当であるにもかかわらず、男性、女性という性別を理由として、役割を固定的に分けることをいいます。「男は仕事・女は家庭」、「男性は主要な業務・女性は補助的業務」等は固定的な考え方により、男性・女性の役割を決めている例です。

●ドメスティック・バイオレンス(DV)

配偶者（事実婚、別居を含む）やパートナーなど親密な関係にある（あった）人から振るわれる暴力のことをいいます。暴力には殴る蹴るなどの暴力のみならず、威嚇する、生活費を渡さない、仕事につかせない、性行為の強要、外出や交友関係を制限して孤立させるといった精神的な苦痛や経済的な抑圧なども含まれます。また、子どもに暴力をみせることも含まれます。親密な関係の男女間のことであっても、刑法に規定されている暴行、傷害、脅迫等の行為が行われた場合は犯罪となります。

●ワーク・ライフ・バランス

老若男女誰もが、仕事、家庭生活、地域生活などにおいて、自らが希望するバランスのとれた生活を送ることを指します。そのような生活を実現させるためには、働き方の見直しや家庭における家族の役割分担などが必要とされています。

●とよた男女共同参画センター(キラツ☆とよた)

豊田市が設置・運営している男女共同参画社会実現のための拠点施設で、情報誌の発行、セミナー・講座やイベントの開催、団体支援等様々な活動を行っています。(豊田産業文化センター2階 電話：31-7780)

II 調査結果の総括

1 調査結果の総括

【問1】男女の平等観について

男女の平等意識について、「平等である」が最も高い分野は「学校教育の場」となっています。

『男性優遇』（「男性の方が優遇されている」と「男性の方がやや優遇されている」の合算）が高い分野は、「社会通念・慣習やしきたり」「政治の場」「職場」ですが、「地域社会の場」「家庭生活の場」においても約4割が『男性優遇』と回答しています。

経年でみると、「家庭生活」「地域社会」において『男性優遇』の割合が低下していますが、「政治の場」「社会通念・慣習やしきたり」では平成20年度の前回調査と比較して『男性優遇』の割合に大きな変化はなく、「職場」では『男性優遇』の割合が上昇しています。

【問2】男女の役割分担等についての考えや行動

男女の関わり・役割分担については、「子育ては女性も男性も協力して行う」「男性も家事をきちんとできる方がよい」で『賛成』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合算）の割合が高く、子育てや家事については男性も参加した方がよいという意識がうかがえます。一方、「女性は仕事を持って家事・育児もきちんとする方がいい」では65.3%、「女性は自分のことより家族のことを優先する方がよい」では45.3%が『賛成』と回答しており、家庭生活において女性に期待される役割は依然として大きくなっています。

また、実際の行動については、「女は女らしく、男は男らしくする方がよい」「女性は仕事を持って家事・育児をきちんとする方がいい」「女性は自分のことより家族のことを優先する方がよい」において『実践している』（「そうしている」「どちらかといえばそうしている」の合算）割合が5割を超えており、家庭生活における固定的な性別役割分担は、女性の役割で多く残っていると言えます。

【問3】夫婦の役割分担についての考え

夫婦の役割分担の考え方では、家事、子育て、介護、地域活動等、すべての項目で夫婦が「共同で行うのがよい」が最も高くなっていますが、実際は「家事全般（食事・洗濯・掃除等）」「家計の管理」「子育て全般」で「主に妻が行う」割合が高くなっています。

【問4】子どもの育て方についての考え

家庭における子どもの育て方については、子どもの性別に関わらず、「言葉遣いや立ち居振る舞いを注意する」「性別にとらわれず個性を伸ばすように育てる」で「そうしている」割合が高くなっています。男の子に比べて女の子で「そうしている」割合が高い項目は「家事能力（料理・掃除など）のある子に育てる」となっています。一方、女の子に比べて男の子で「そうしている」割合が高い項目は「リーダーシップのある子に育てる」「4年制大学以上に進学させる」「経済力のある子に育てる」となっており、性別にとらわれないとしつつも、一部では男女によって育て方の違いが見受けられます。

【問5】家族の介護についての考えまたは実際の行動

家族の介護については「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護したい（している）」が52.9%と最も高くなっています。次に高い割合を示す「特別養護老人ホーム等の施設

で介護を受けさせたい（受けさせている）」は、年齢別でみると女性の 40 歳代、50 歳代で高い割合となっています。男性は女性よりも「行政や外部のサービスには頼らず、自宅で介護したい（している）」の割合が全体的に高くなっています。

【問 6】自宅で介護をする場合の介護者

自宅で介護をする場合の介護者については、女性では 83.3%が「主に、自分が介護すると思う（している）」と回答しており、男性の値を大きく上回っています。また、男性では「主に、自分の配偶者が介護すると思う（している）」と「主に、その他の家族（女性）が介護すると思う（している）」を合わせた『女性が介護を担う』とする割合が 45.4%となっています。

【問 7】地域活動における男女の役割についての考え

地域活動における男女の役割については、全項目を通じて「わからない」という回答が 2～4 割と高くなっており、回答者に地域活動そのものに参加していない人が多く含まれることが推測されます。「地域活動は男性が取り仕切る」「自治会の集会の時には、女性がお茶くみや片づけをしている」では、約 4 割が「そうしている」としており、地域活動においても固定的な性別役割分担が残っています。

【問 8】地域の防災活動についての考え

地域の防災（災害対策）と男女共同参画についての考えでは、男女ともに「防災対策などに女性の視点を含める必要がある」「自主防災組織等への女性の参画を促進する必要がある」の項目で割合が低くなっており、女性の視点からの防災対策への意識がまだ十分に浸透していないことがうかがえます。

【問 9、10、11】女性が仕事をすることについての考え

女性が仕事を持つことについての考えでは、「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」の割合が男女ともに最も高くなっています。経年比較をみると「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」とする就労継続型の働き方を支持する割合が男女ともに増加しています。

結婚・出産後に女性は働かない方がよいとする人にその理由をたずねたところ、「結婚・出産の後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから」が 46.6%と最も高くなっています。また、女性は男性に比べて「子育て期は、会社に負担をかけることが多いと思うから（こども園の送り迎え、子どもの病気、学校行事など）」の割合が高く、実際に仕事と子育てを担う役割が大きくなりがちな女性側の精神的な負担感がうかがえます。

結婚・出産後も女性は働いた方がよいとする人に仕事を続けるために必要なことをたずねたところ、「柔軟な働き方ができる制度の導入（在宅勤務や短時間労働など）」が 51.9%と最も高く、平成 20 年度調査と比較してもニーズの高さは変わりません。性別でみると、男性では「育児離職者の再雇用制度」、女性では「柔軟な働き方ができる制度の導入（在宅勤務や短時間労働など）」が高い割合となっています。

【問 12】職場における性別による違いの有無

職場の性別による違いは、43.8%が「違いがある」としています。特に女性の 20 歳代、60 歳代、男性の 30 歳代、50 歳代では「違いがある」とする割合が約 5 割と、高くなっています。

違いの内容については、「昇進・昇級に差がある」「お茶くみ・雑用などの補助的な仕事を女性に割り

振る」「賃金に格差がある」が性別を問わず高い割合となっており、特に男性に比べて女性でその割合が高くなっています。

【問 13】生活における優先順位

生活の中の優先順位は、理想も現実も、男性は「仕事」が1番、女性は「家庭」が1番となっています。

【問 14、15】仕事以外の活動についての希望

現在働いている人が、仕事以外に自分自身の時間をより充実するためにしてみたいことは、「趣味」が男女ともに約7割と高くなっています。一方、「特にない」と答えている割合も男女ともに約1割みられます。

また、定年後の生活（セカンドライフ）でやりたいことについても、男女ともに「趣味」が最も高くなっています。男性では「仕事」とする回答も約1割みられます。

【問 16、17】実際に行っている仕事以外の活動

現在働いていない人が、自分自身の時間をより充実するためにしていることについては、「趣味」が男女ともに最も高く、男女ともに5割を超えています。「特に何もしていない」の割合は男性よりも女性で割合が高くなっています。また、男性は「地域活動」とする割合が女性よりも高くなっています。

今後より充実するためにしたいことは、男女ともに「趣味」が最も高くなっています。次いで、女性は「仕事」が、男性では「学習」が続いており、男女間でニーズの違いがみられます。

【問 18】豊田市が実施している取組についての評価と重要度

豊田市の取組では「1 妊婦の健康に対する取組」「16 高齢者の健康やいきがづくりへの取組」「3 保育サービスなど子育て支援の充実」で、「良い」とする割合がそれぞれ2割を超えており、母子保健、高齢者福祉、児童福祉分野での評価が高くなっています。

一方、「14 離職した女性に対する再チャレンジ支援など女性の就業継続支援」「15 ワーク・ライフ・バランスの理解促進」「6 家庭における男性の家事・育児参加の促進」において「悪い」とする割合が高く、女性の就労や、仕事と家庭の両立支援に関わるものが多くあがっています。

また、豊田市の男女共同参画社会の実現において重要だと思ふ取組では、「要介護者を支える家庭への支援体制」「保育サービスなど子育て支援の充実」が高い割合となっており、仕事と家庭生活を支える福祉関連の施策において、重要度が高くなっていることがわかります。

【問 19、20】男女共同参画についての理解の深まりに対する実感

この5年間の男女共同参画についての理解の深まりについて、理解が深まったと「思わない」割合が56.9%となっています。男性に比べて女性では「思わない」割合がやや高くなっています。

男女共同参画についての理解が深まったと感じる人に、その理由をたずねたところ、「喫煙・受動喫煙、感染症など、子どもを産む母体への危険性に関する理解が深まったこと」が62.4%と最も高く、次いで「結婚や出産で離職しない（仕事を続ける）女性が増えたこと」「男性（夫）が家事や育児をするようになったこと」が続いています。男女で差がみられるものは「自治区において男女の性別による活動の差がなくなってきたこと」で、男性の20.4%に対し、女性は7.8%にとどまっています。

【問 21】 行政情報の取得方法

行政の情報取得方法は、男女ともに「市の広報紙」「自治区回覧」の割合が高くなっており、身近な媒体が活用されていることがうかがえます。

【問 22】 意識啓発に向けて有効だと思う方法

行政が男女共同参画に関する意識啓発を推進する方法として有効な方法については、「地元メディア・情報誌及びホームページなどの情報発信」が 55.7%と最も高く、次いで「企業における教育・研修」「交流館などの学習講座」「学校行事にあわせた講習会の開催」と続いています。

意識調査結果からわかる豊田市の現状

○豊田市の男女共同参画に対する市民の意識は全国と比較して高いものの、家庭生活や地域活動などでは固定的な性別役割分担に基づく行動をとっていることが多く、理想と現実との間にギャップがあることがうかがえます。

○男女ともに約半数が、女性の望ましい働き方を「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」と考えています。また、「子どもができて仕事も続ける方がよい」と考えている人は、前回調査より多くなってはいるものの、全国と比較して低い状況となっています。豊田市では、結婚や出産を機に仕事を離れ、家事や育児に専念したいという意向を持つ女性が多い傾向にあります。

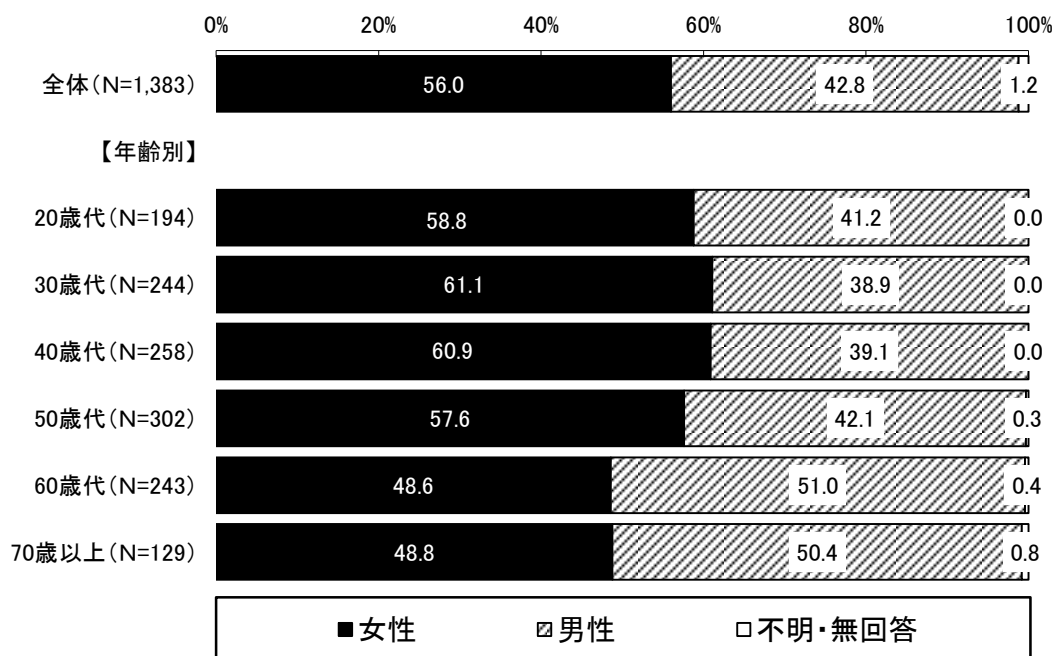
○豊田市が行っている男女共同参画社会の実現に向けた取組については、その内容を知らない人が多くなっています。これまでの取組で「悪い」と評価された項目と今後重要だと思う項目とは重なるものも多く、なかでも「要介護者を支える家庭への支援体制」や「女性の就業継続支援」などが、男女共同参画の実現に向けて市民から求められています。

III 調査結果

1 回答者の属性

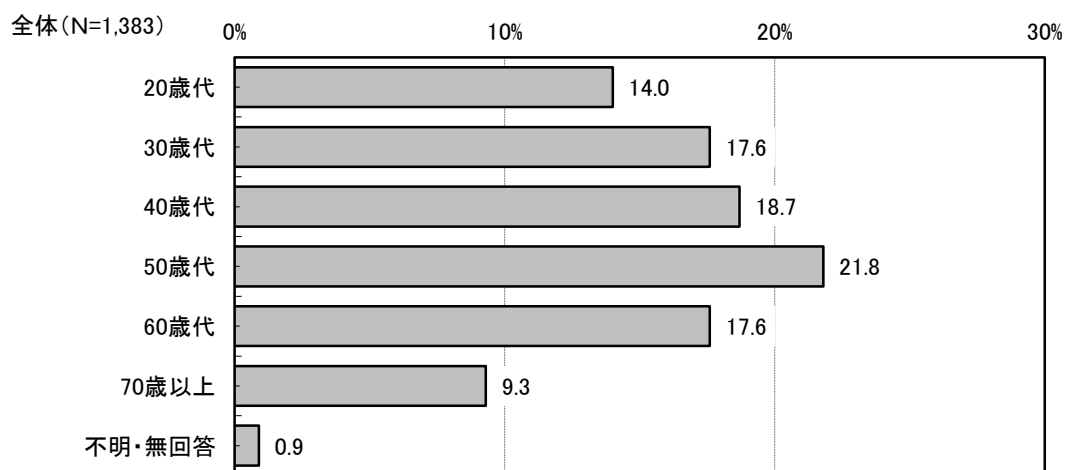
F1 性別（単数回答）

回答者の性別は、「女性」が56.0%、「男性」が42.8%となっています。



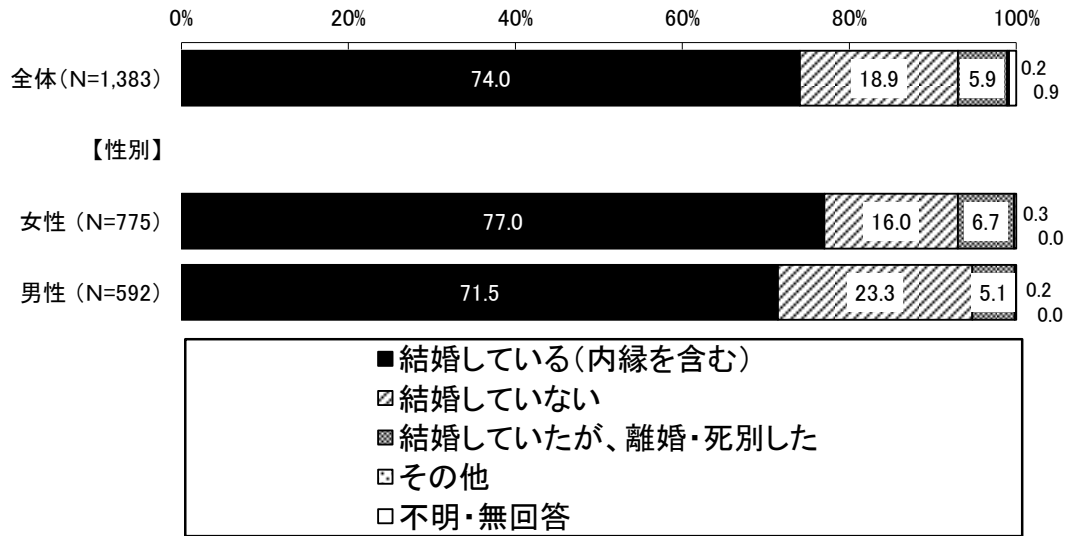
F2 年齢（単数回答）

回答者の年齢は、「50歳代」が21.8%と最も高く、次いで「40歳代」が18.7%、「30歳代」「60歳代」がともに17.6%となっています。



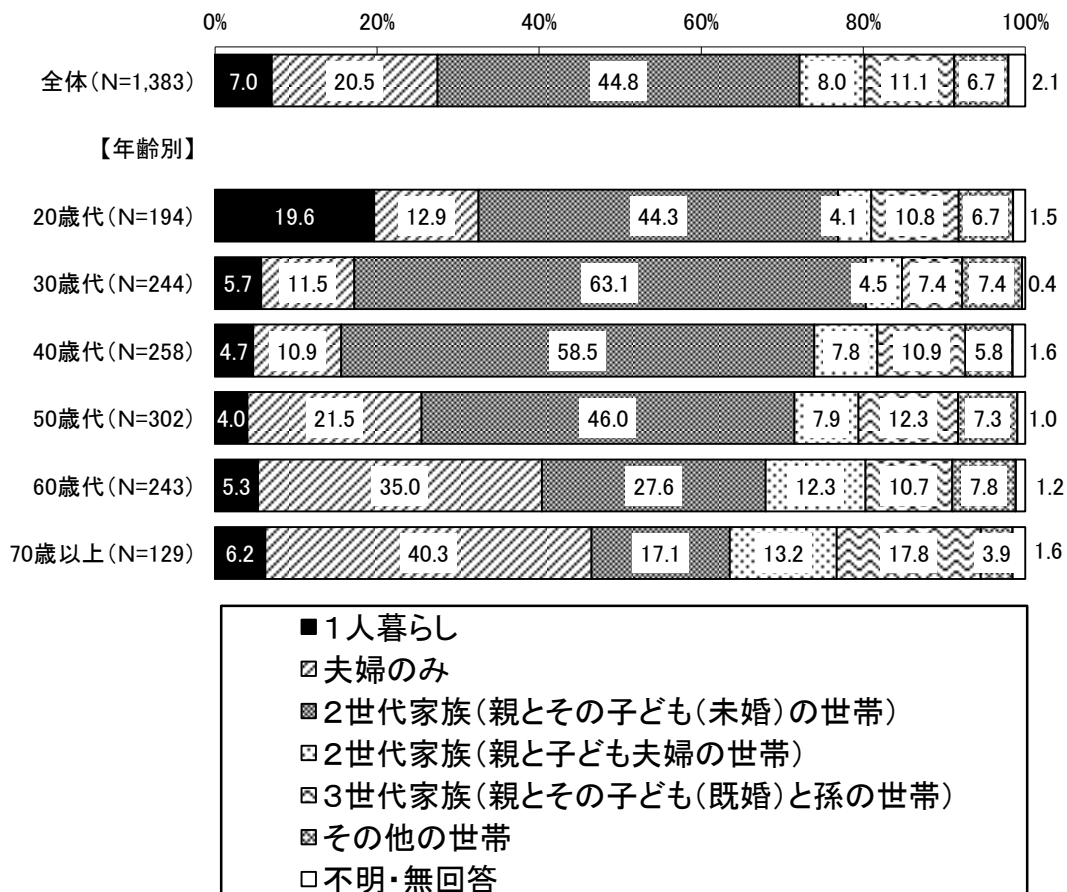
F3 未婚・既婚の別（単数回答）

回答者の未婚・既婚の別は、「結婚している（内縁を含む）」が74.0%と最も高く、次いで「結婚していない」が18.9%となっています。



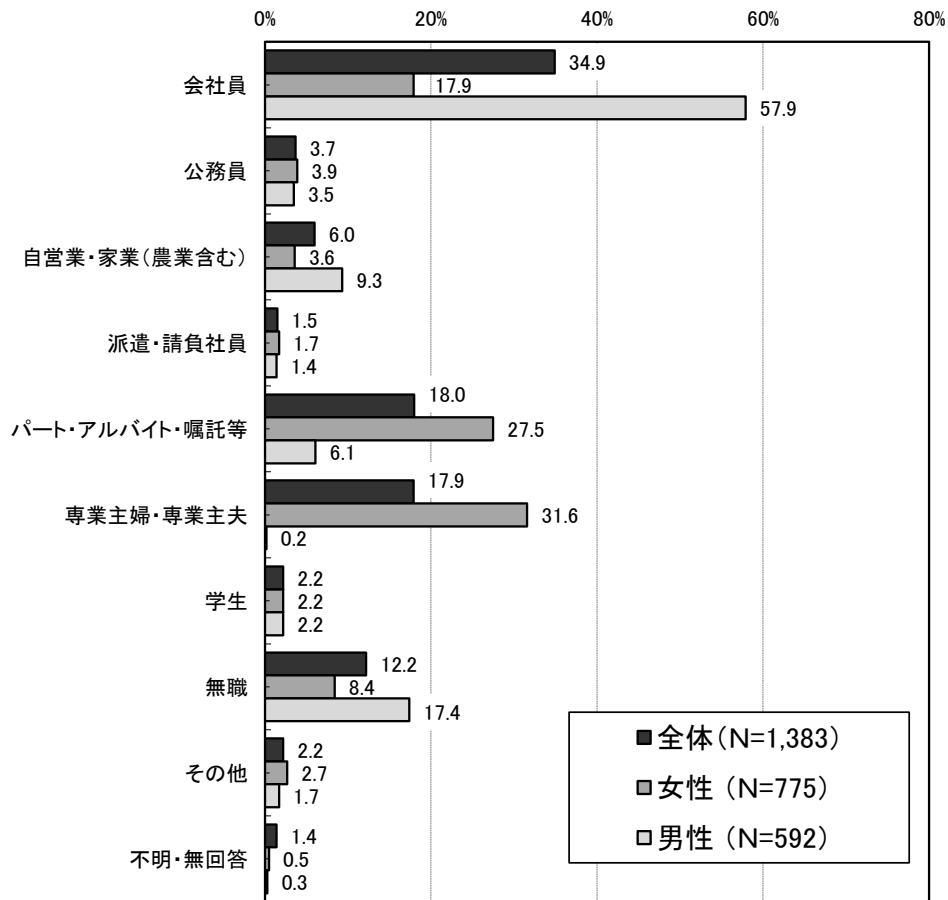
F4 家族構成（単数回答）

回答者の家族構成は、「2世代家族（親とその子ども（未婚）の世帯）」が44.8%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が20.5%となっています。年齢別にみると、20歳代から50歳代までは「2世代家族（親とその子ども（未婚）の世帯）」の割合が高くなっていますが、60歳代、70歳以上では「夫婦のみ」の割合が高くなっています。



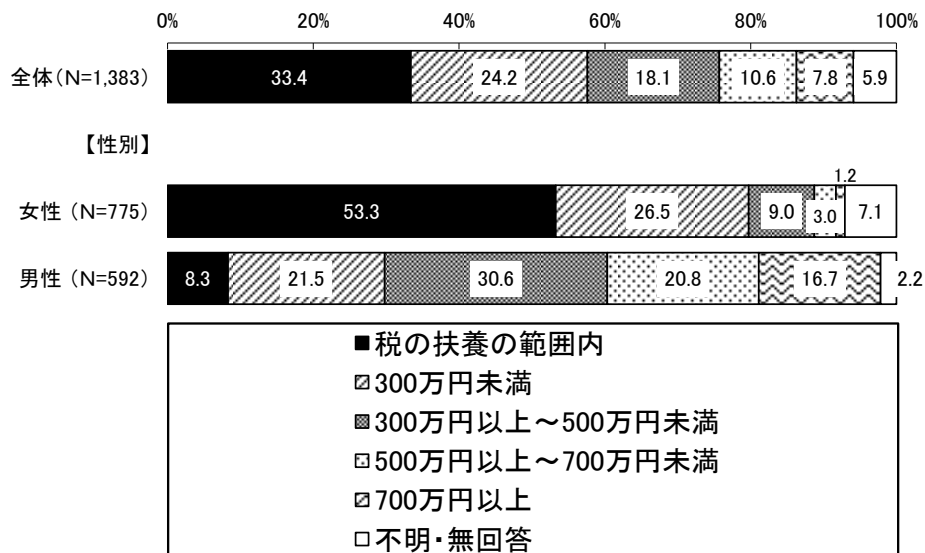
F5 回答者の職業（単数回答）

回答者の職業は、女性では「専業主婦」が31.6%と最も高く、次いで「パート・アルバイト・嘱託等」が27.5%となっています。男性では「会社員」が57.9%と最も高く、次いで「無職」が17.4%となっています。



F6 回答者の年間収入額＜年金収入等含む＞（単数回答）

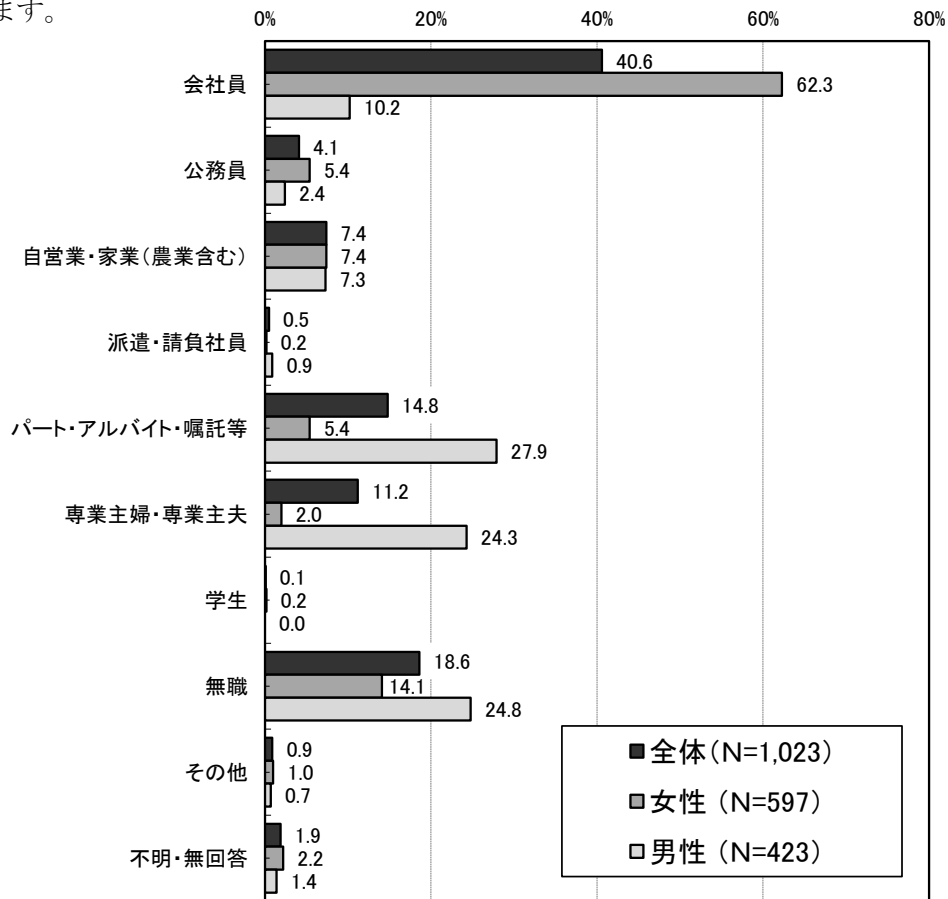
回答者の年間収入額は、女性では「税の扶養の範囲内」が53.3%と半数以上を占めています。男性では「300万円以上～500万円未満」が30.6%と最も高く、次いで「300万円未満」が21.5%となっています。



【F3で「結婚している（内縁を含む）」と回答した方のみ】

F7 配偶者の職業（単数回答）

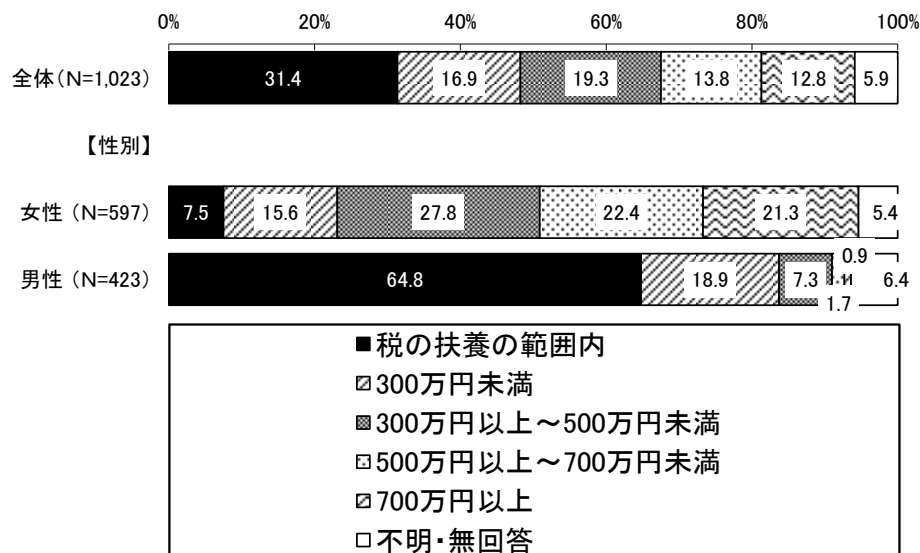
回答者の配偶者の職業は、女性では「会社員」が62.3%と最も高く、次いで「無職」が14.1%となっています。男性では「パート・アルバイト・嘱託等」が27.9%と最も高く、次いで「専業主婦」が24.3%となっています。



【F3で「結婚している（内縁を含む）」と回答した方のみ】

F8 配偶者の年間収入額＜年金収入等含む＞（単数回答）

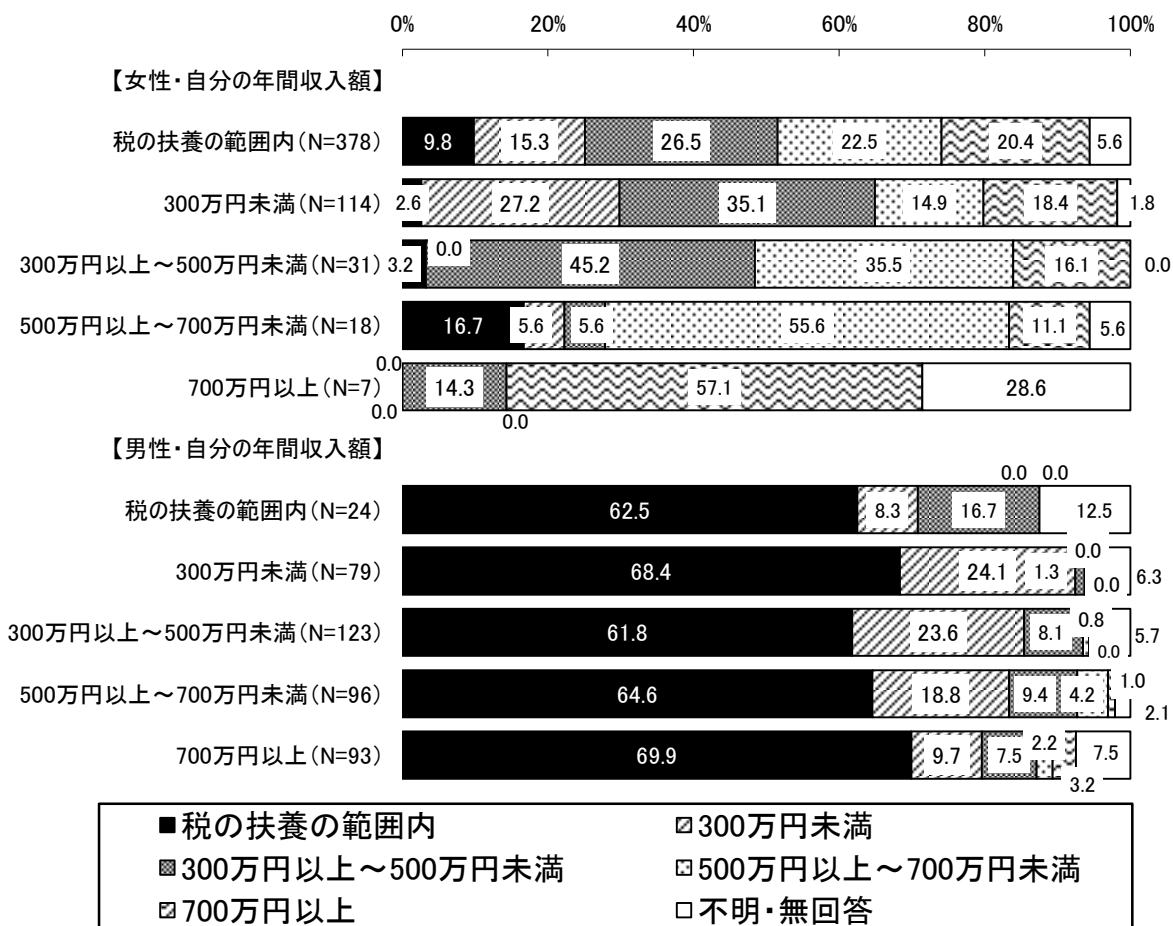
回答者の配偶者の年間収入額は、女性では「300万円以上～500万円未満」が27.8%、男性では「税の扶養の範囲内」が64.8%と、それぞれ最も高くなっています。



【F3で「結婚している（内縁を含む）」と回答した方のみ】

※自分の年間収入額と配偶者の年間収入額

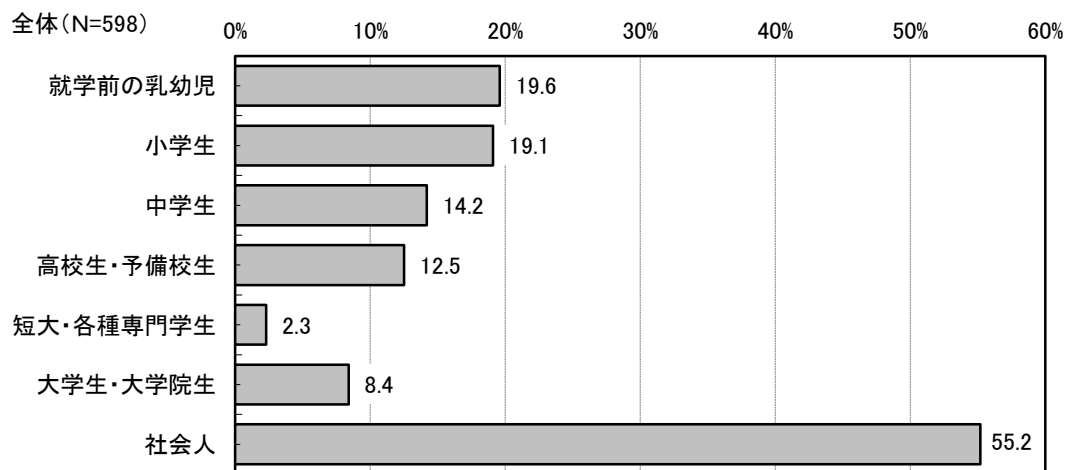
回答者の年間収入額別に配偶者の年間収入額をみると、女性では「税の扶養の範囲内」「300万円未満」「300万円以上～500万円未満」で「300万円以上～500万円未満」が高くなっています。男性では回答者の年間収入額にかかわらず、配偶者の年間収入額は「税の扶養の範囲内」が最も高くなっています。



【子どものいる方のみ】

F9 子どもの年代（単数回答）

回答者の子どもの年代は、「社会人」が55.2%と最も高くなっています。



※不明・無回答を除いて集計

2 男女の平等観について

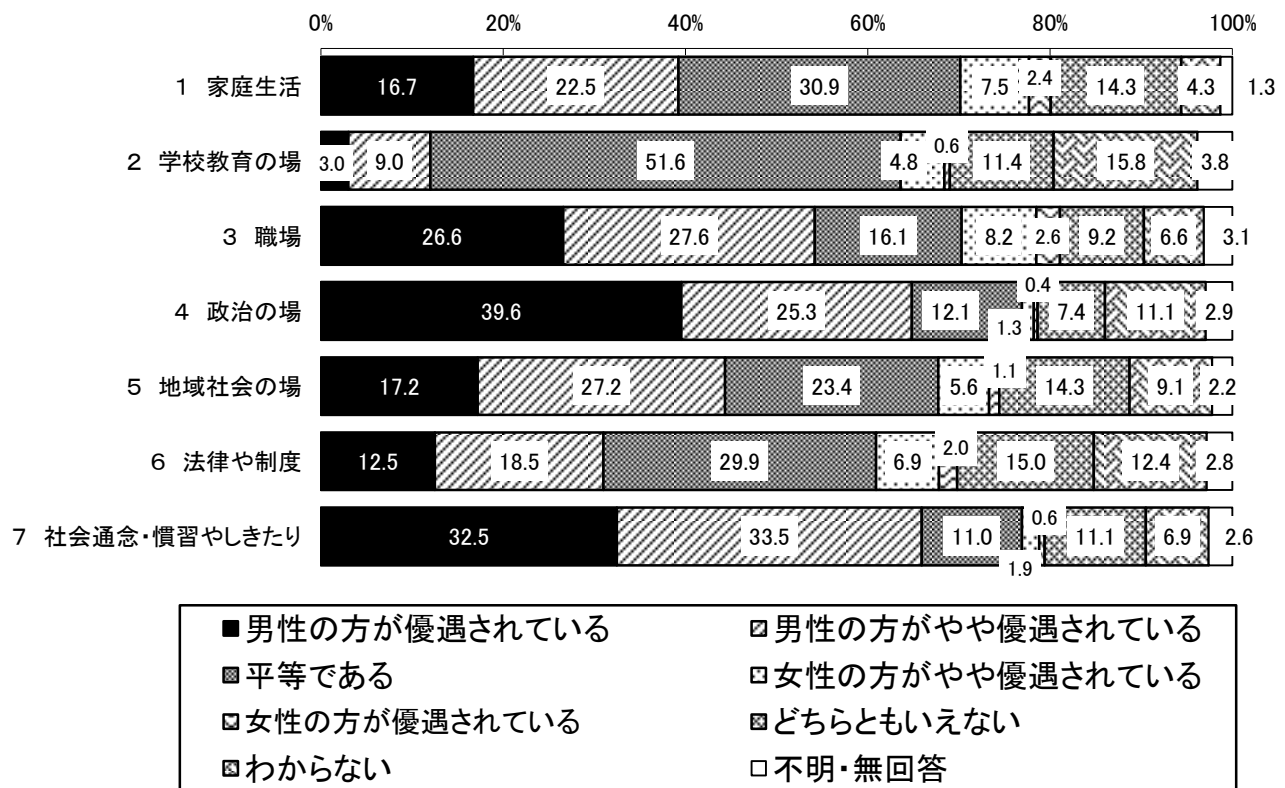
問1 1～5の分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。また、6、7にあげた社会全体の仕組みにおいてはどうなっていると思いますか。(単数回答)

問1の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『男性優遇』…「男性の方が優遇されている」と「男性の方がやや優遇されている」を合算

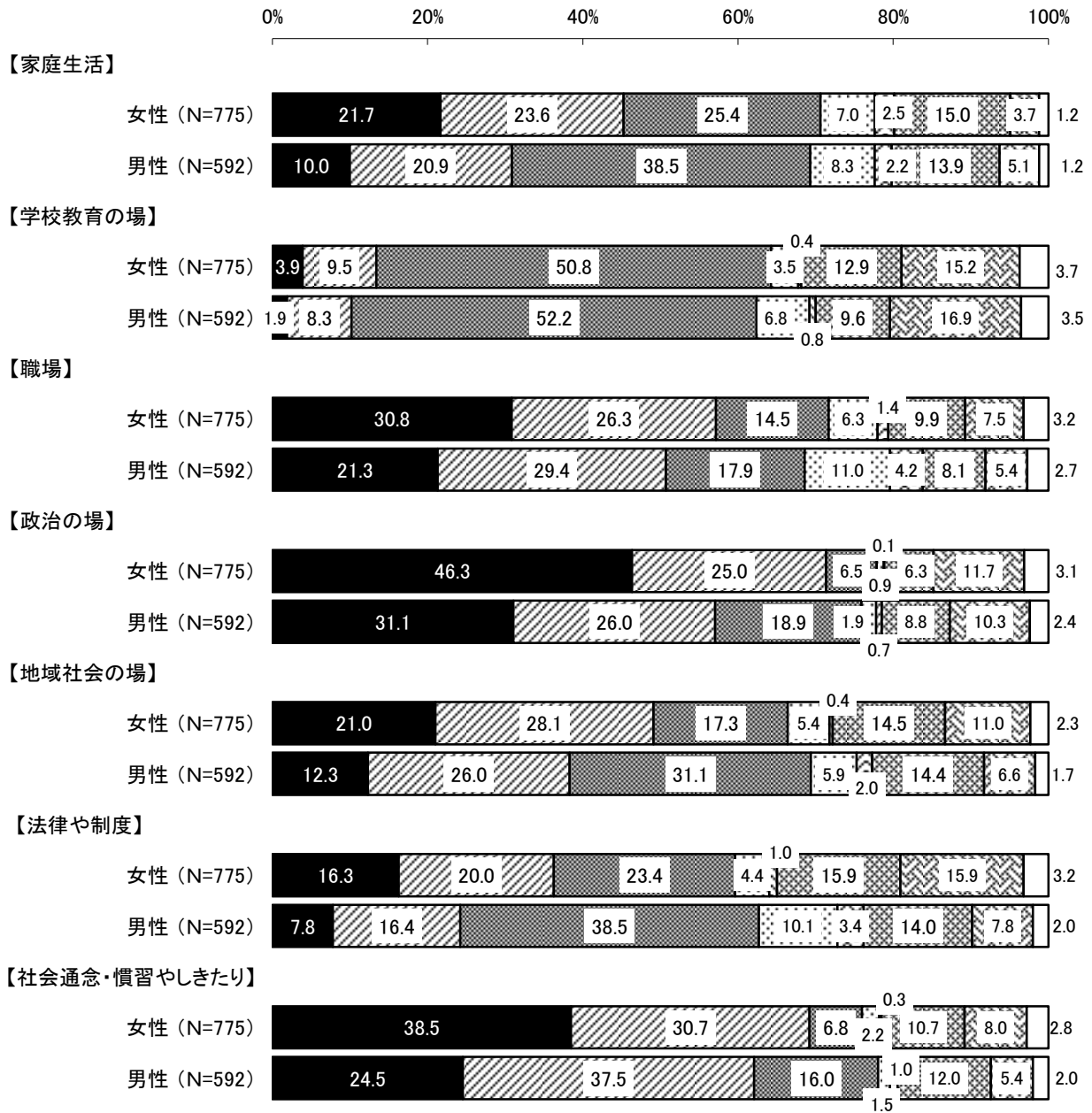
『女性優遇』…「女性の方が優遇されている」と「女性の方がやや優遇されている」を合算

各分野での男女の平等意識について、最も「平等である」割合が高い分野は「2 学校教育の場」となっています。『男性優遇』が高い分野は、「4 政治の場」「7 社会通念・慣習やしきたり」となっており、ともに『男性優遇』の割合が60%を超えています。



男女別比較

男女別でみると、すべての分野において、女性は男性に比べて『男性優遇』の割合が高くなっています。男性では女性に比べて「平等である」割合が高くなっています。

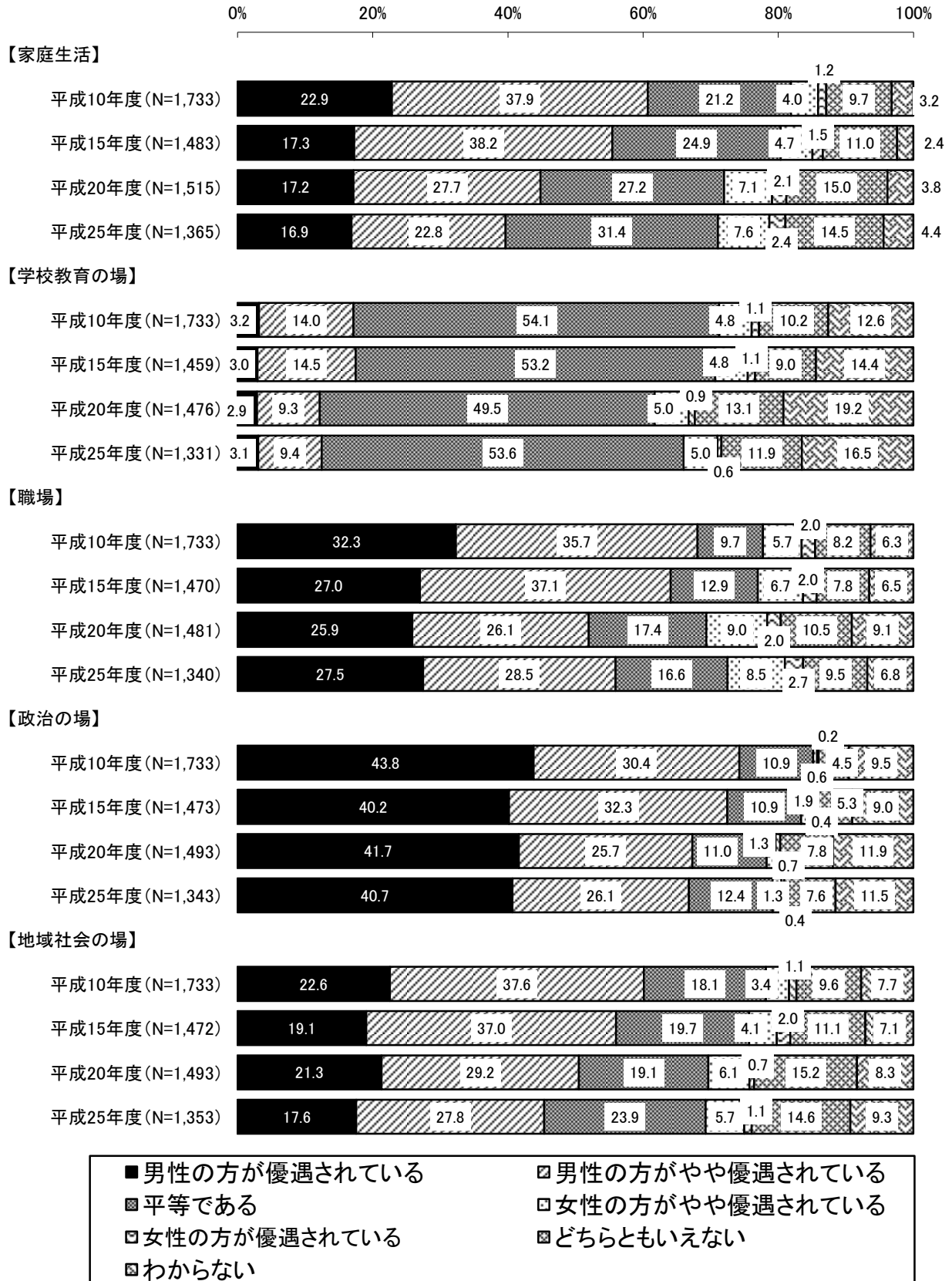


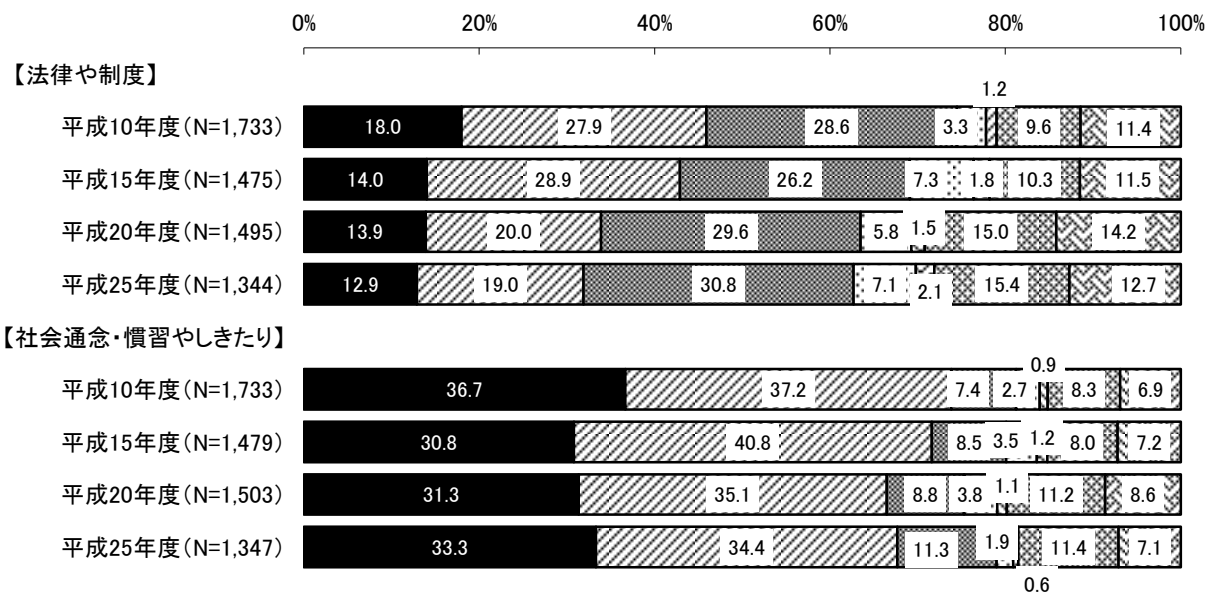
■ 男性の方が優遇されている
 ■ 平等である
 □ 女性の方が優遇されている
 □ わからない

□ 男性の方がやや優遇されている
 □ 女性の方がやや優遇されている
 □ どちらともいえない
 □ 不明・無回答

経年比較

各分野での男女の平等意識を経年で比較すると、多くの分野で「平等である」割合が高まり、『男性優遇』の割合が低くなっています。しかし、「職場」と「社会通念・慣習やしきたり」では、平成20年度の調査から比べて『男性優遇』の割合がやや高まっています。



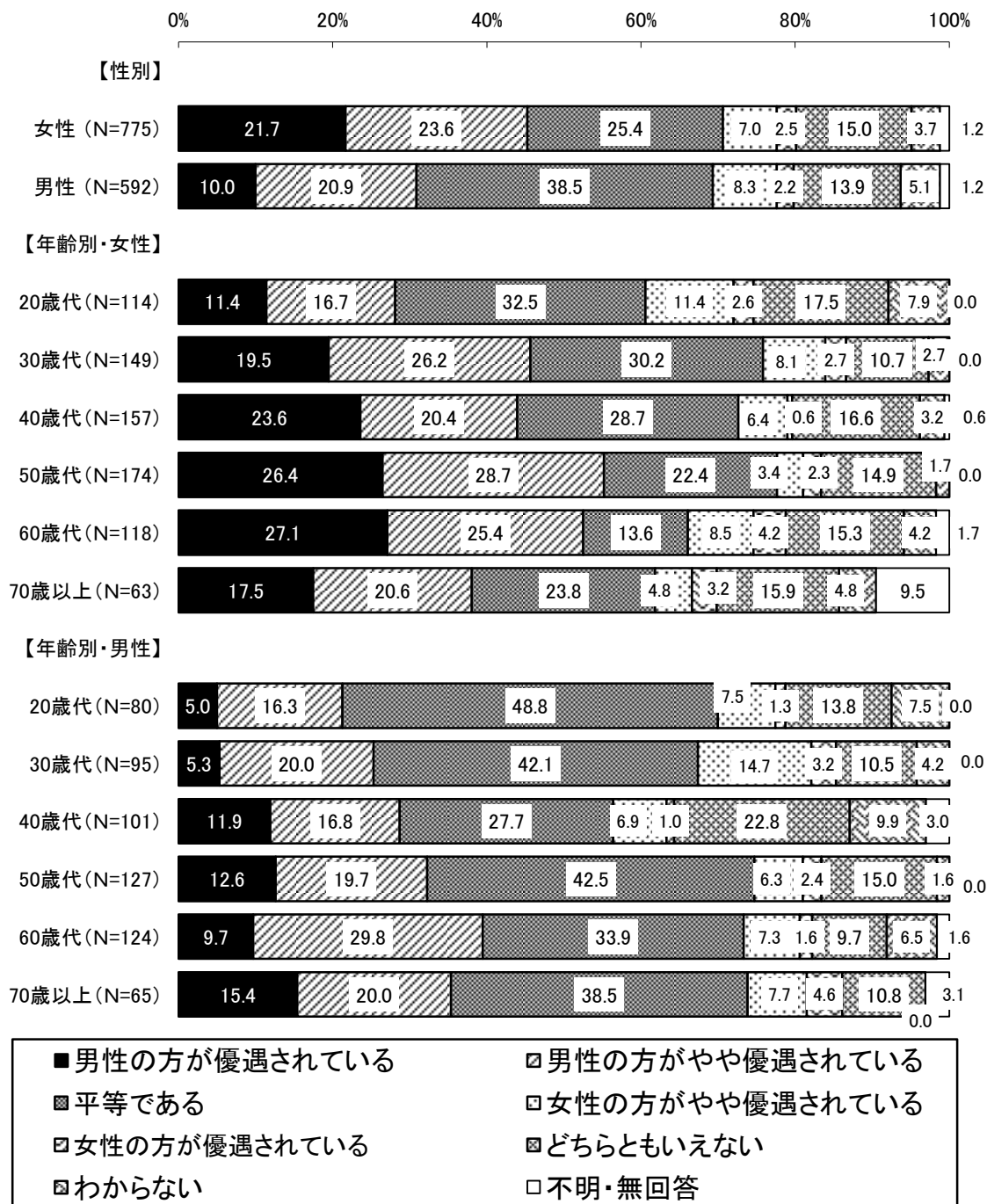


- | | |
|----------------|------------------|
| ■ 男性の方が優遇されている | □ 男性の方がやや優遇されている |
| ■ 平等である | □ 女性の方がやや優遇されている |
| □ 女性の方が優遇されている | □ どちらともいえない |
| □ わからない | |

男女の平等観 項目別集計結果

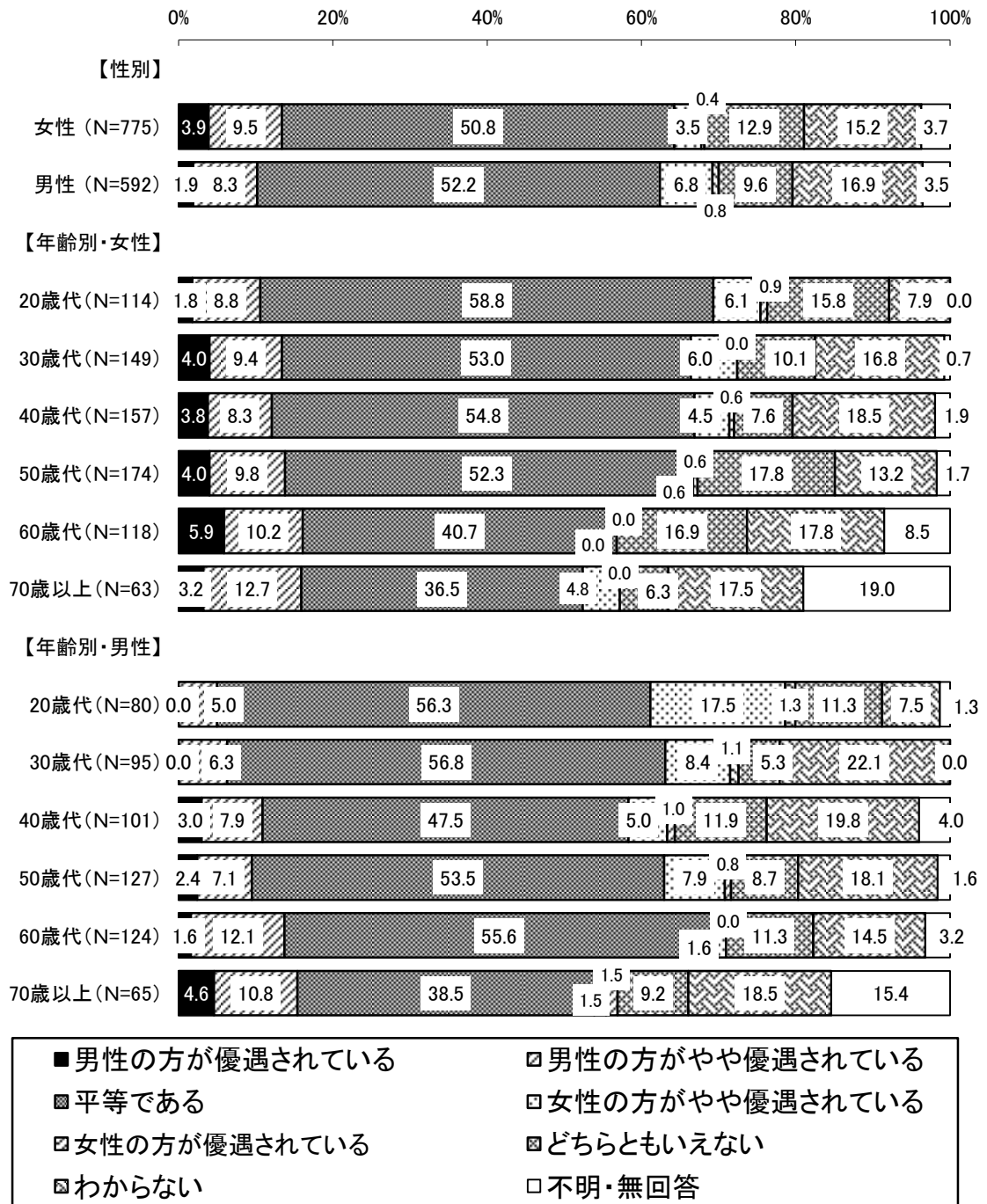
【家庭生活】

家庭生活における男女の平等意識については、女性の30歳代以上で『男性優遇』の割合が高くなっています。男性では20歳代、30歳代、50歳代で「平等である」が4割を超え、高くなっています。



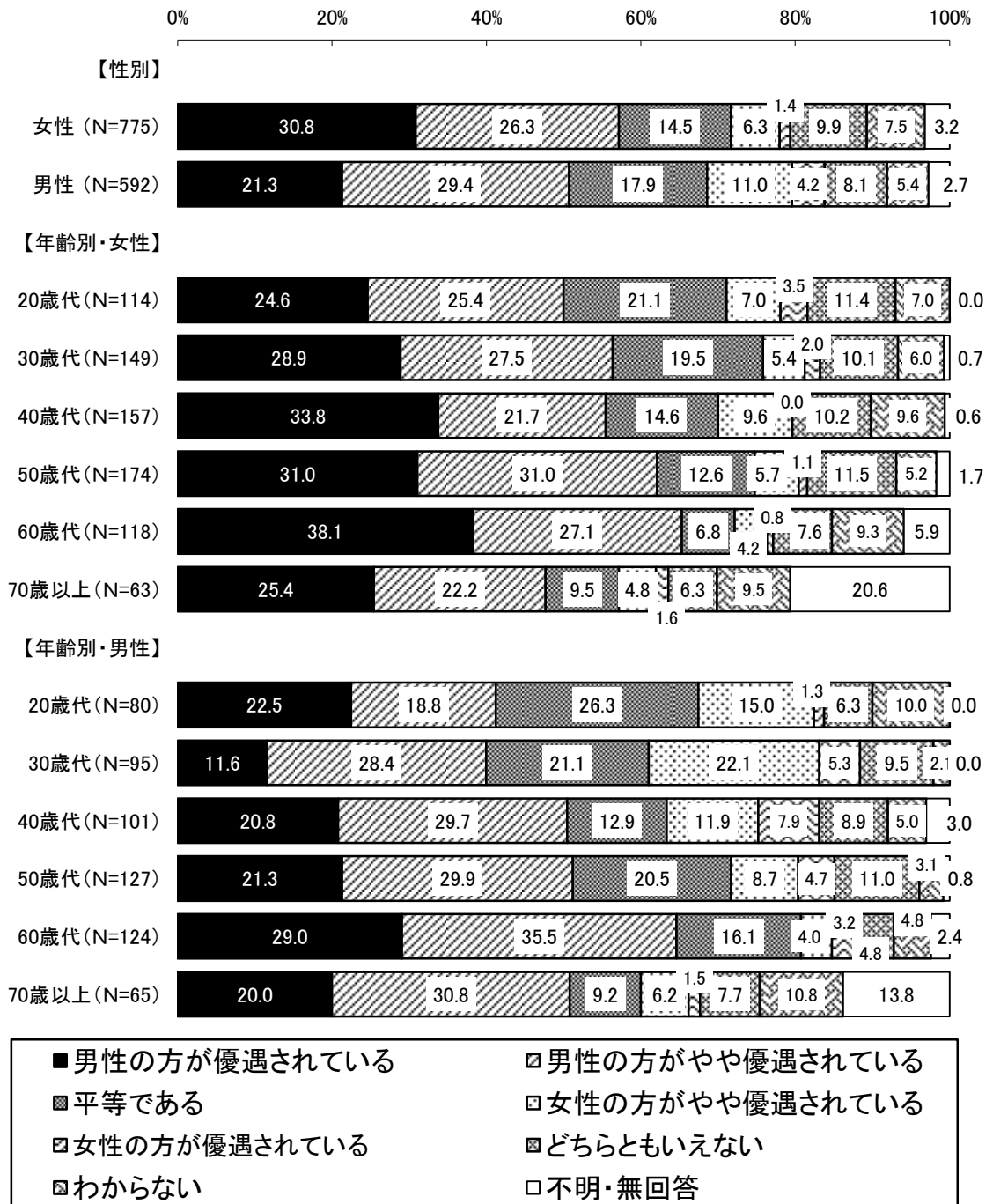
【学校教育の場】

学校教育の場における男女の平等意識については、男女ともに、いずれの年齢においても「平等である」割合が高くなっています。



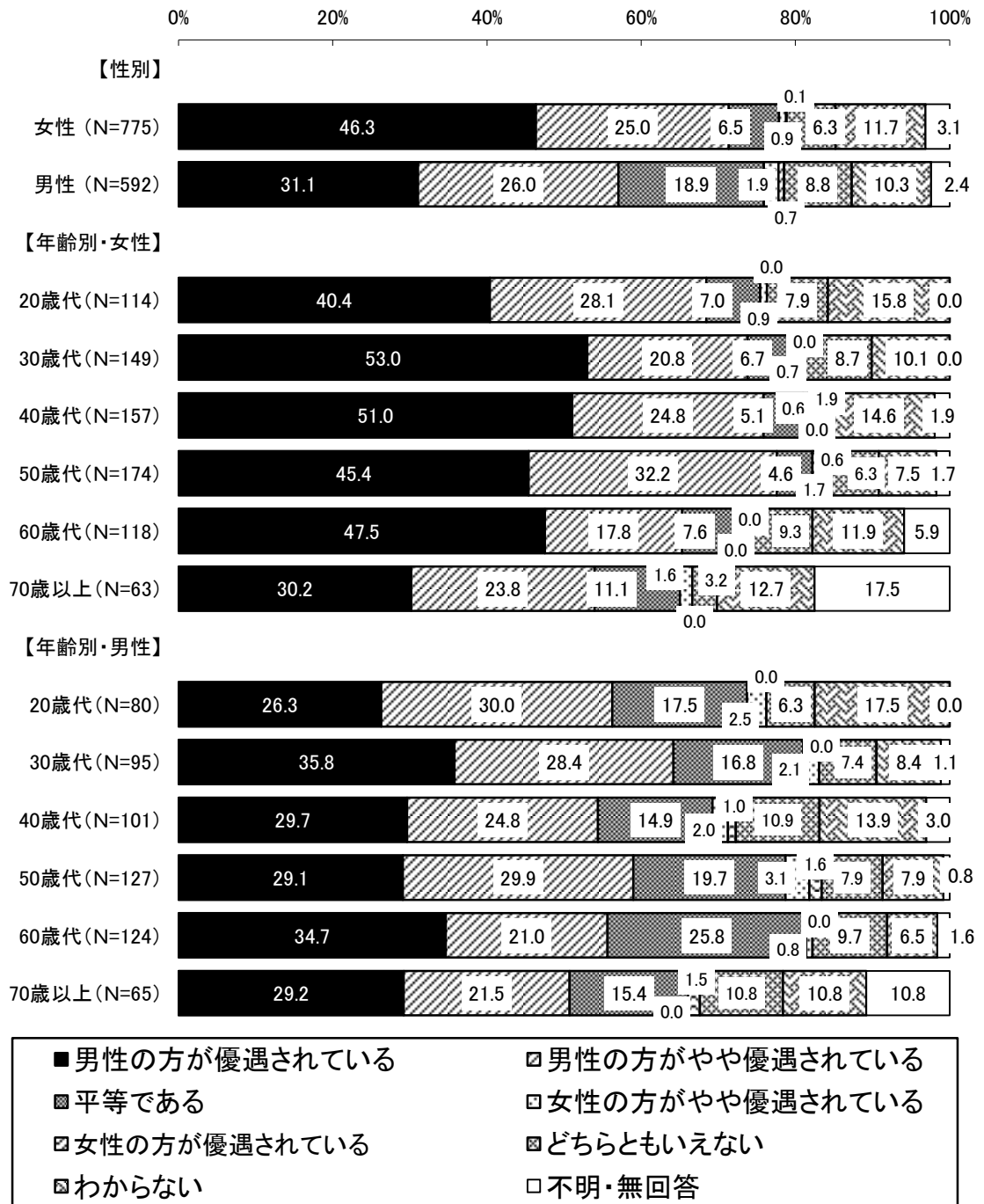
【職場】

職場における男女の平等意識については、女性では60歳代まで年齢が上がるにつれ『男性優遇』の割合が高くなる傾向にあります。男性では60歳代で『男性優遇』の割合が高くなっています。



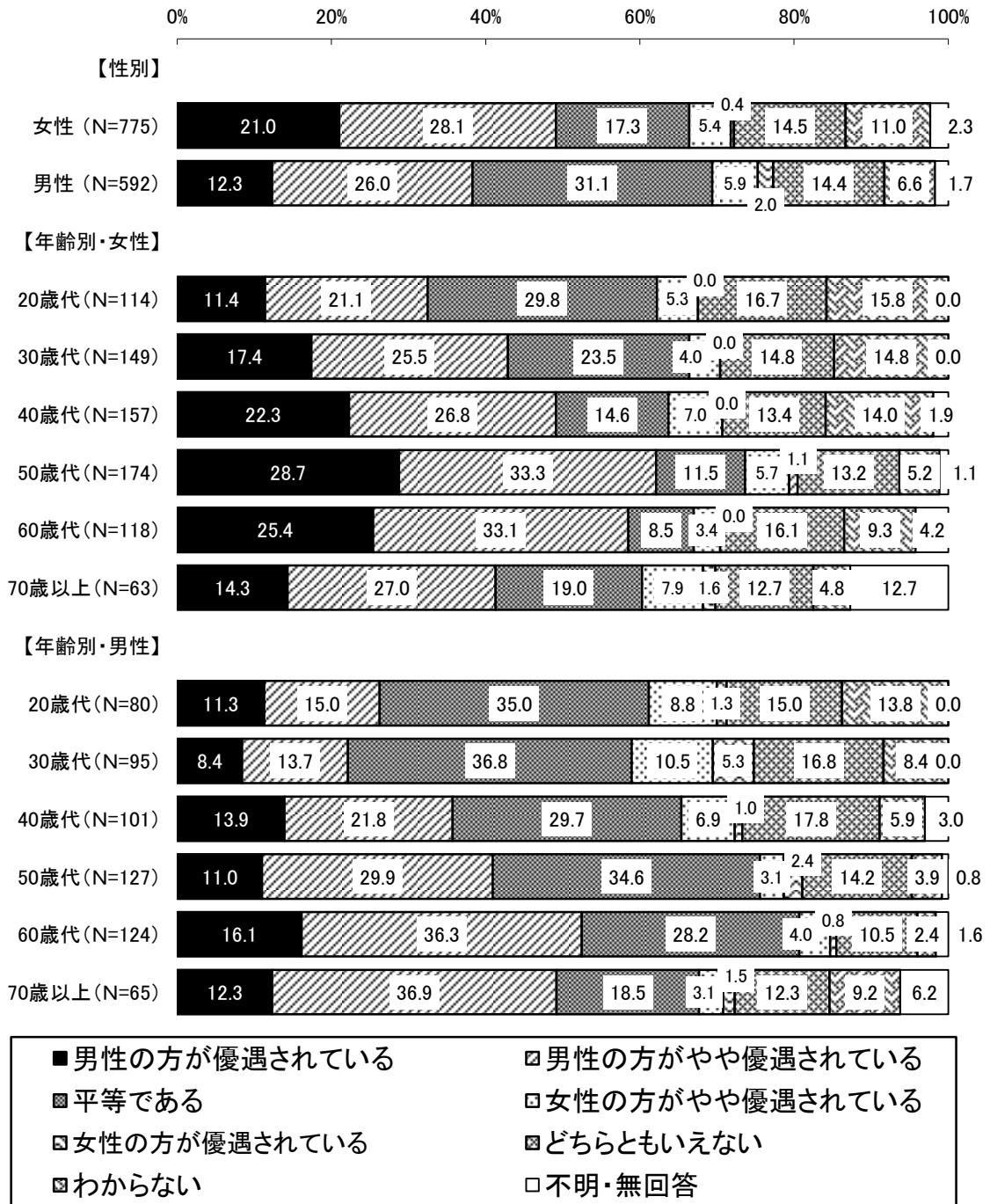
【政治の場】

政治の場における男女の平等意識については、性別、年齢にかかわらず『男性優遇』の割合が高くなっています。



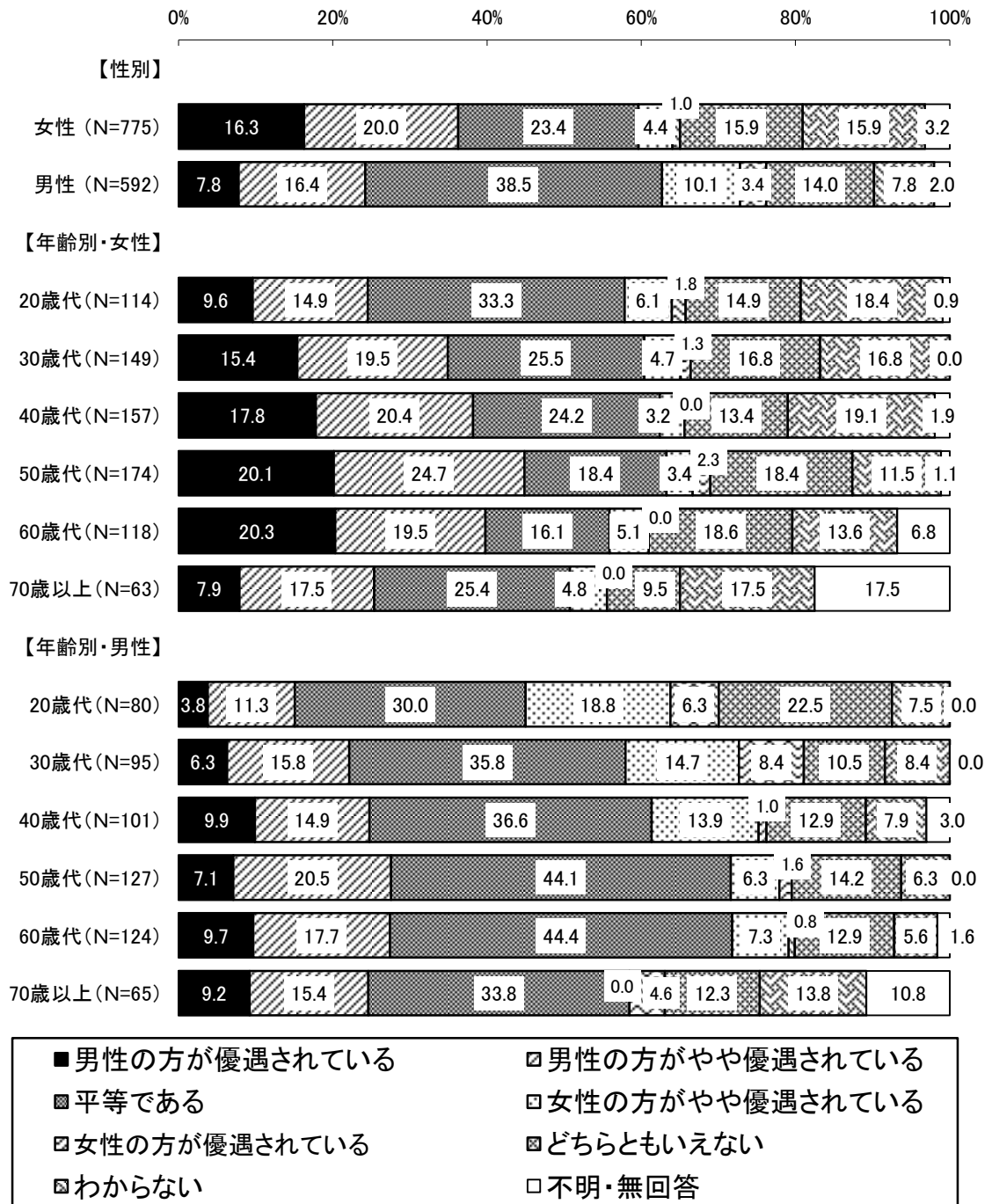
【地域社会の場】

地域社会の場における男女の平等意識については、女性の40歳代、50歳代、60歳代で、男性の60歳代、70歳以上で『男性優遇』の割合が高くなっています。



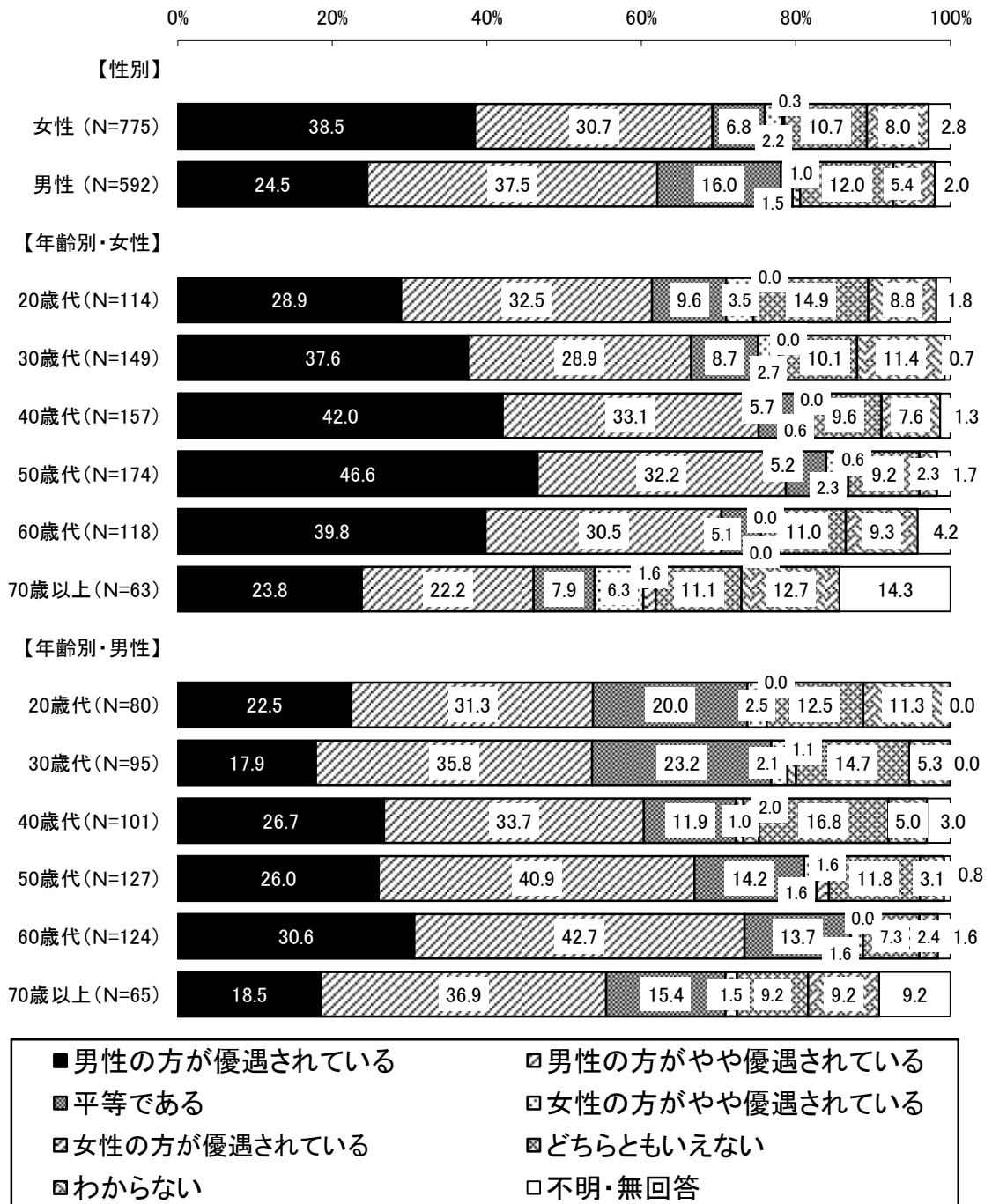
【法律や制度】

法律や制度における男女の平等意識については、女性の20歳代、30歳代、40歳代で「平等である」割合が高くなっています。男性はすべての年齢層で「平等である」割合が高くなっています。



【社会通念・慣習やしきたり】

社会通念・慣習やしきたりにおける男女の平等意識については、女性では50歳代まで、男性では60歳代まで年齢が上がるにつれ『男性優遇』の割合が高くなっています。



3 男女の関わり・役割分担について

問2 男女の関わりに関する以下の考え方や行動について、あなたはどのように考えますか。
 (1) 1～8それぞれについて、あなたはどのように考えますか。(単数回答)

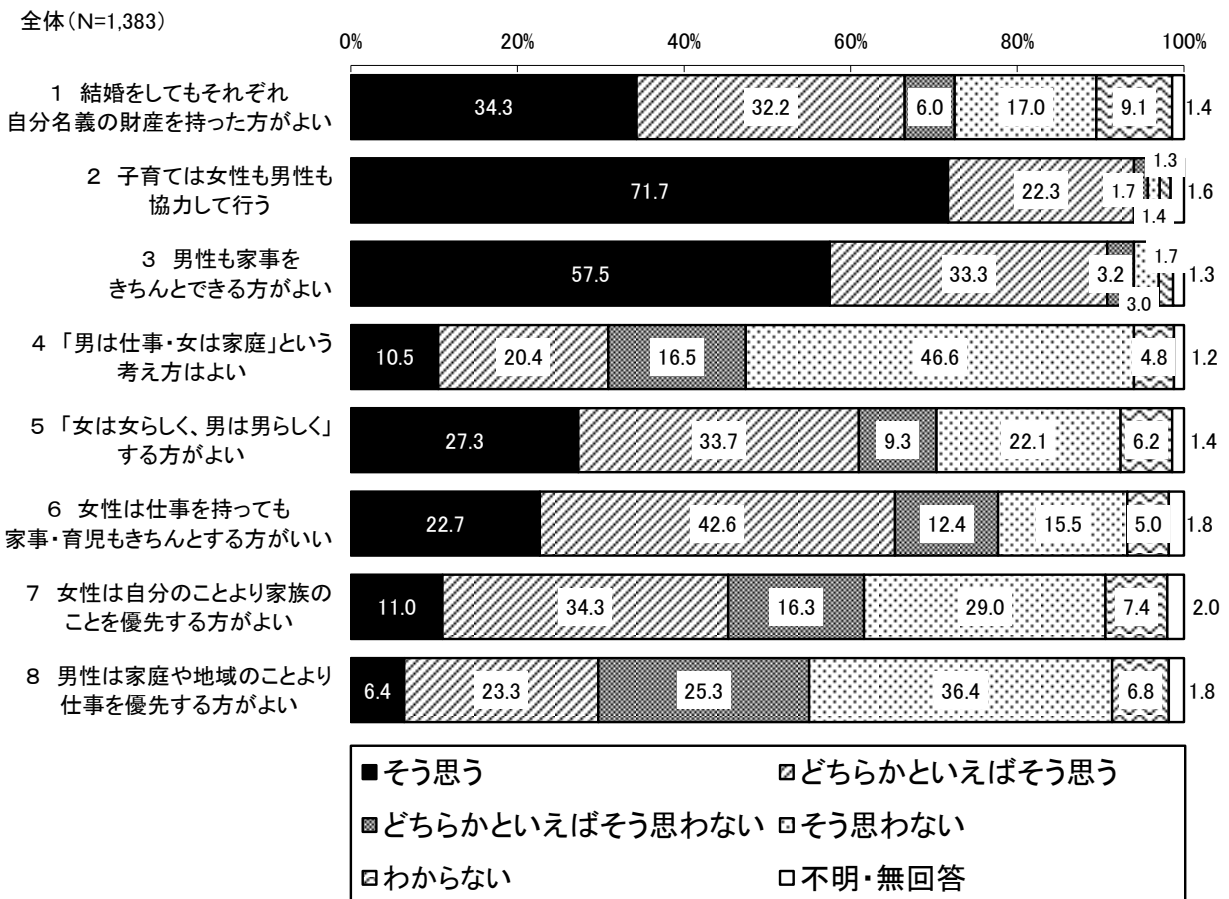
問2(1)の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『賛成』…「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合算

『反対』…「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合算

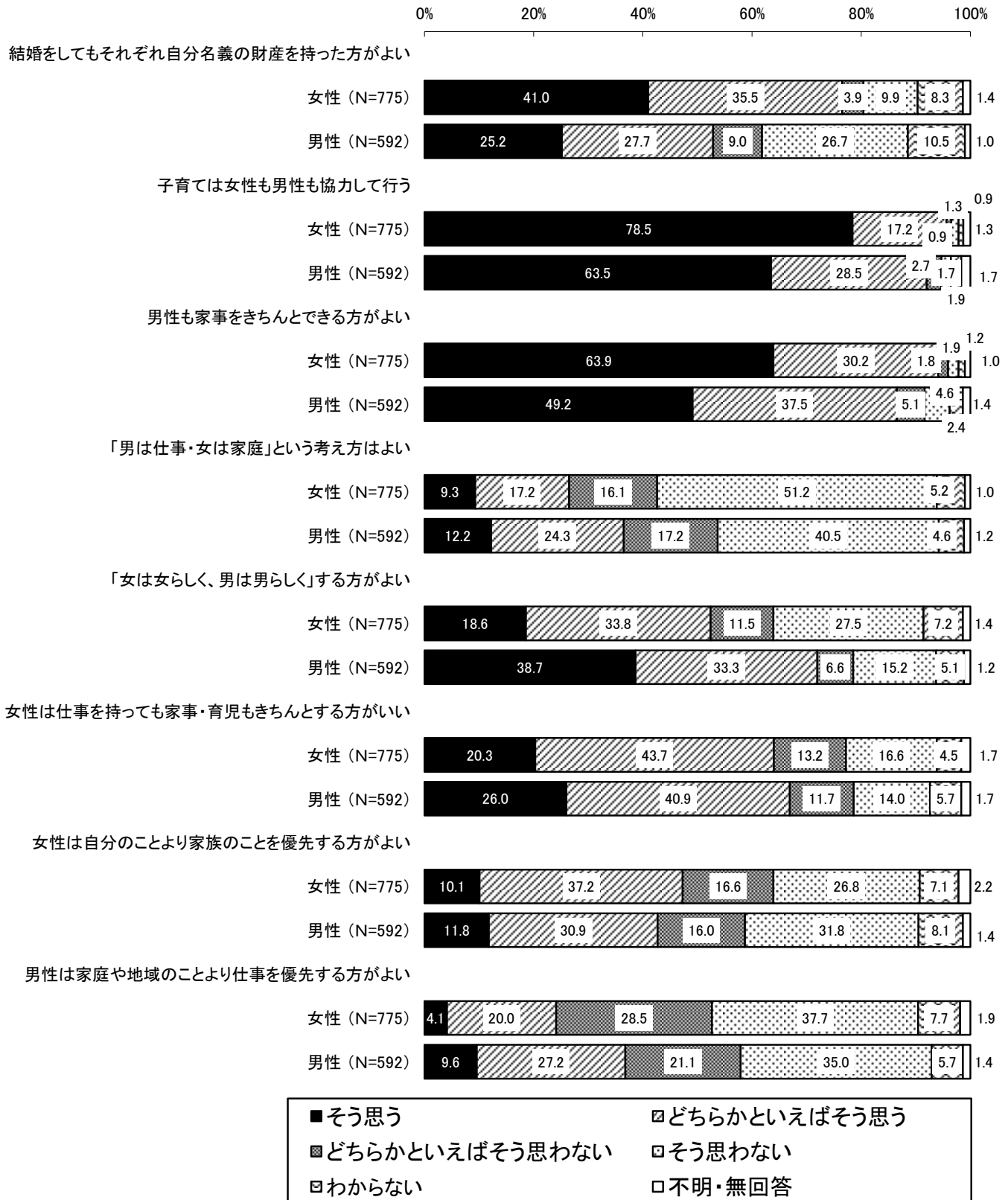
男女の関わり・役割分担についての考えでは、「2 子育ては女性も男性も協力して行う」「3 男性も家事をきちんとできる方がよい」で『賛成』がともに90%を超え、高くなっています。

『反対』の割合が高い項目は「4 「男は仕事・女は家庭」という考え方はよい」と「8 男性は家庭や地域のことより仕事を優先する方がよい」となっています。



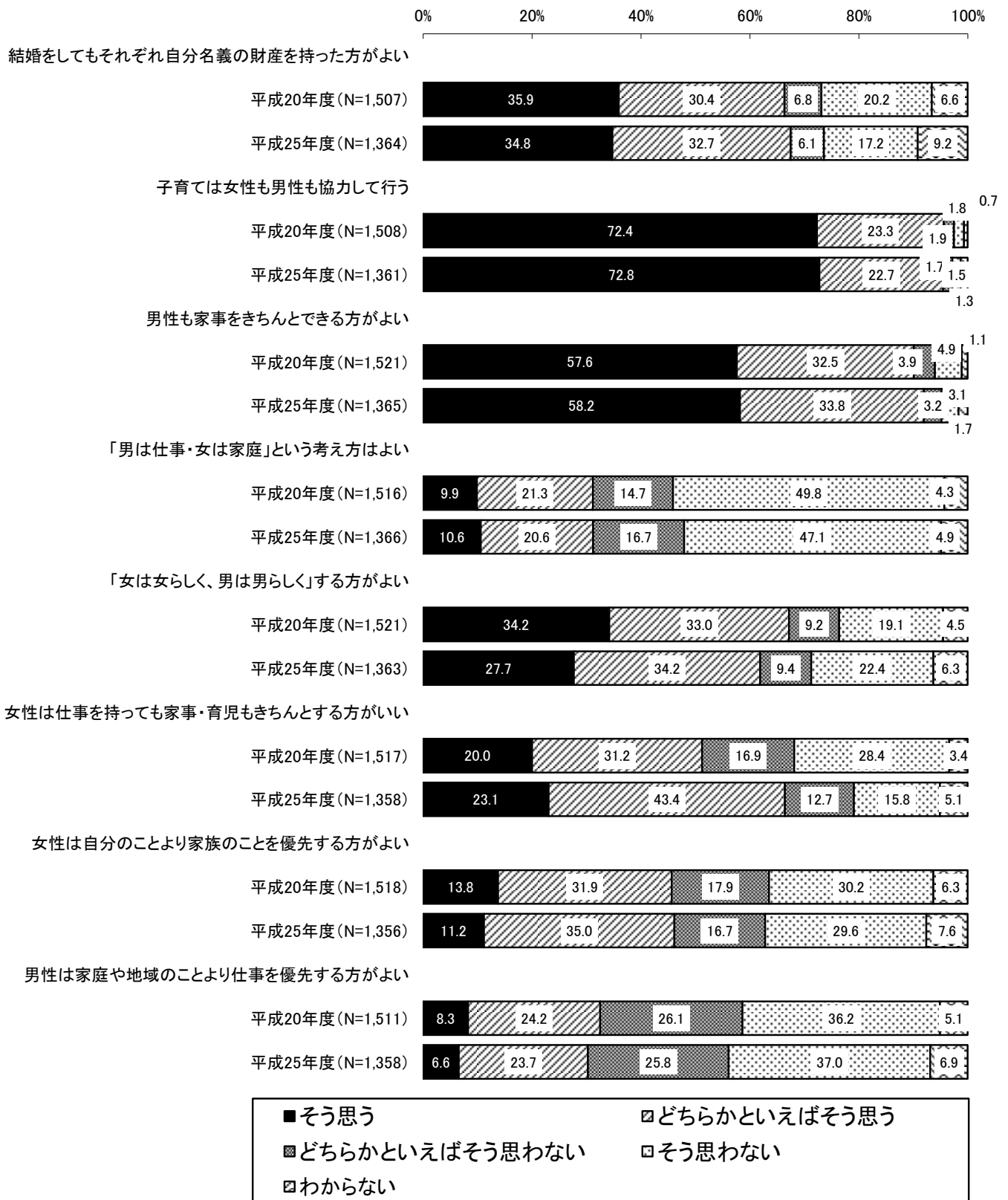
男女別比較

男女別でみると、女性と男性で最も差が大きい項目は「結婚をしてもそれぞれ自分名義の財産を持った方がよい」となっており、『賛成』の割合は、女性で 76.5%であるのに対し、男性では 52.9%となっています。



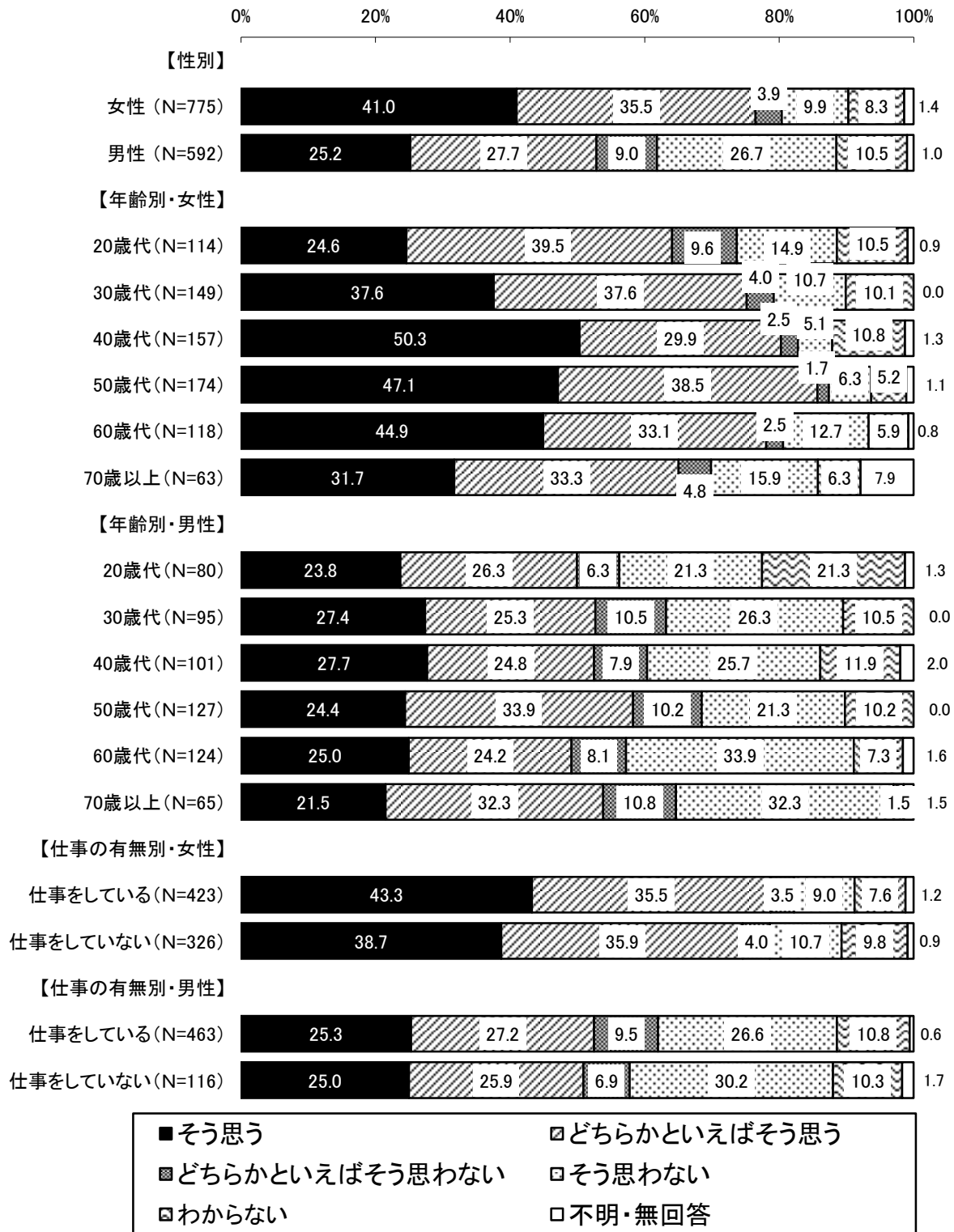
経年比較

男女の関わり・役割分担についての考えを経年で比較すると、平成20年度調査と比べて「女性は仕事を持って家事・育児もきちんとする方がいい」において、『賛成』の割合が高まっています。



【1 結婚をしてもそれぞれ自分名義の財産を持った方がよい】

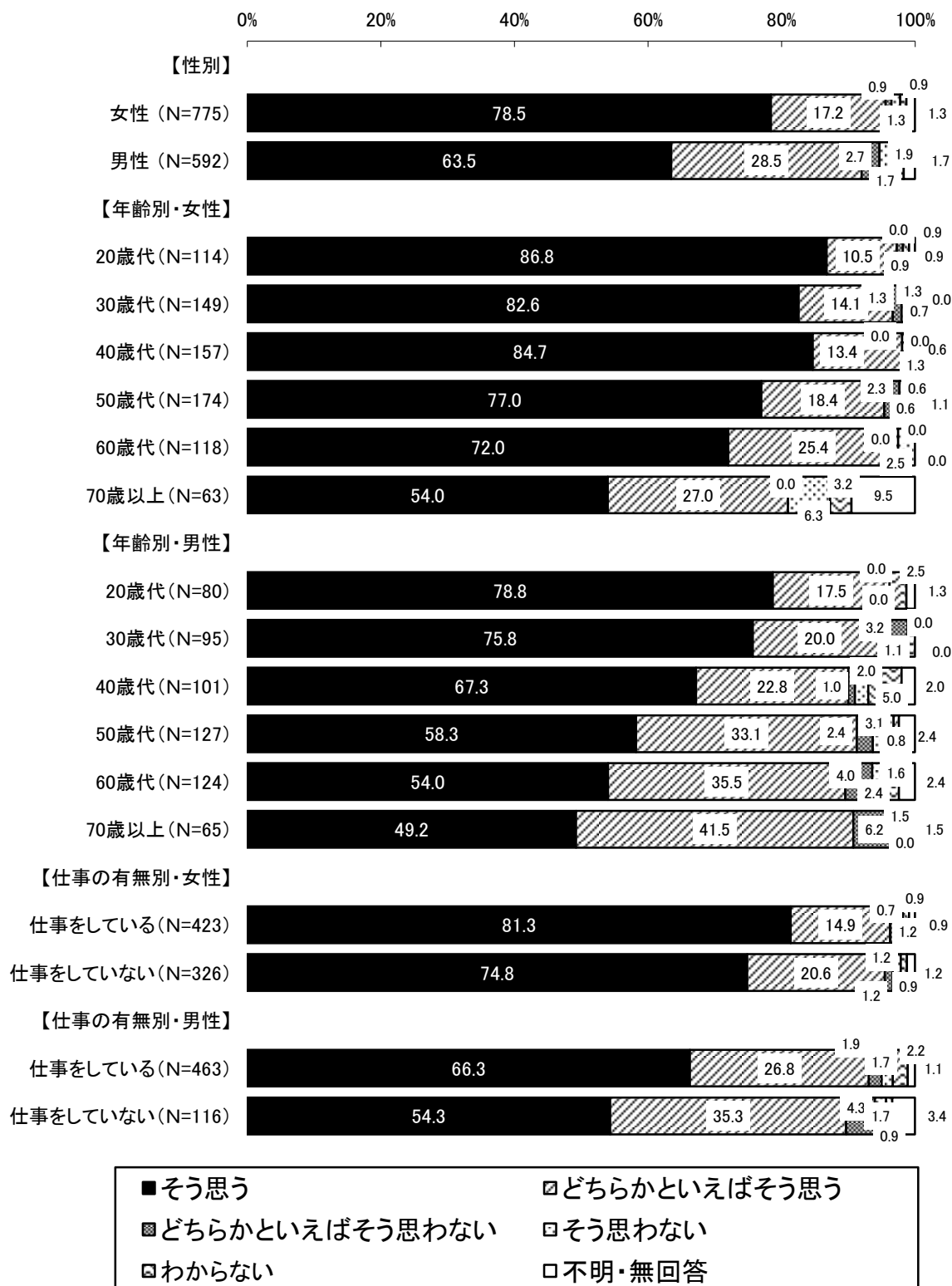
「結婚をしてもそれぞれ自分名義の財産を持った方がよい」という考えについては、女性の40歳代、50歳代、60歳代で「そう思う」割合が高くなっています。また、仕事の有無別でみると、女性では仕事をしている人で「そう思う」割合が高くなっています。



※仕事の有無別のクロス集計における「仕事をしている」は、F5の設問で「会社員」「公務員」「自営業・家業（農業含む）」「派遣・請負社員」「パート・アルバイト・嘱託等」のいずれかと回答した人を、「仕事をしていない」は、F5の設問で「専業主婦・専業主夫」「学生」「無職」のいずれかと回答した人を分類している。

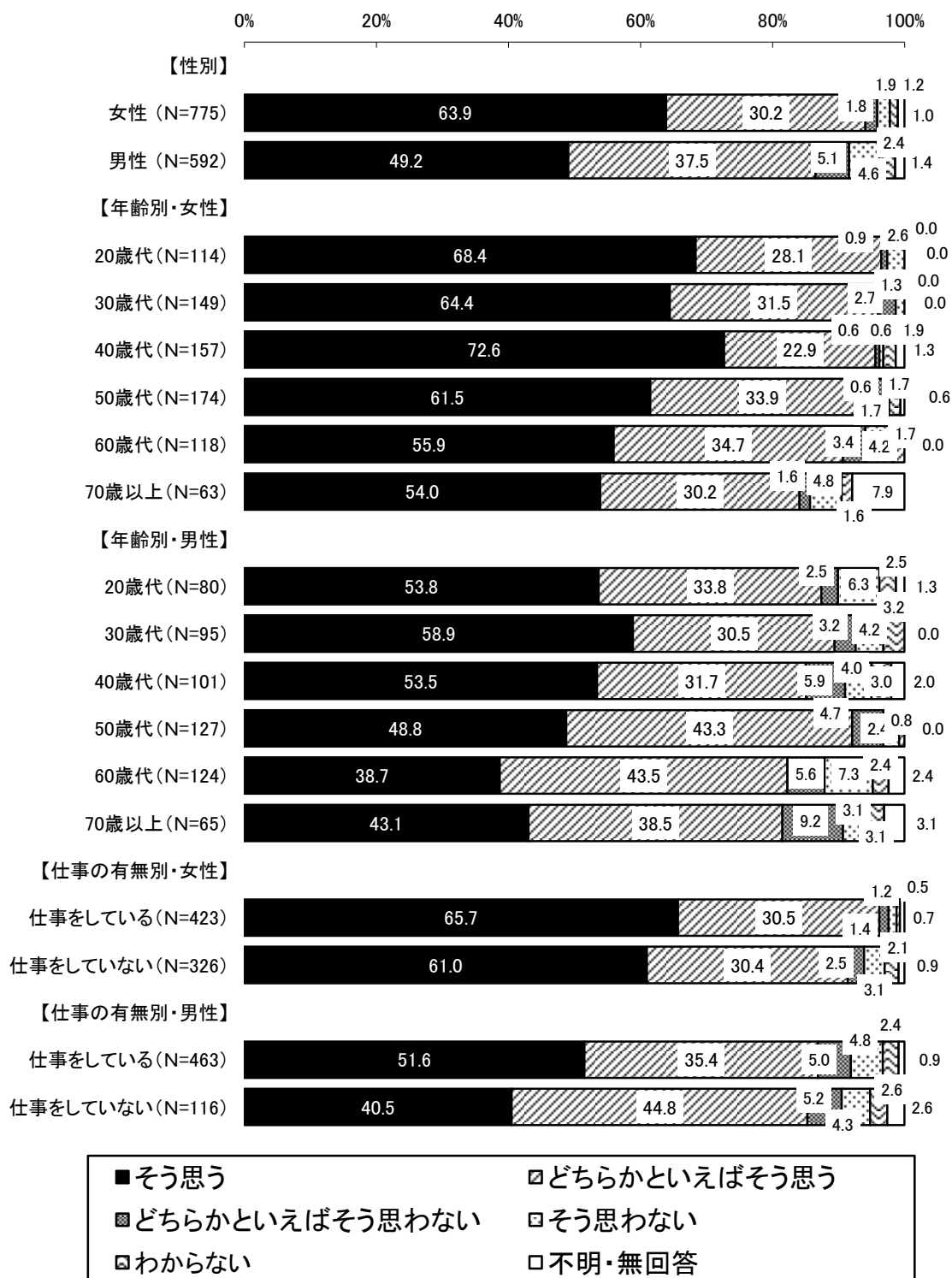
【2 子育ては女性も男性も協力して行う】

「子育ては女性も男性も協力して行う」という考えについては、女性の20歳代、30歳代、40歳代で「そう思う」割合が8割を超えて高くなっています。また、男女ともに年齢が上がるにつれて「そう思う」割合が低下する傾向にあります。



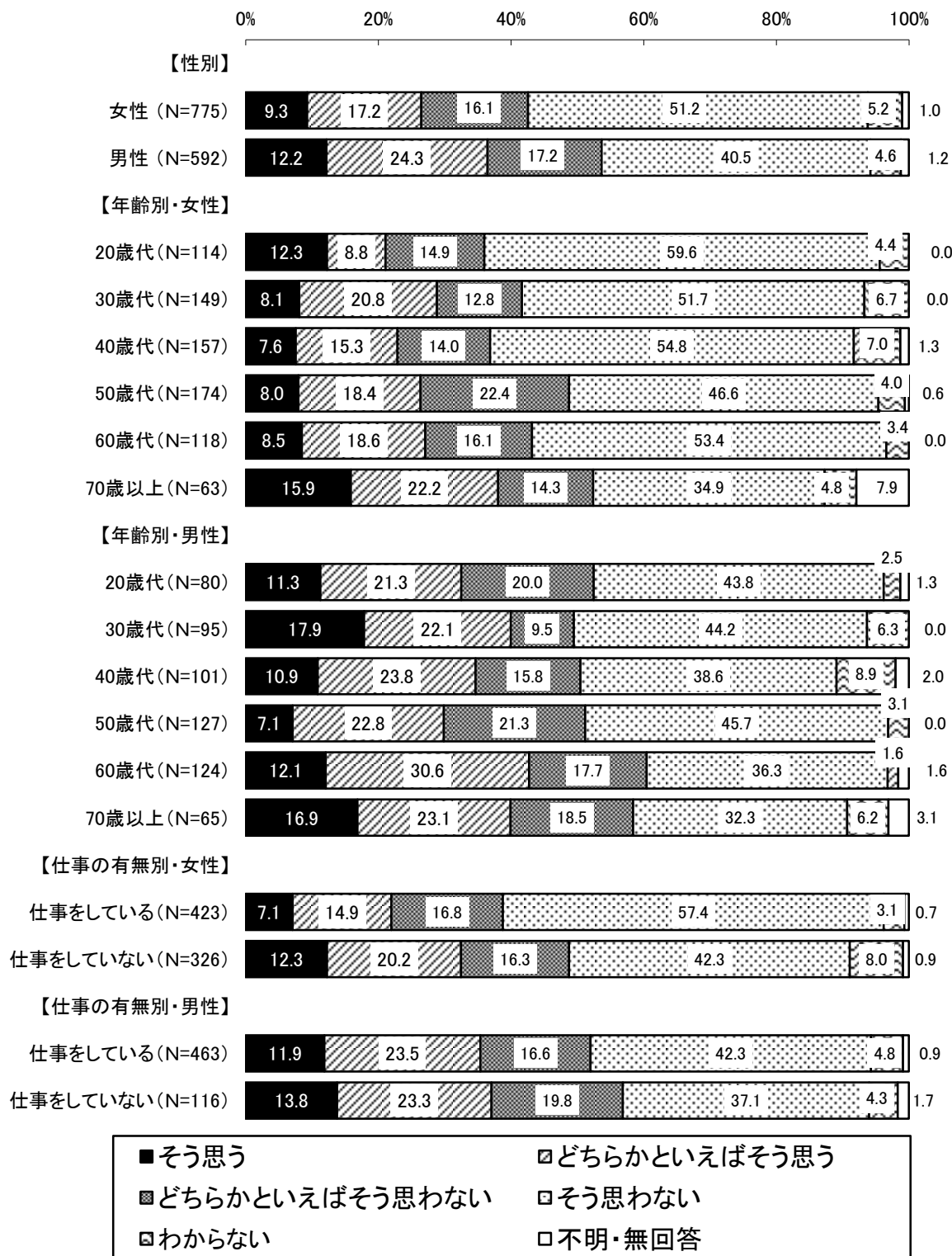
【3 男性も家事をきちんとできる方がよい】

「男性も家事をきちんとできる方がよい」という考えについては、女性の40歳代で「そう思う」割合が72.6%と高くなっています。また、男性においては30歳代で「そう思う」割合が他の年齢に比べて高くなっています。



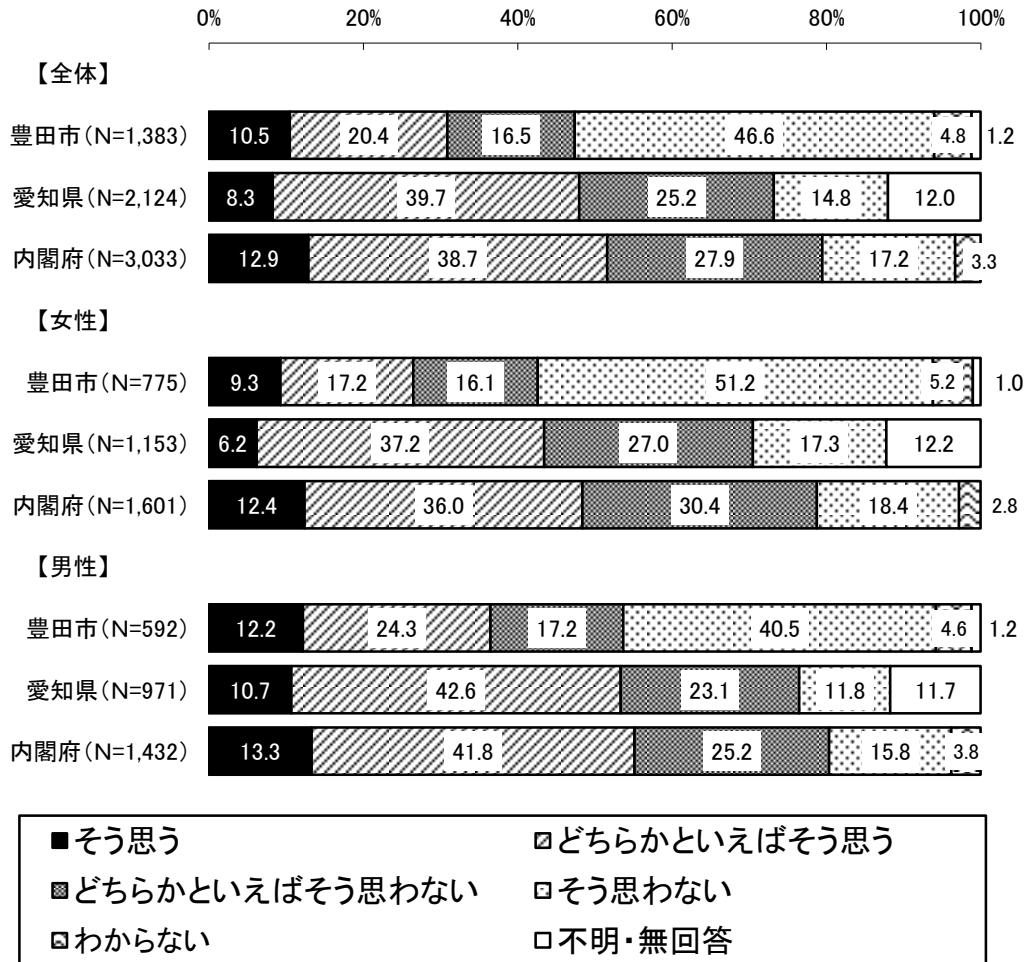
【4 「男は仕事・女は家庭」という考え方はよい】

「男は仕事・女は家庭」という考え方はよい」という考えについては、女性では70歳代で『賛成』の割合が高くなっています。男性では30歳代、60歳代、70歳以上で『賛成』の割合が他の年齢に比べて高くなっています。



内閣府調査（全国）愛知県調査との比較

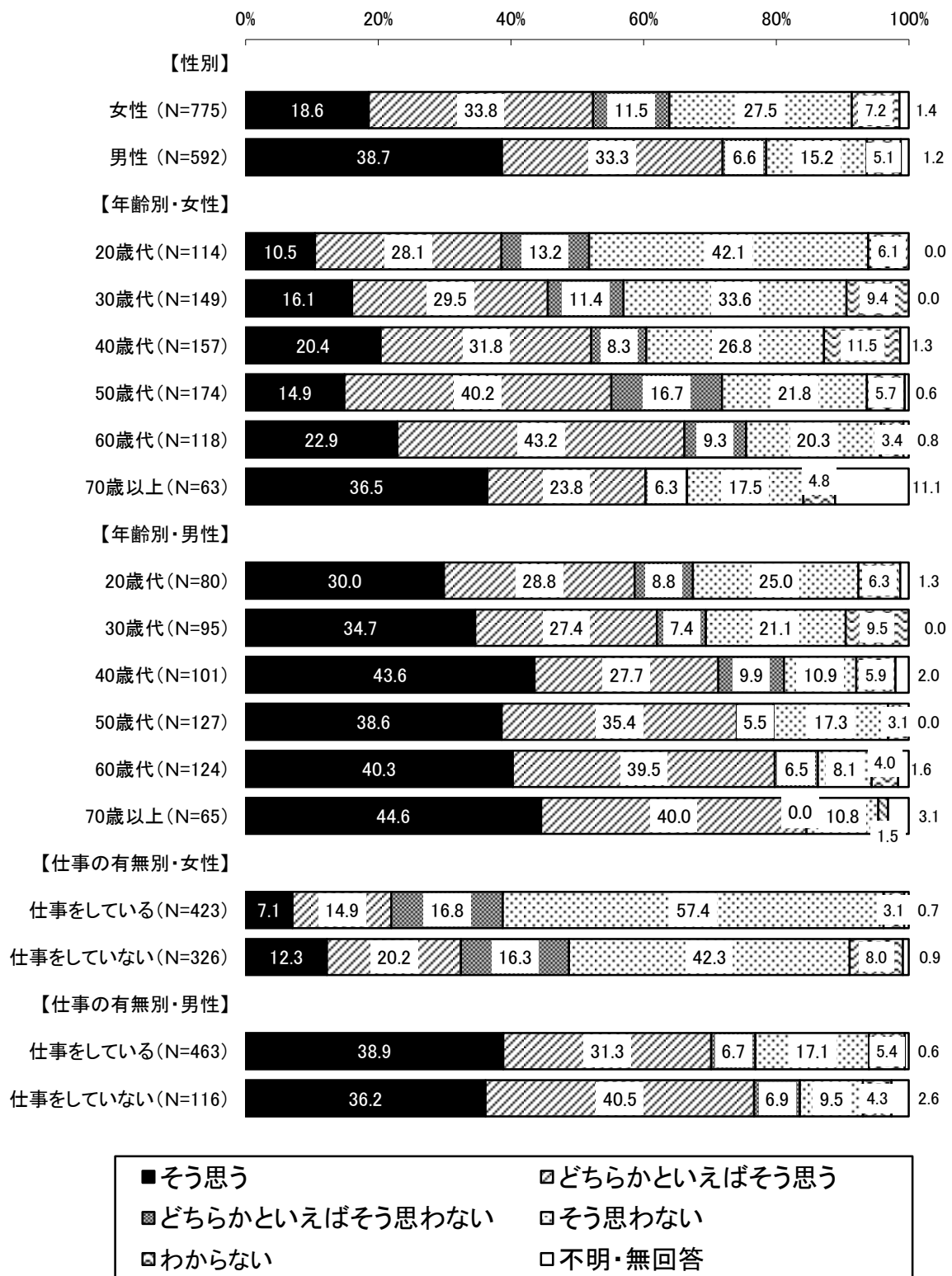
内閣府において平成 24 年度に実施した「男女共同参画社会に関する世論調査」、愛知県において平成 20 年度に実施した「男女共同参画意識に関する調査」と比較すると、「男は仕事・女は家庭」という考え方は「よい」という考えについて、豊田市では男女ともに「そう思わない」割合が愛知県、内閣府調査を大きく上回っています。



※愛知県調査では「わからない」と「無回答」が合算されているため「不明・無回答」で比較している。
 ※内閣府調査は、調査員が直接聴き取る方法で調査を行っているため、「不明・無回答」がない。
 ※愛知県調査、内閣府調査ともに、選択肢は「賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「反対」となっている。

【5 「女は女らしく、男は男らしく」する方がよい】

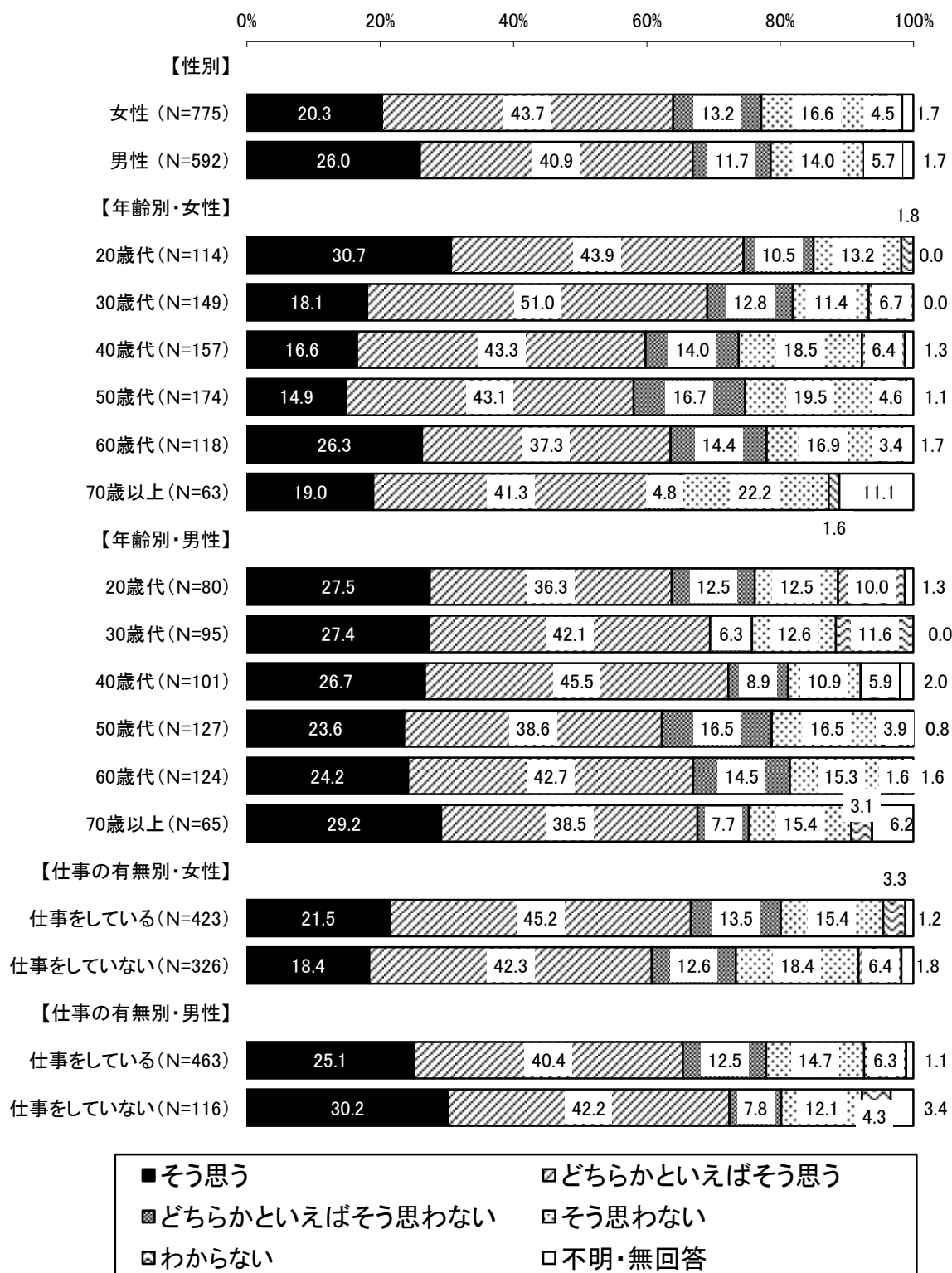
「女は女らしく、男は男らしく」する方がよい」という考えについては、男女ともに年齢が上がるにつれて『賛成』の割合が高くなる傾向にあります。



【6 女性は仕事を持って家事・育児もきちんとする方がいい】

「女性は仕事を持って家事・育児もきちんとする方がいい」という考えについては、女性の20歳代、30歳代、男性の30歳代、40歳代で『賛成』の割合が高くなっています。

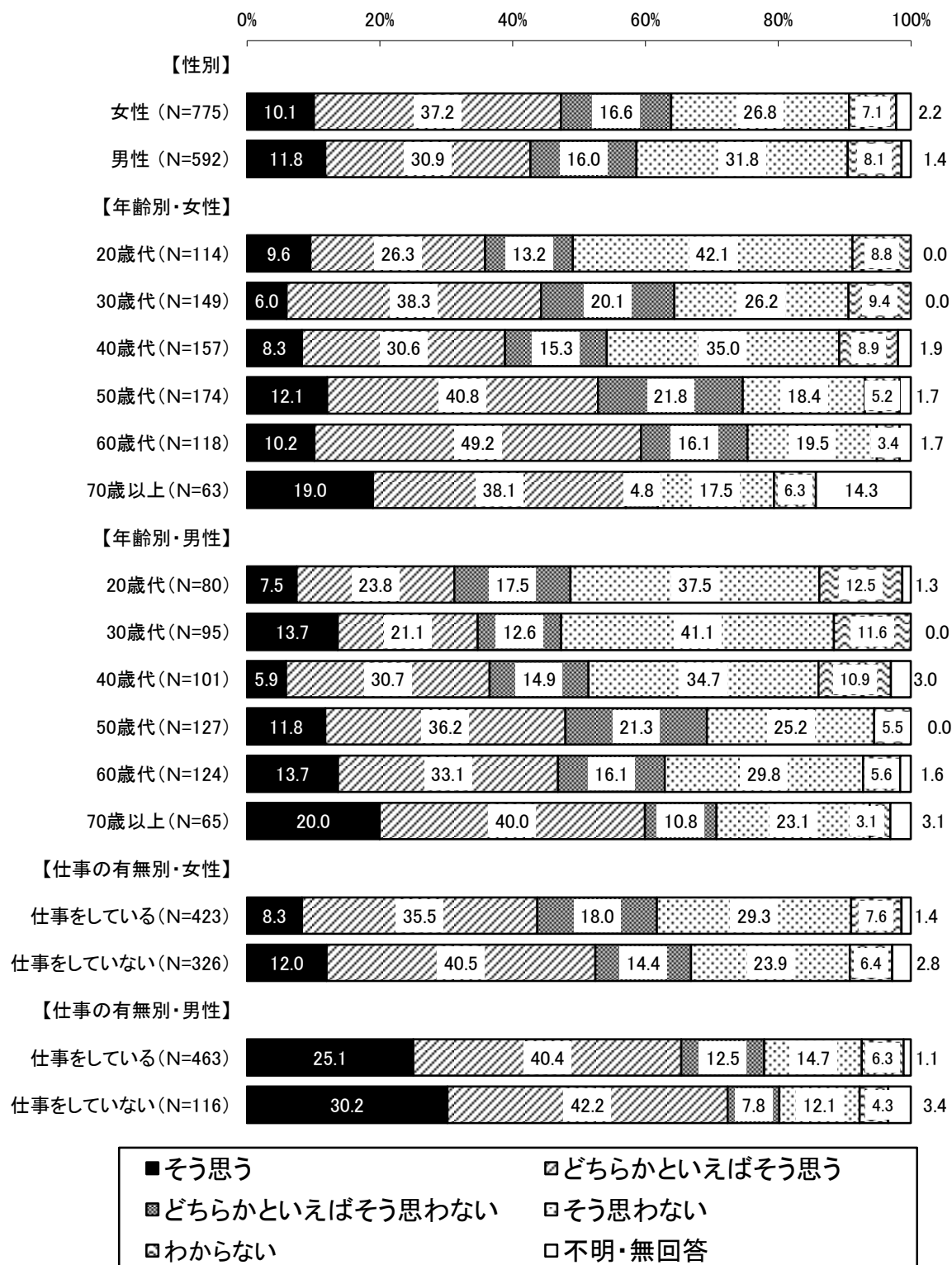
仕事の有無別にみると、仕事をしている女性で『賛成』の割合が高くなっています。



【7 女性は自分のことより家族のことを優先する方がよい】

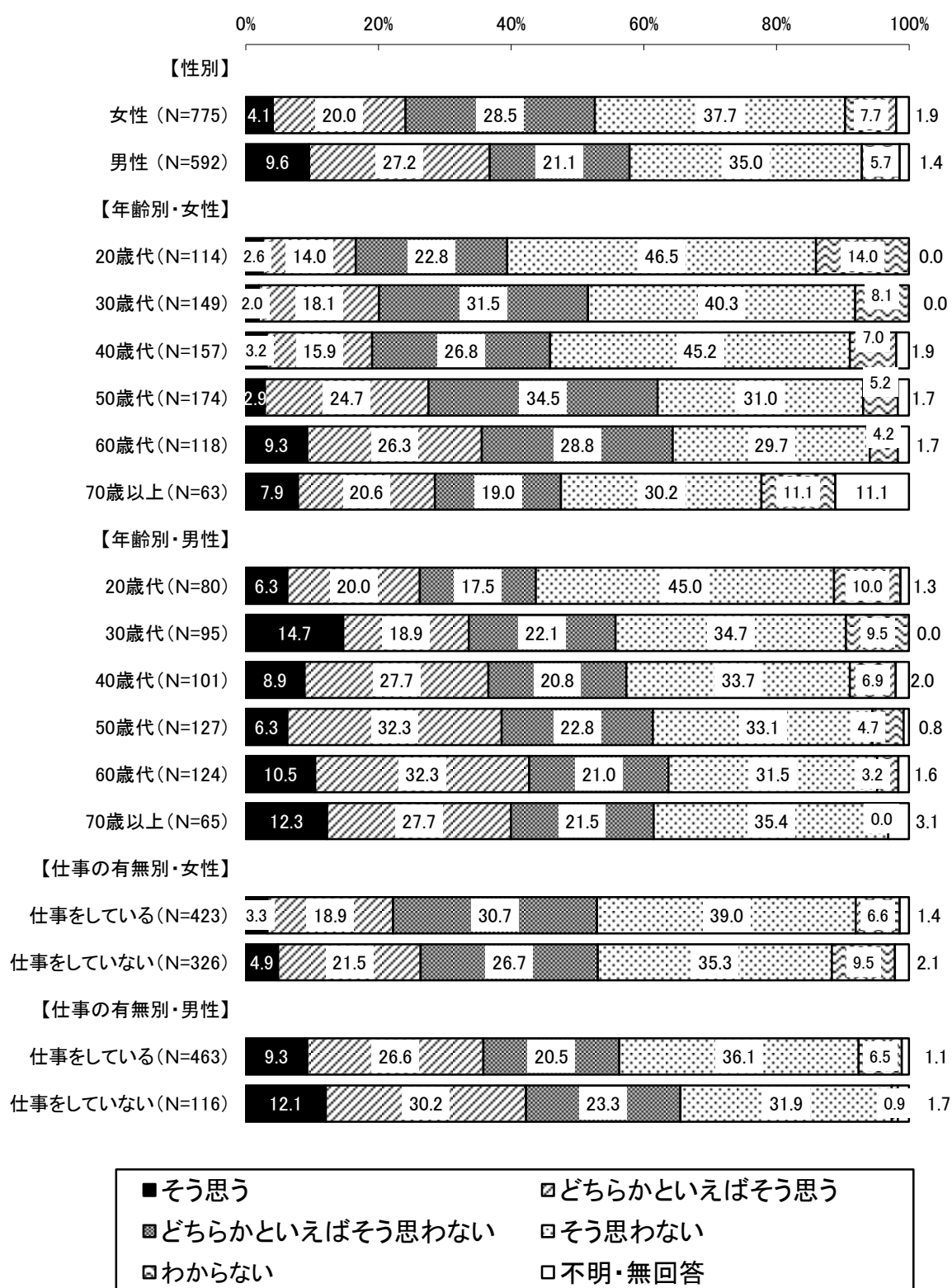
「女性は自分のことより家族のことを優先する方がよい」という考えについては、男女ともに50歳代、60歳代、70歳代以上で『賛成』の割合が高くなっています。

仕事の有無別にみると、仕事をしている女性で『賛成』の割合が低くなっています。



【8 男性は家庭や地域のことより仕事を優先する方がよい】

「男性は家庭や地域のことより仕事を優先する方がよい」という考えについては、女性の60歳代、男性の30歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上で『賛成』の割合が高くなっています。



問2（2） 1～8それぞれについて、あなたはどのように行動していますか。（単数回答）

問2（2）の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

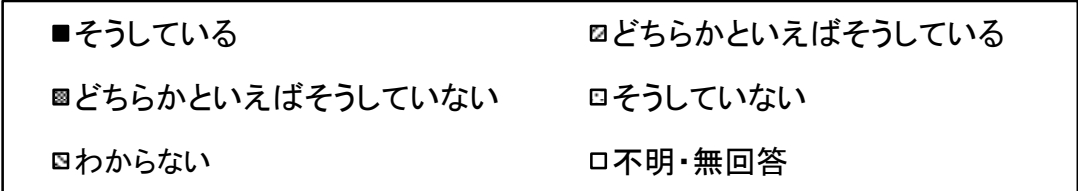
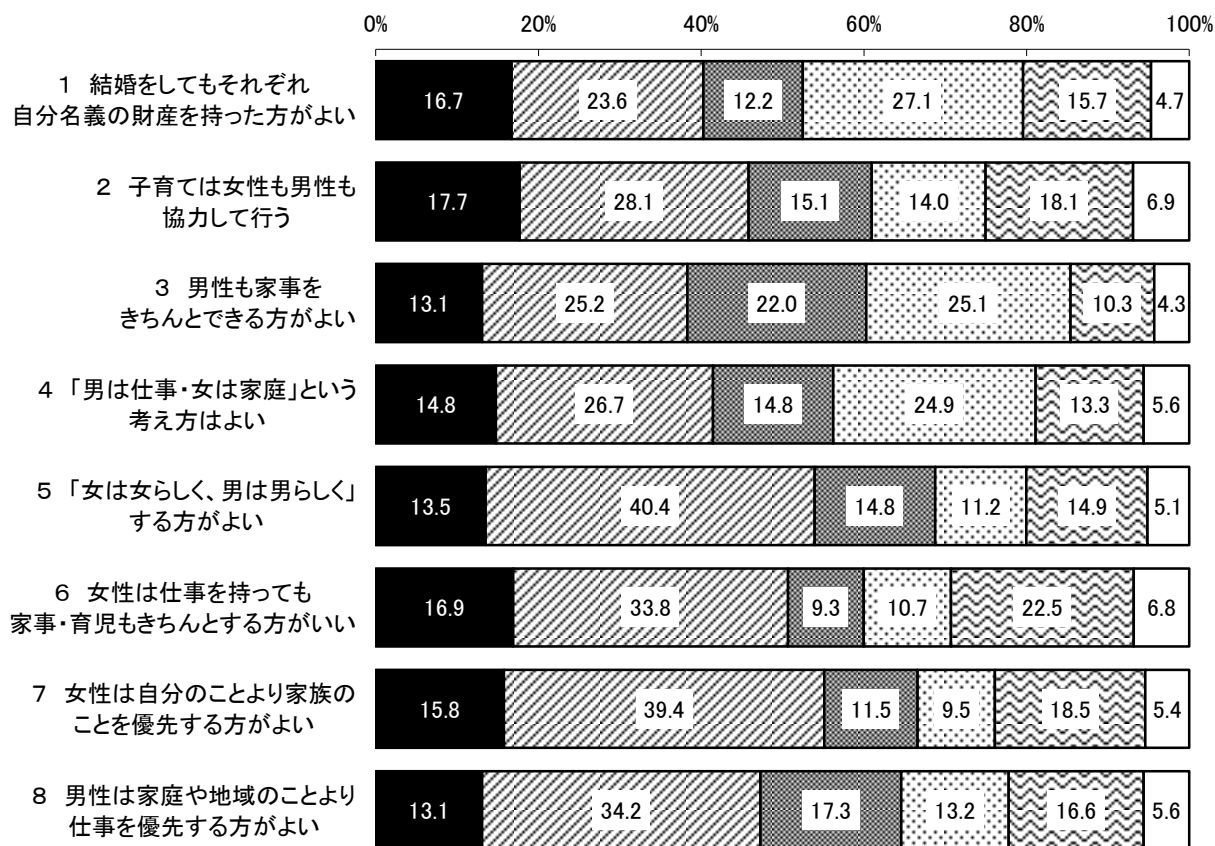
『実践している』…「そうしている」と「どちらかといえばそうしている」の合算

『実践していない』…「そうしていない」と「どちらかといえばそうしていない」の合算

男女の関わり・役割分担についての実際の行動では、「5 女は女らしく、男は男らしくする方がよい」「6 女性は仕事を持って家事・育児もきちんとする方がいい」「7 女性は自分のことより家族のことを優先する方がよい」で『実践している』がいずれも50%を超え、高くなっています。

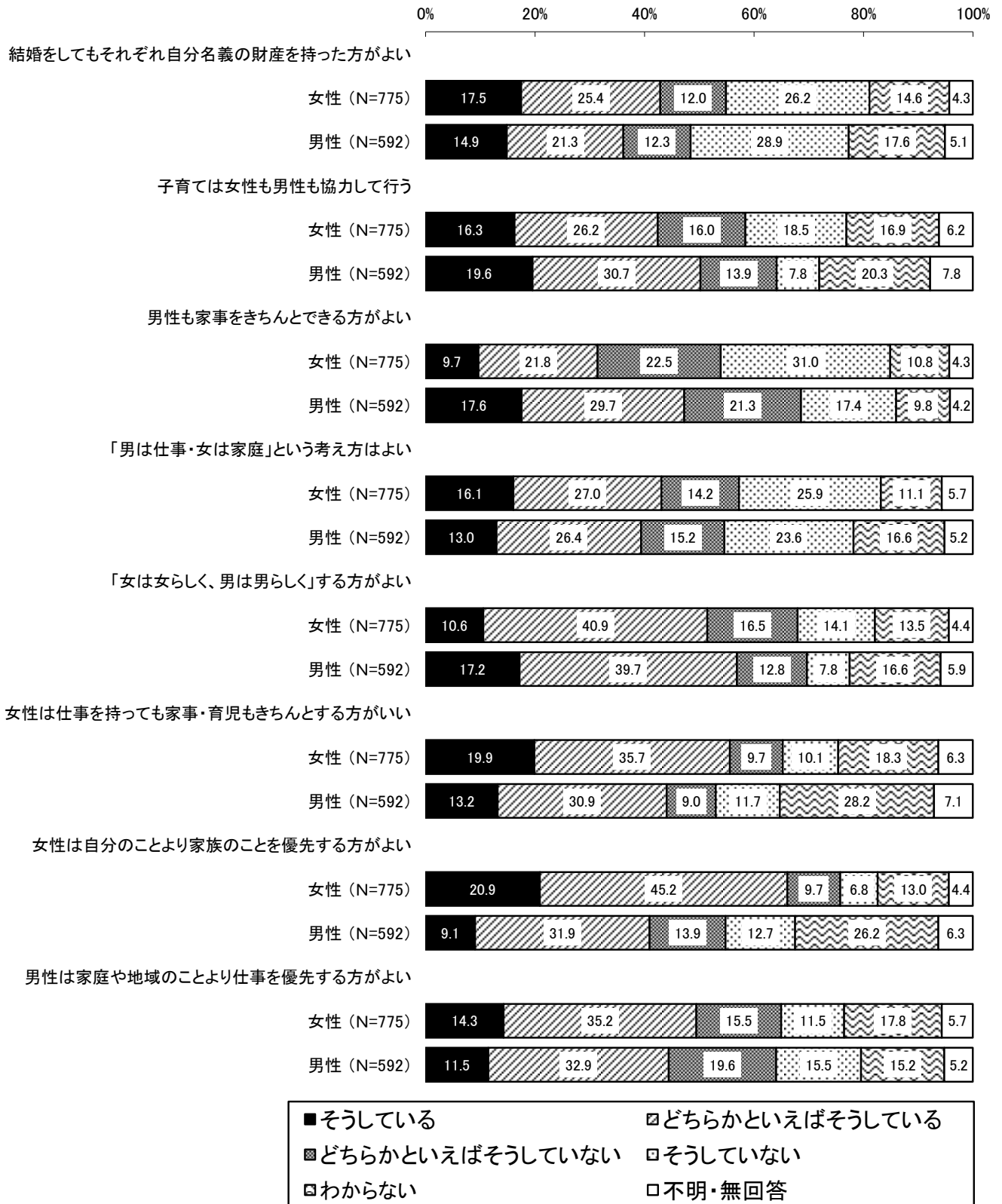
『実践していない』の割合が最も高い項目は「3 男性も家事をきちんとできる方がよい」となっています。

全体(N=1,383)



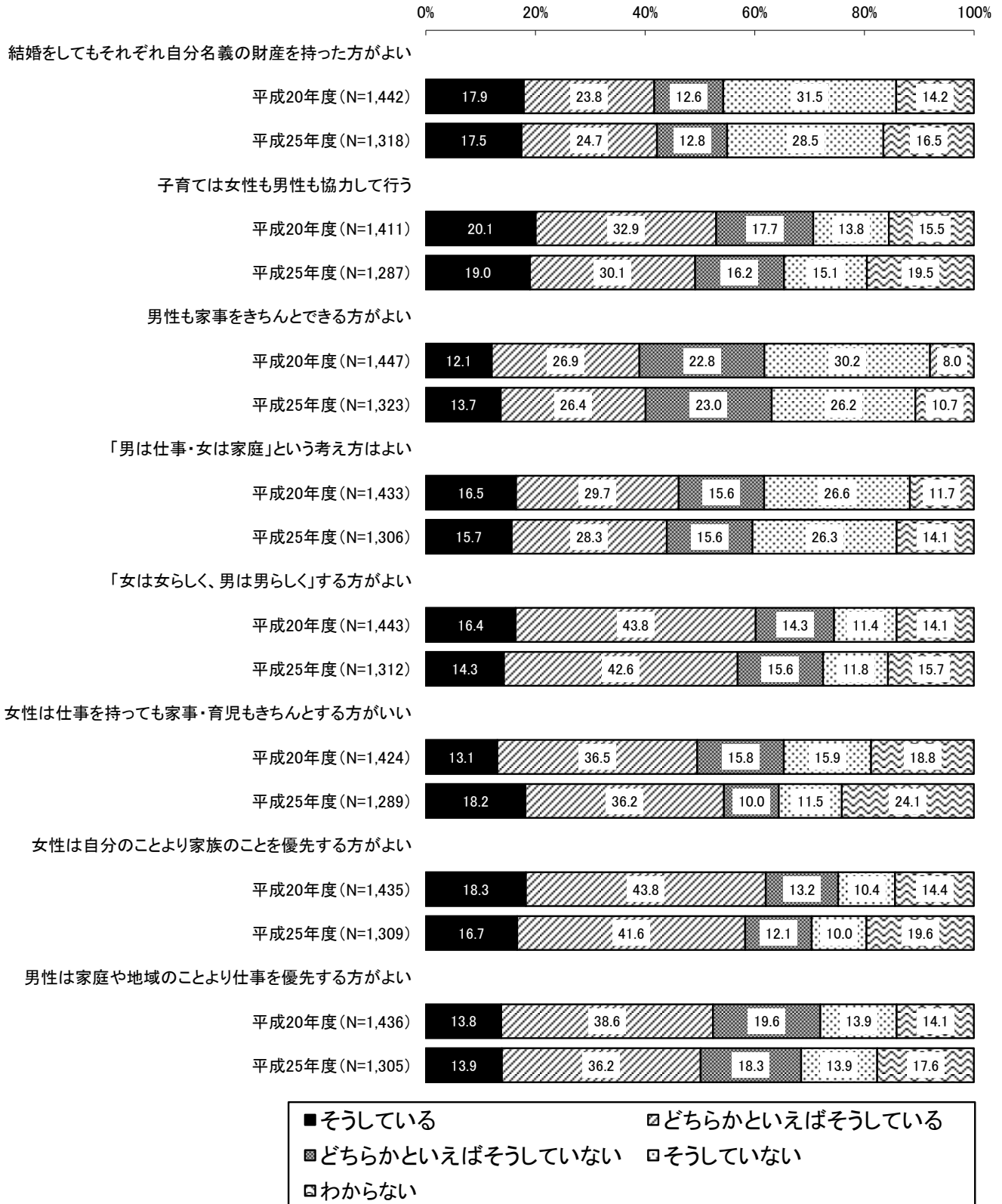
男女別比較

男女別でみると、女性と男性で最も差が大きい項目は「女性は自分のことより家族のことを優先する方がよい」となっており、『実践している』割合は、女性で66.1%、男性で41.0%となっています。



経年比較

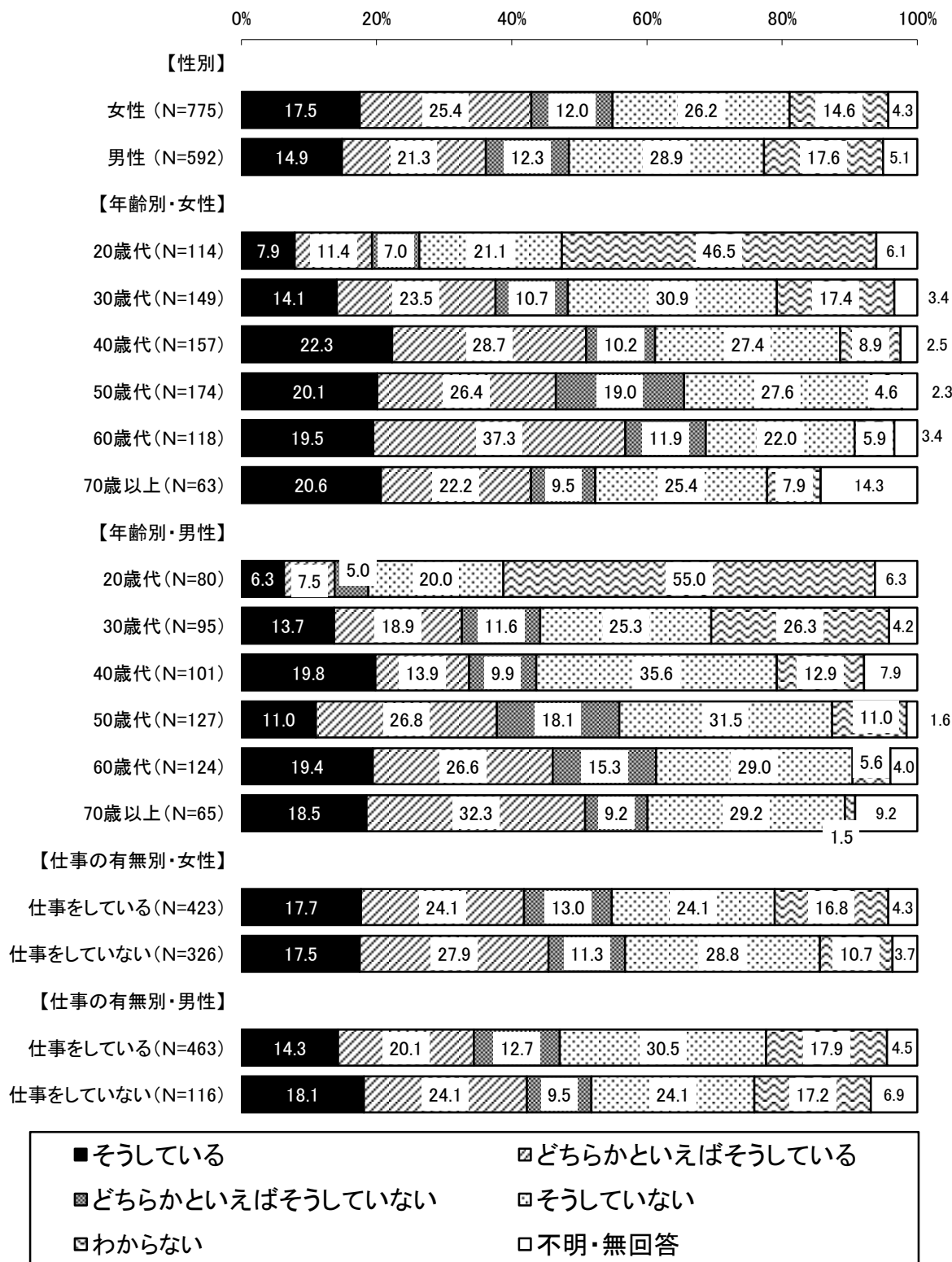
男女の関わり・役割分担についての実際の行動を経年で比較すると、「女性は仕事を持っても家事・育児もきちんとする方がいい」において、平成20年度調査と比べて『実践していない』の割合が低下し、『実践している』の割合が上昇しています。



男女の関わり・役割分担についての実際の行動 項目別集計結果

【1 結婚をしてもそれぞれ自分名義の財産を持った方がよい】

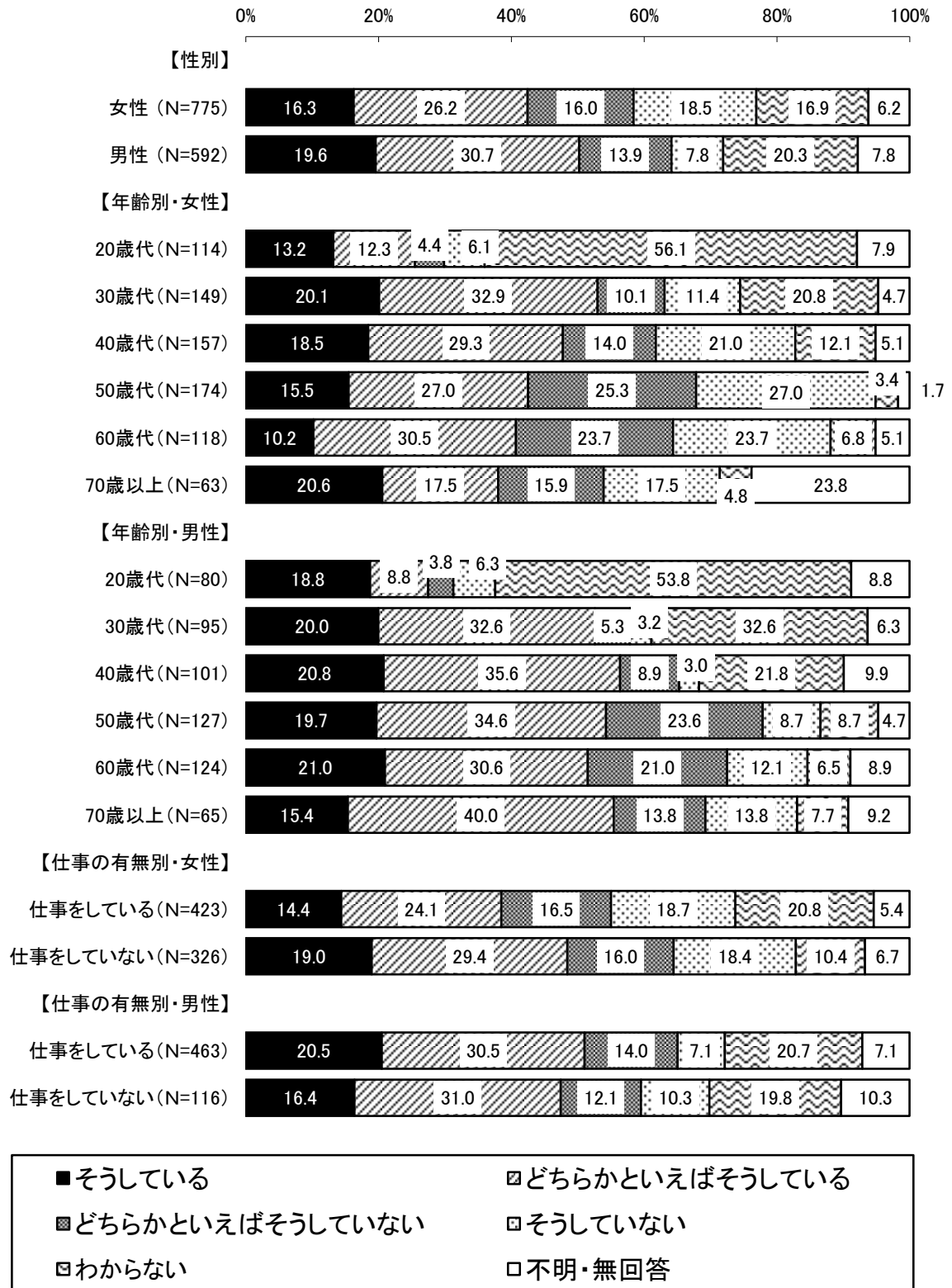
「結婚をしてもそれぞれ自分名義の財産を持った方がよい」における実際の行動では、女性の40歳代、60歳代と男性の70歳以上で、『実践している』割合が5割を超え、高くなっています。



【2 子育ては女性も男性も協力して行う】

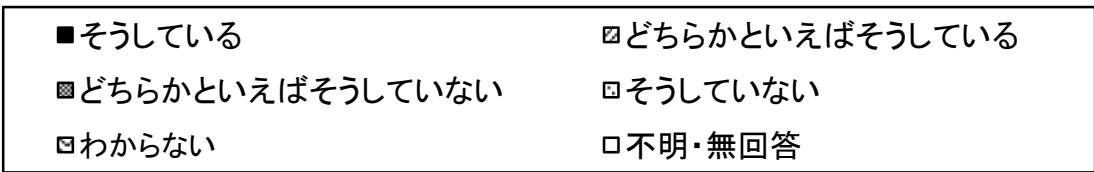
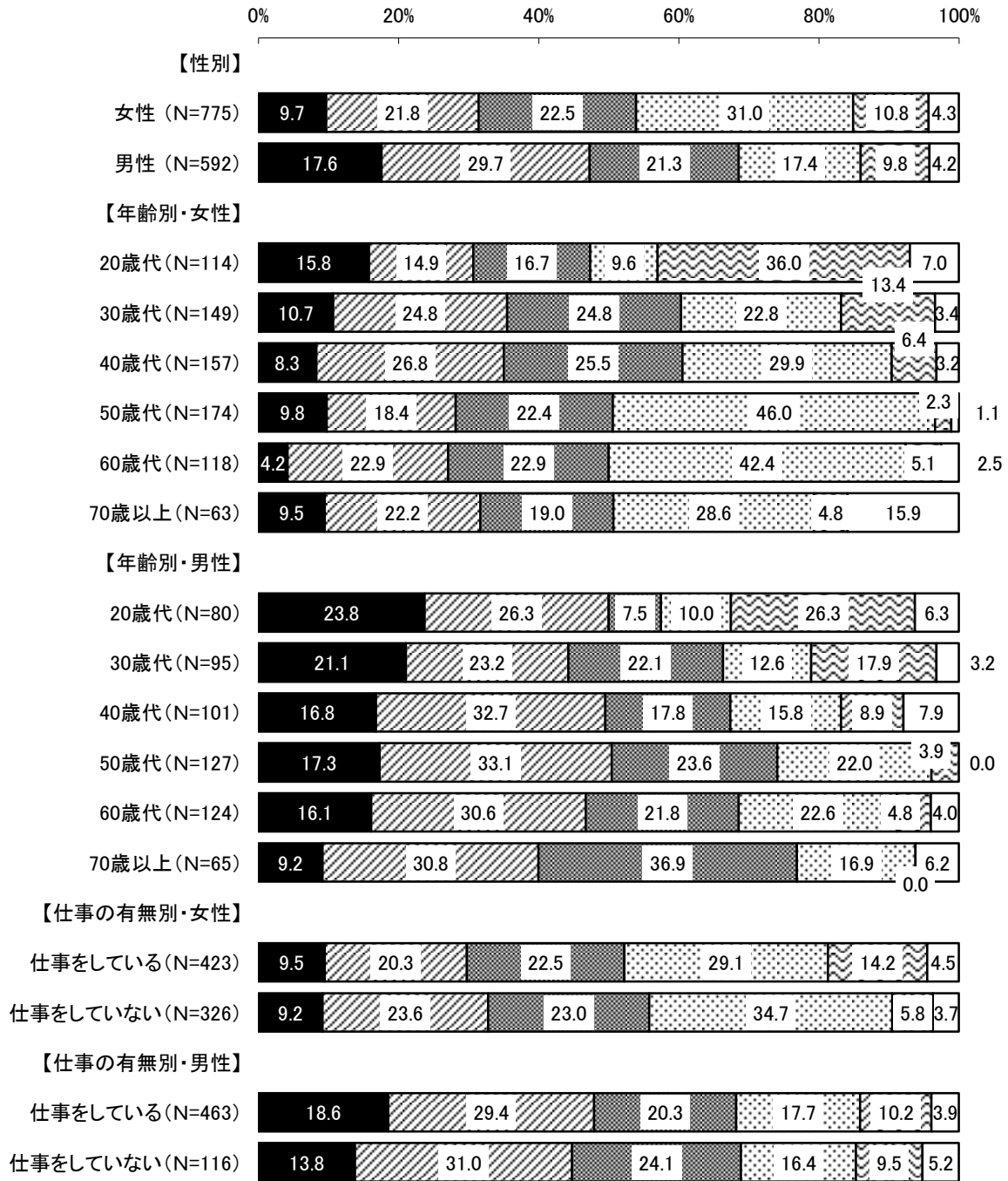
「子育ては女性も男性も協力して行う」における実際の行動では、女性は30歳代から年齢が上がるにつれて『実践している』割合が低くなっています。

仕事の有無別にみると、女性で仕事をしている人は仕事をしていない人よりも『実践している』割合が低くなっています。



【3 男性も家事をきちんとできる方がよい】

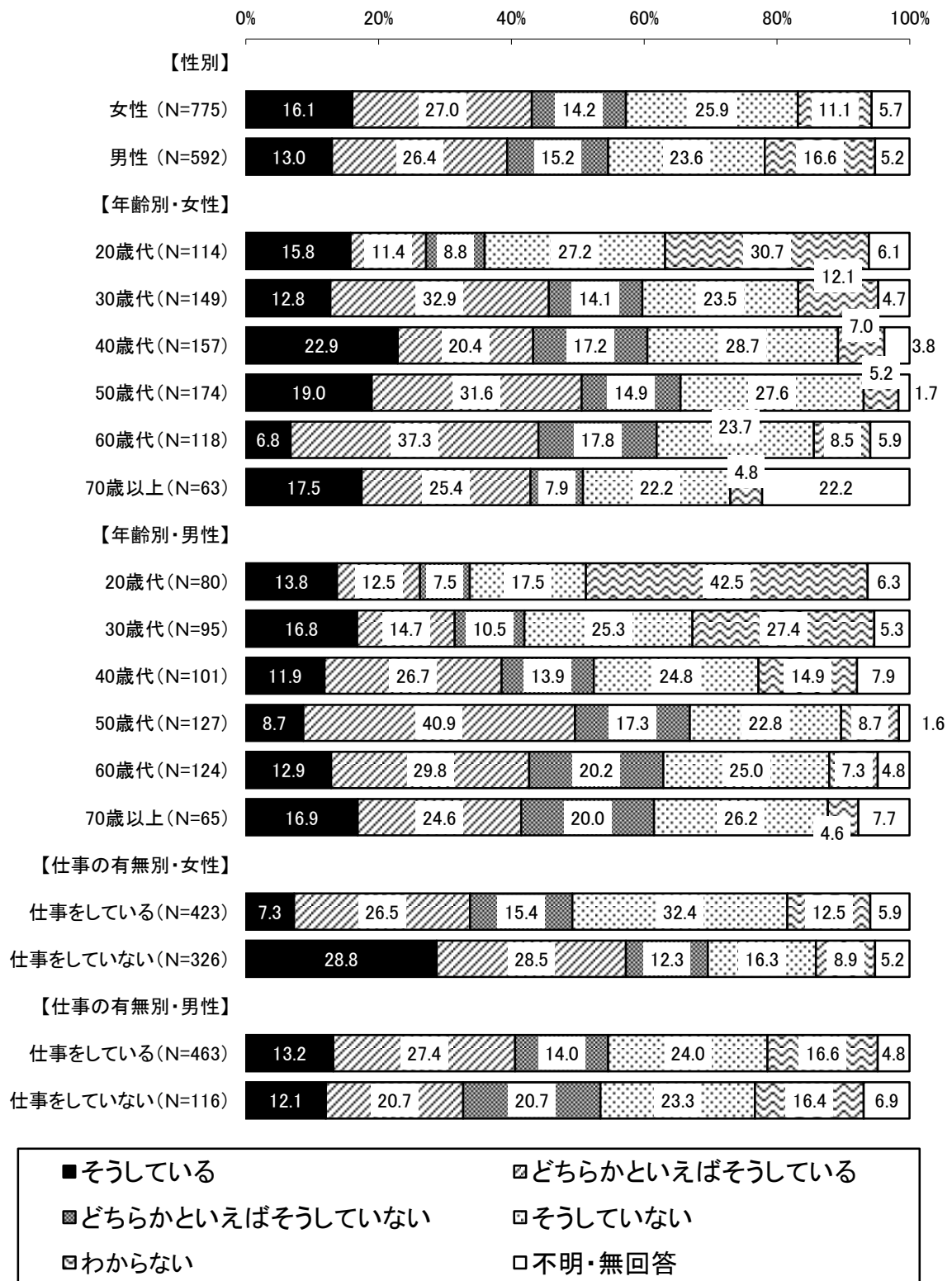
「男性も家事をきちんとできる方がよい」における実際の行動では、女性の50歳代、60歳代では『実践していない』割合が高くなっています。



【4 「男は仕事・女は家庭」という考え方はよい】

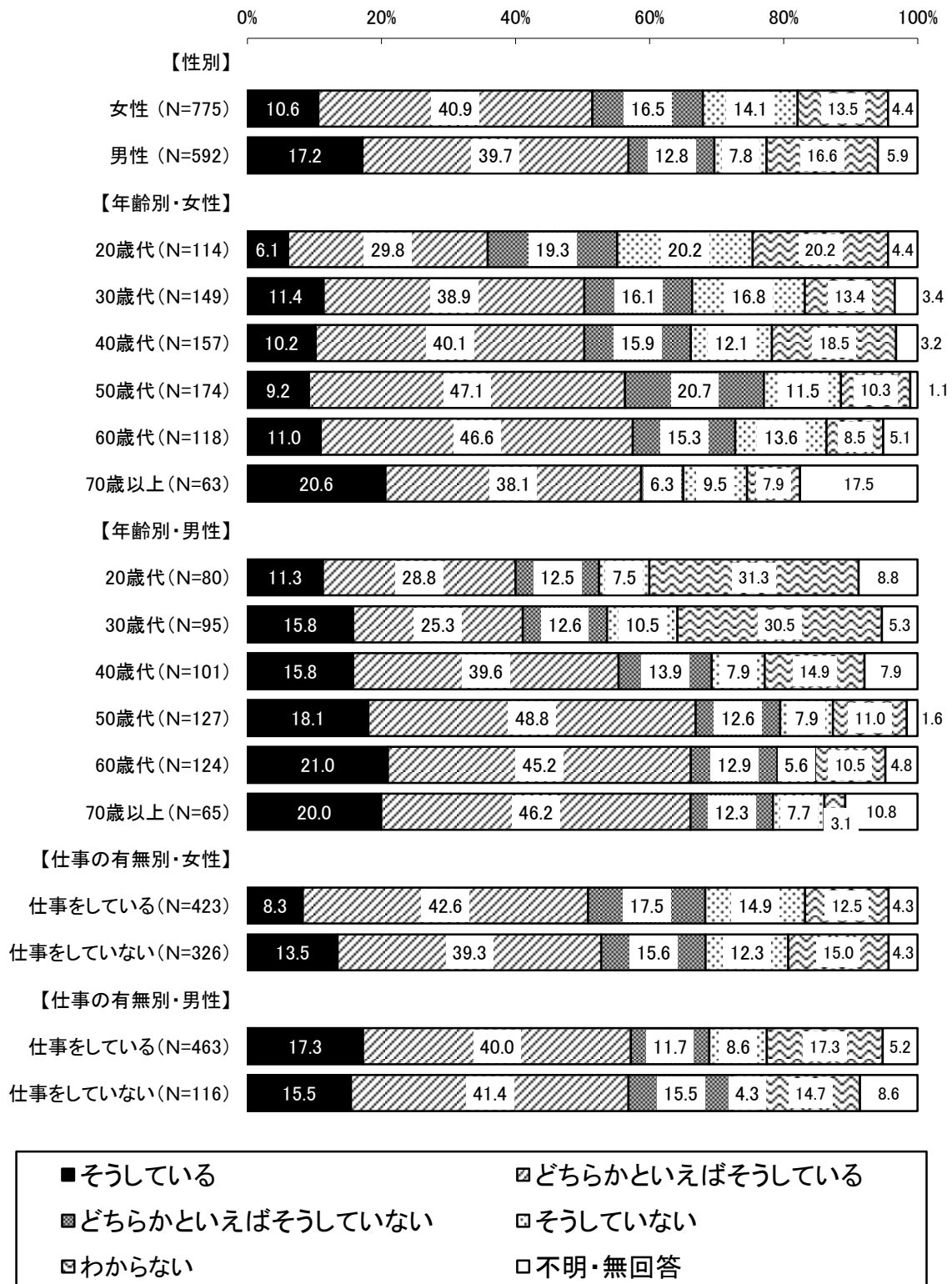
「男は仕事・女は家庭」という考え方はよい」における実際の行動では、男女ともに50歳代で『実践している』割合が高くなっています。

仕事の有無別にみると、女性で仕事をしていない人は『実践している』割合が高くなっています。



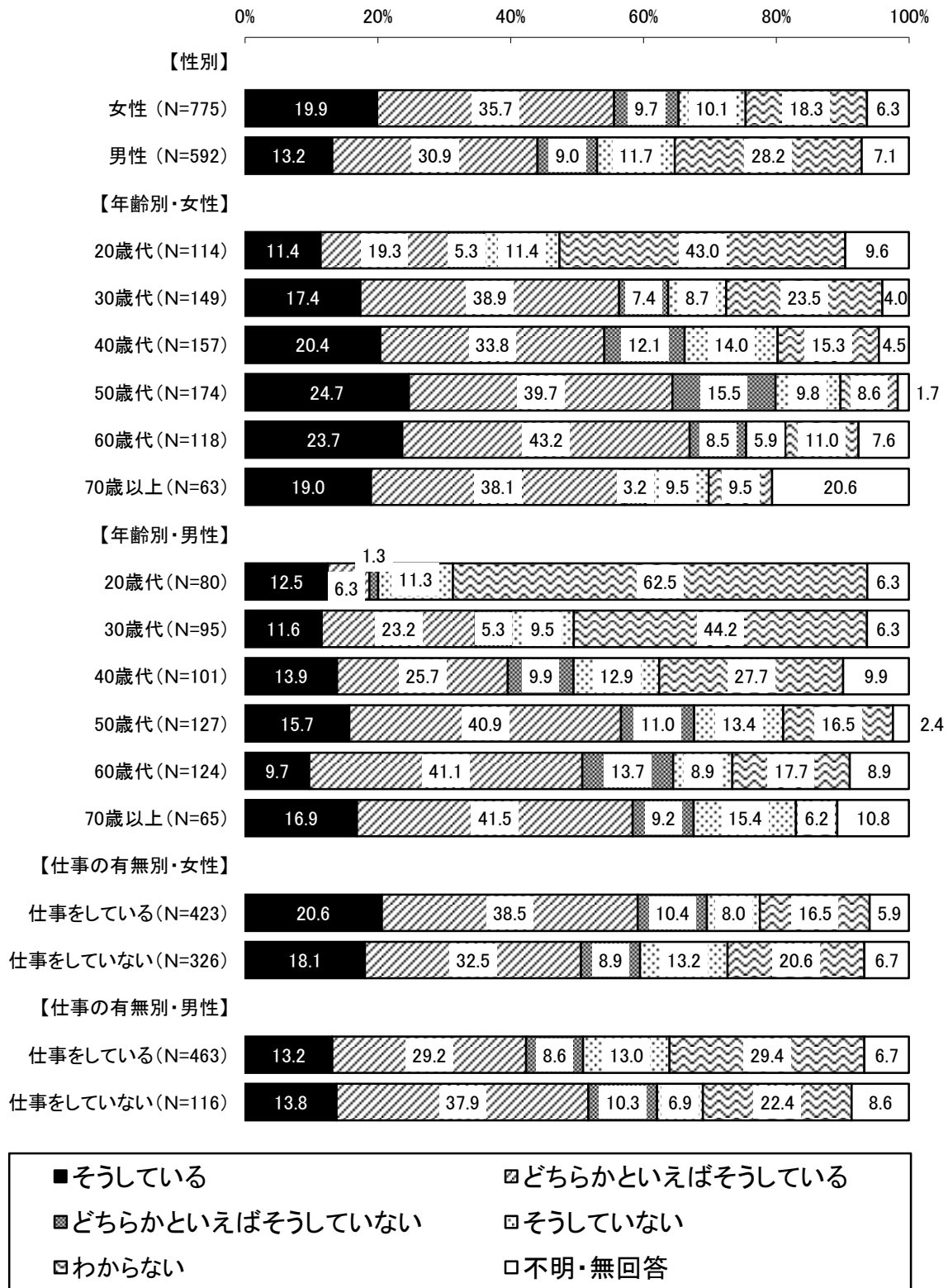
【5 「女は女らしく、男は男らしく」する方がよい】

「女は女らしく、男は男らしく」する方がよい」における実際の行動では、男女ともに年齢が上がるにつれ『実践している』割合が高くなる傾向にあります。



【6 女性は仕事を持って家事・育児もきちんとする方がいい】

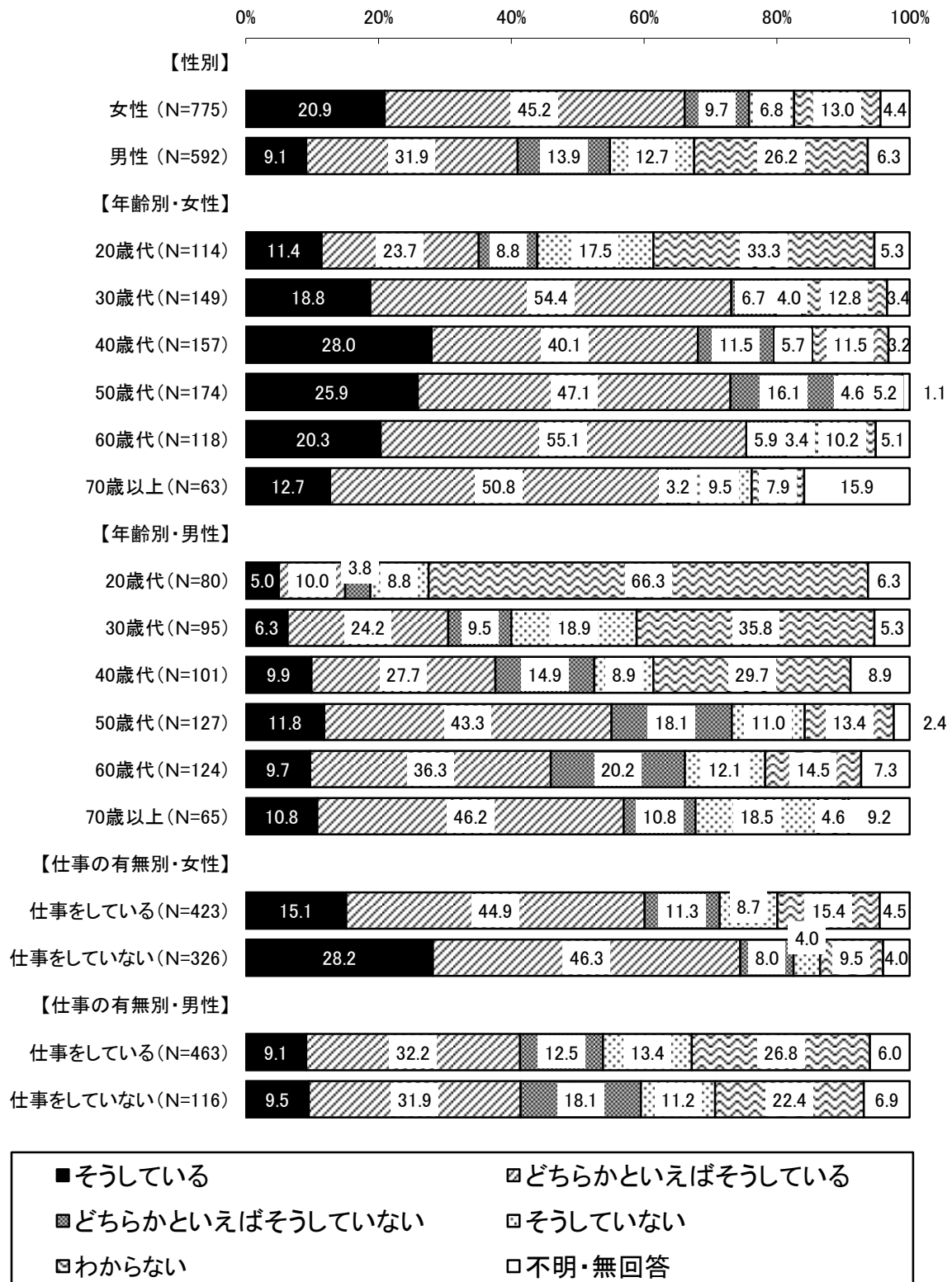
「女性は仕事を持って家事・育児もきちんとする方がいい」における実際の行動では、女性の30歳代以上、男性の50歳代以上で『実践している』割合が高くなっています。



【7 女性は自分のことより家族のことを優先する方がよい】

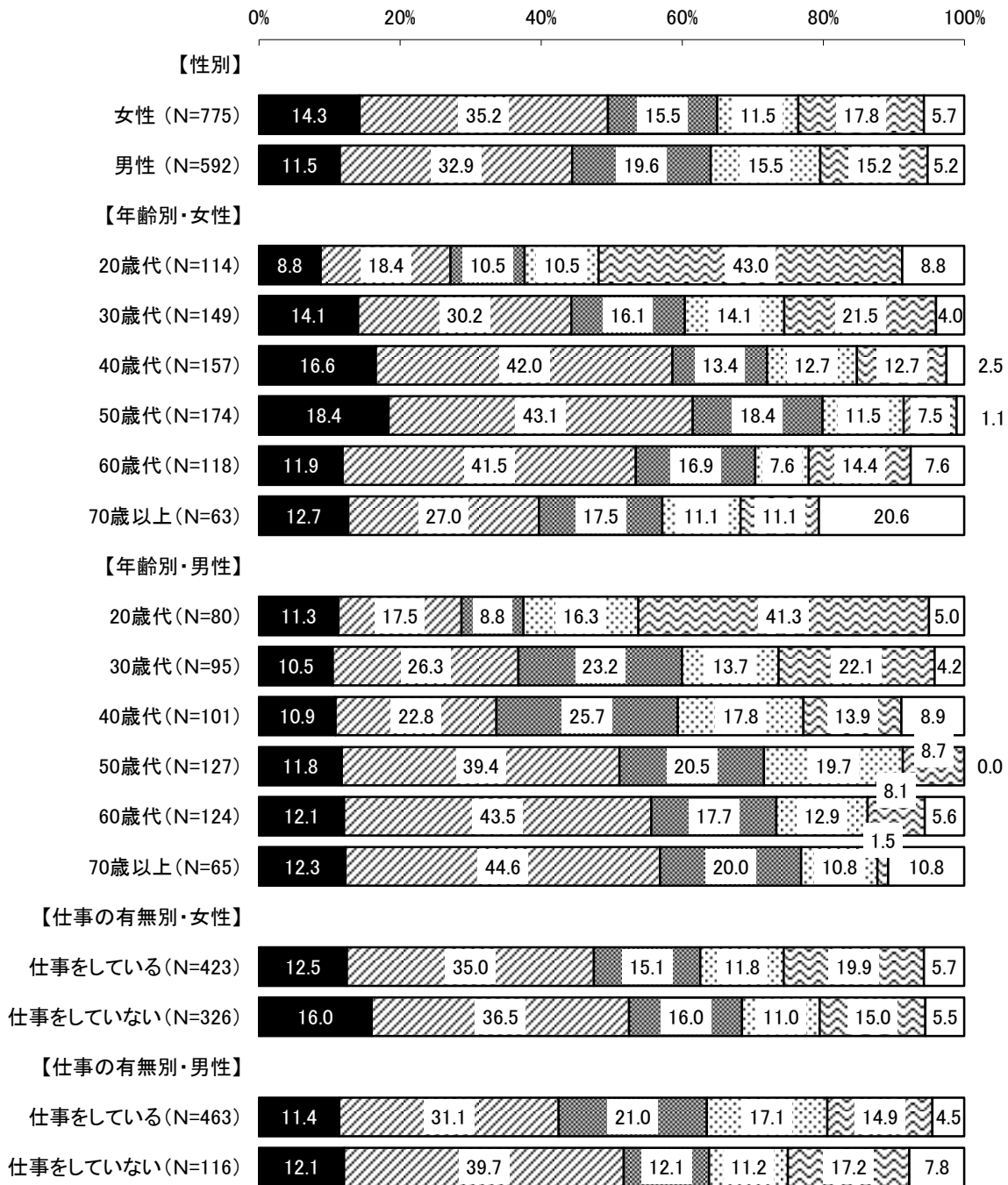
「女性は自分のことより家族のことを優先する方がよい」における実際の行動では、女性の30歳代以上で『実践している』割合が高くなっています。男性では50歳代と70歳以上で『実践している』割合が5割を超え、高くなっています。

仕事の有無別にみると、女性で仕事をしていない人は仕事をしている人よりも『実践している』割合が高くなっています。



【8 男性は家庭や地域のことより仕事を優先する方がよい】

「男性は家庭や地域のことより仕事を優先する方がよい」における実際の行動では、女性の40歳代、50歳代、60歳代と男性の50歳代以上で、『実践している』割合が5割を超え、高くなっています。



■ 実践している	▨ どちらかといえば実践している
▩ どちらかといえば実践していない	□ 実践していない
▨ わからない	□ 不明・無回答

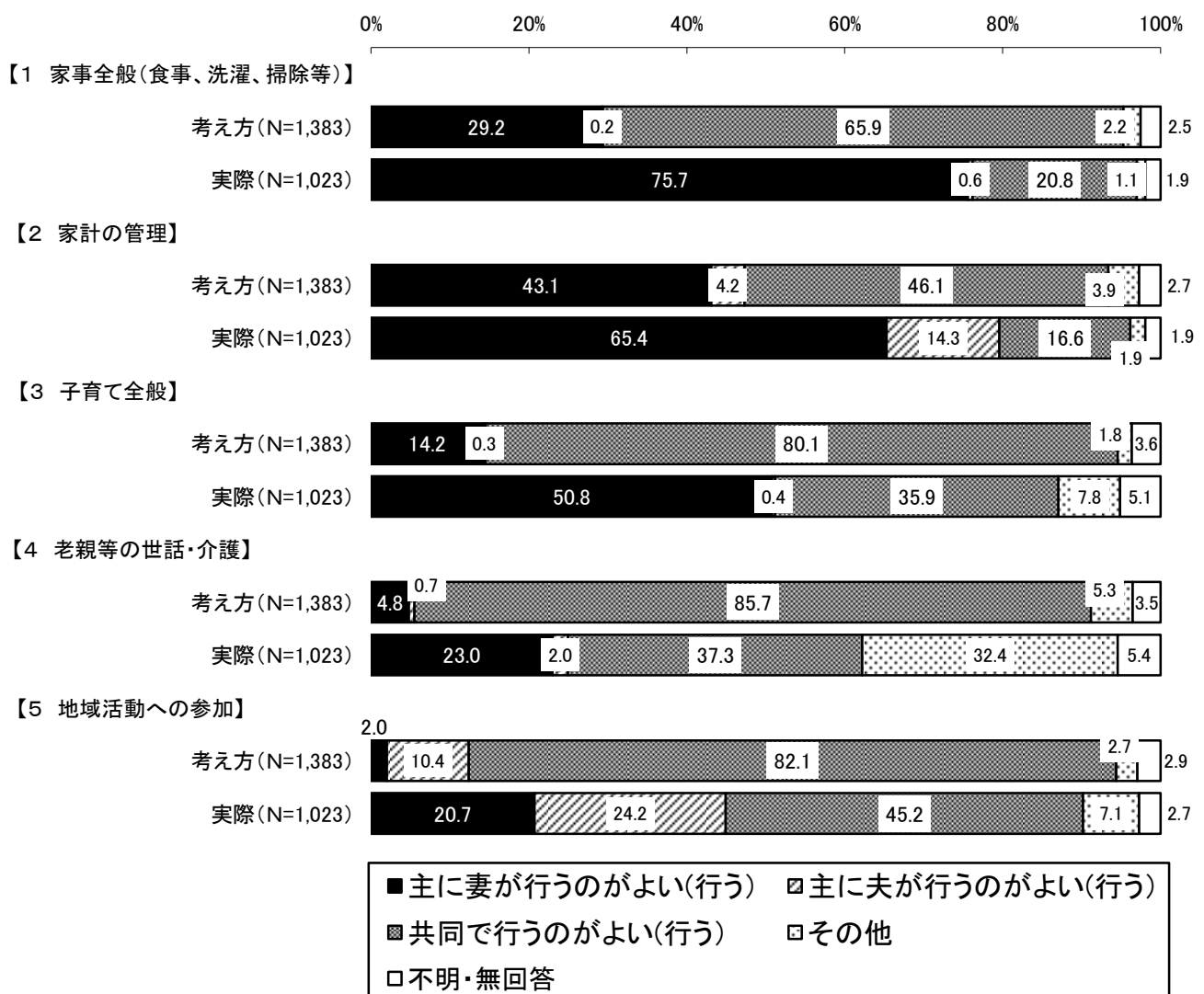
4 家庭における女・男のあり方について

問3(1) 1～5に示す各場面で、夫婦のどちらが役割を担う方がいいと思いますか。(単数回答)

【F3で「結婚している(内縁を含む)」と回答した方のみ】

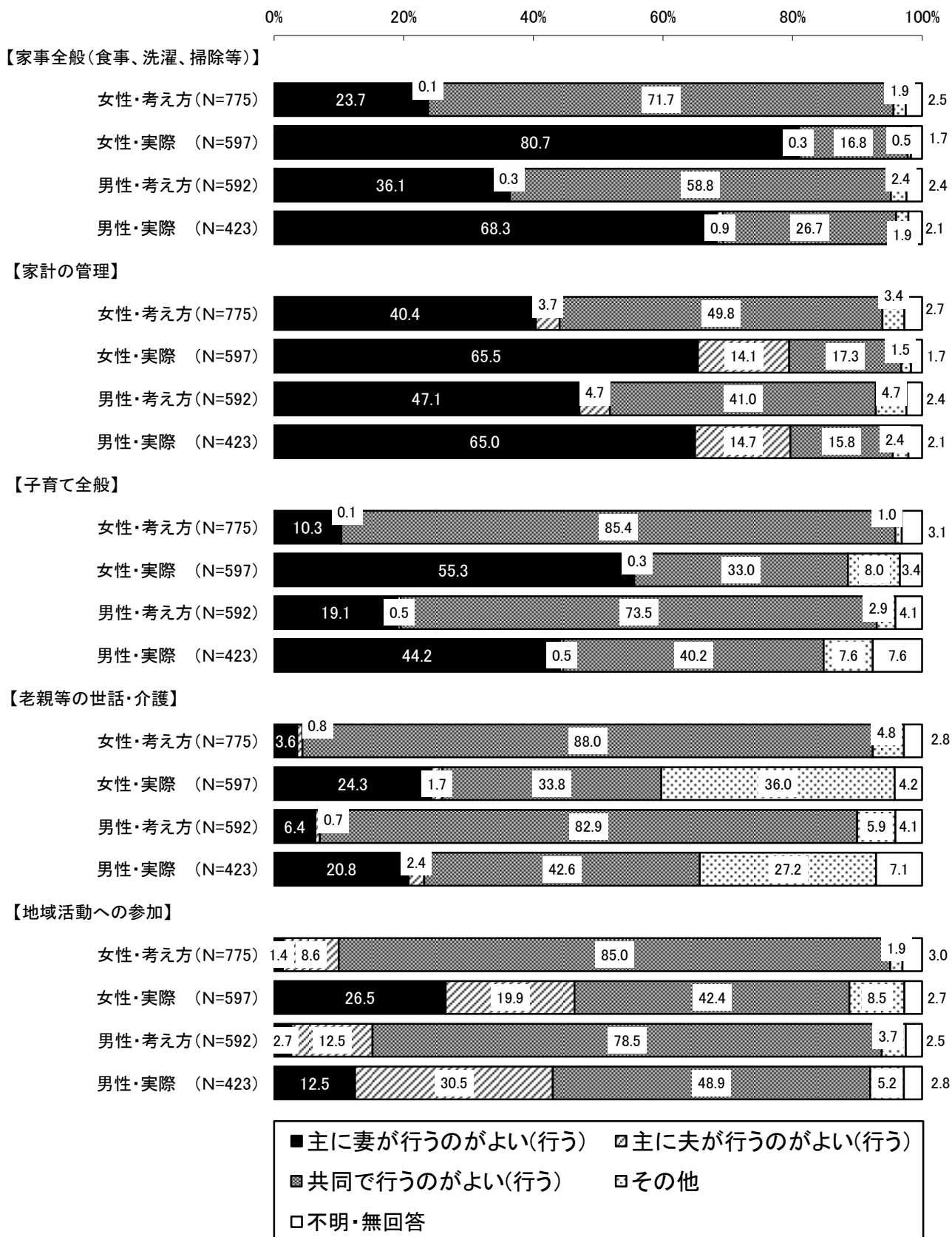
問3(2) あなたの家庭では、1～5に示す各場面で、実際に夫婦のどちらが役割を担っていますか。(単数回答)

夫婦の役割分担についての考え方と実際を比較すると、考え方ではすべての項目で「共同で行うのがよい」が最も高くなっていますが、実際では「家事全般(食事、洗濯、掃除等)」「家計の管理」「子育て全般」で「主に妻が行う」割合が高くなっています。



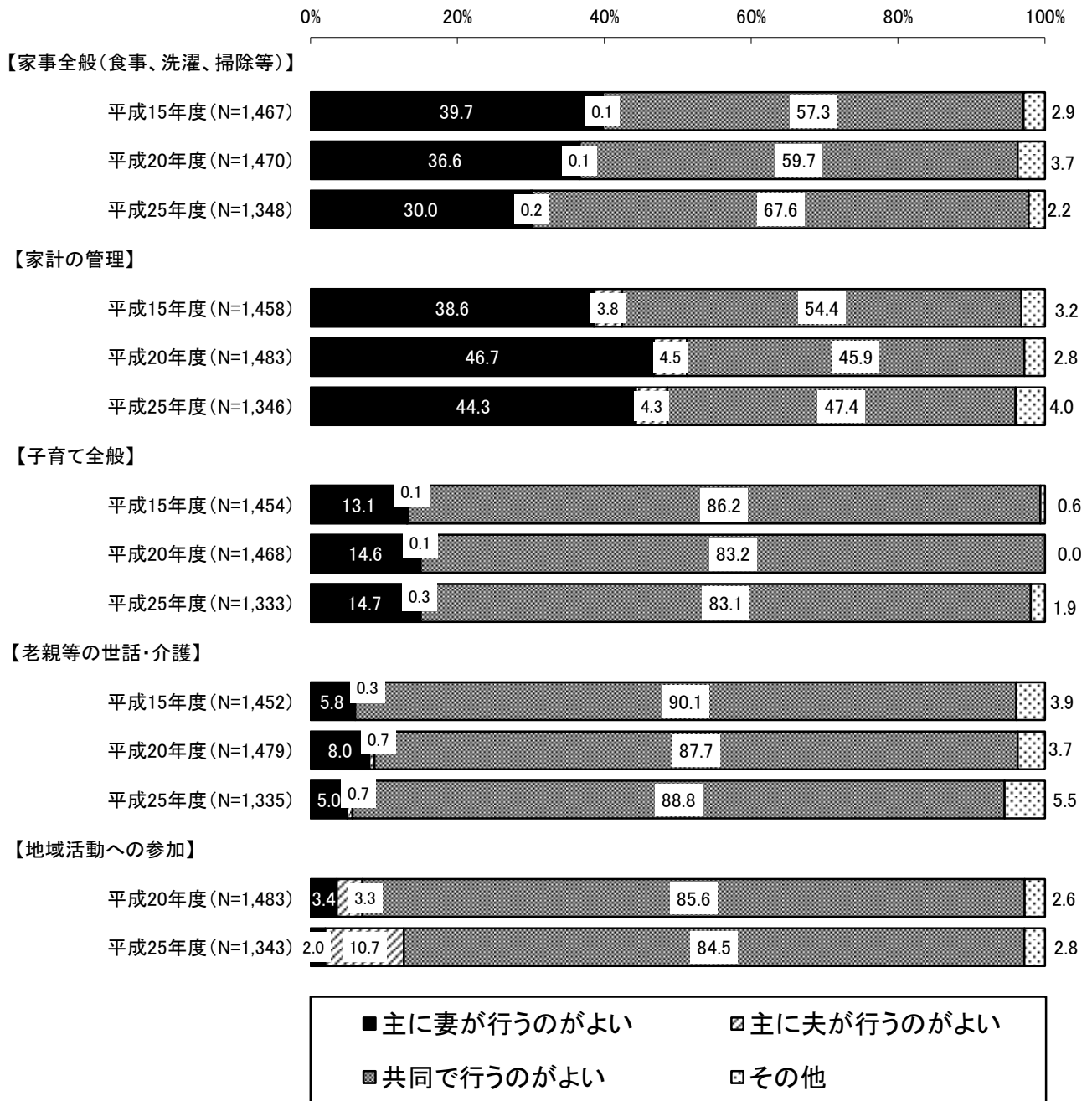
夫婦の役割分担についての考え方と実際・男女別比較

夫婦の役割分担についての考え方と実際を男女別に比較してみると、考え方ではすべての項目で男性の方が「主に妻が行うのがよい」割合が高くなっています。実際では女性で「主に妻が行う」割合が高く、男性で「共同で行う」割合が高くなっています。



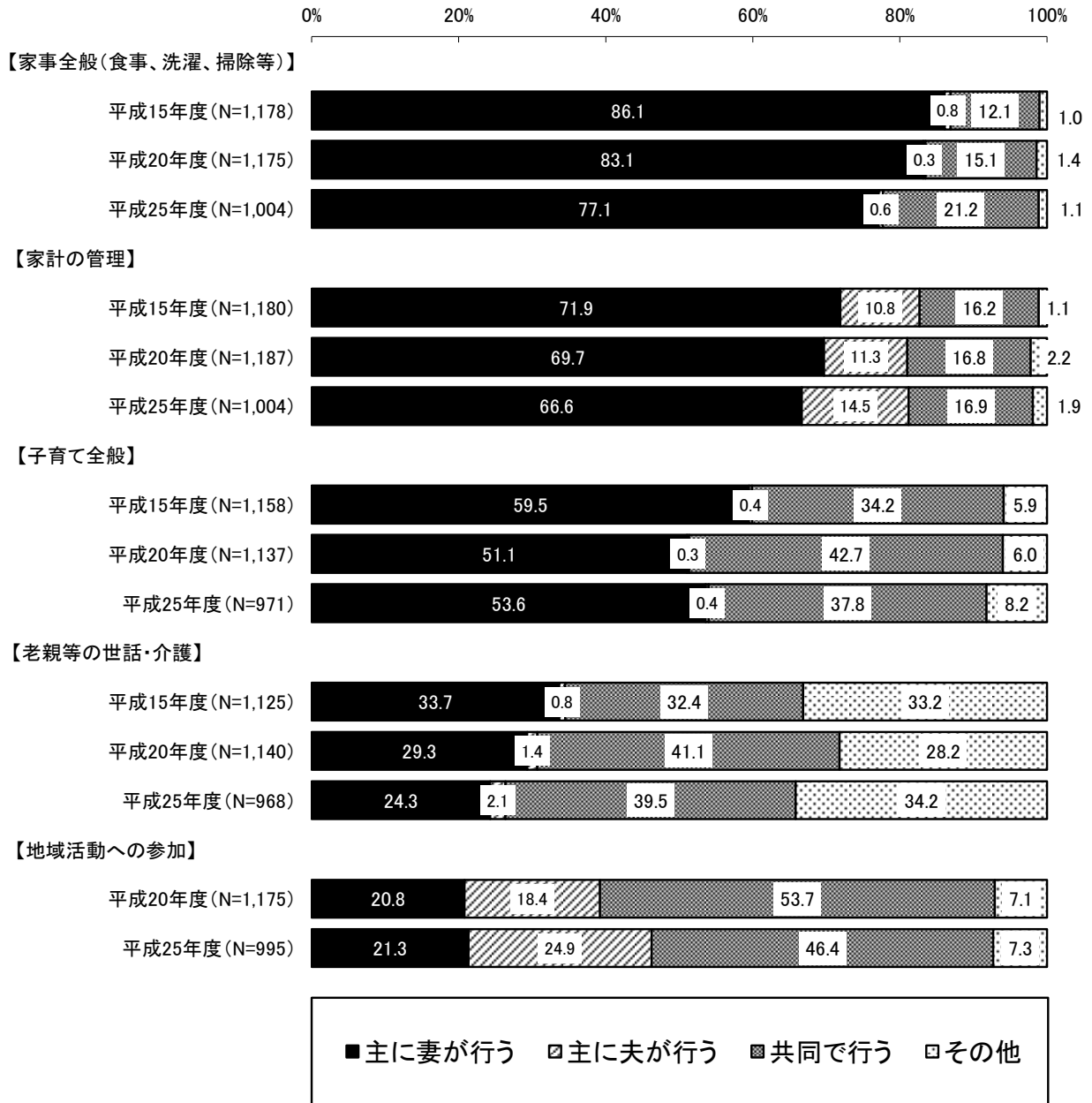
夫婦の役割分担についての考え方・経年比較

夫婦の役割分担についての理想を経年でみると、「家事全般（食事、洗濯、掃除等）」で「主に妻が行うのがよい」とする割合が低下しています。



実際の夫婦の役割分担・経年比較

実際の夫婦の役割分担を経年でみると、「家事全般（食事、洗濯、掃除等）」「家計の管理」「老親等の世話・介護」において、年々「主に妻が行う」割合が低下しています。



問4 家庭における子どもの育て方についてお伺いします。1～7について、「女の子の場合」と「男の子の場合」別に、あてはまるものを各々1つ選び○印をつけてください。それぞれの子育て経験のない方は、あなたの考えにより近いものに○印をつけてください。(単数回答)

家庭における子どもの育て方について、「そうしている」が最も高いものは、女の子、男の子ともに「7 言葉遣いや立ち居振る舞いを注意する」となっています。

男の子に比べて女の子で「そうしている」割合が高いものは「2 家事能力(料理、掃除など)のある子に育てる」「7 言葉遣いや立ち居振る舞いを注意する」となっています。

全体(N=1,383) 0% 20% 40% 60% 80% 100%

【1 女らしく、男らしく育てる】



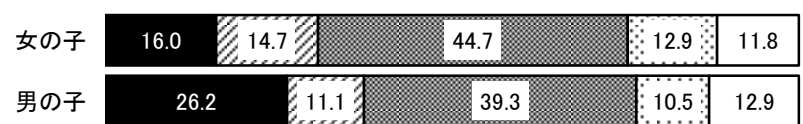
【2 家事能力(料理、掃除など)のある子に育てる】



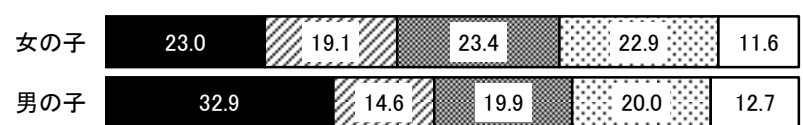
【3 経済力のある子に育てる】



【4 リーダーシップのある子に育てる】



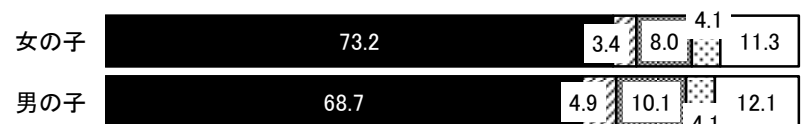
【5 4年制大学以上に進学させる】



【6 性別にとらわれず個性を伸ばすように育てる】



【7 言葉遣いや立ち居振る舞いを注意する】

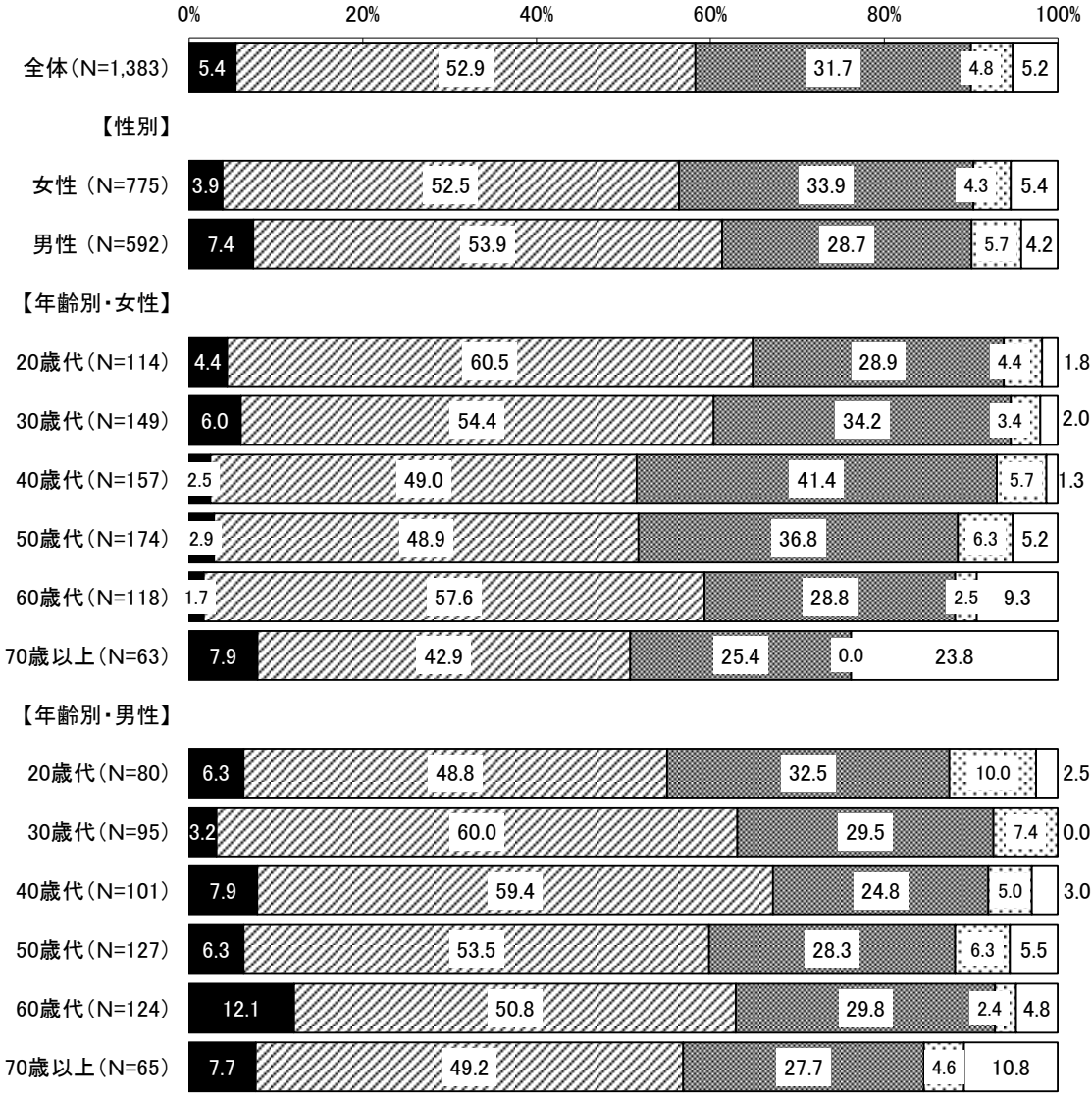


■ そうしている □ そうしていない ■ どちらでもない
□ わからない □ 不明・無回答

問5 介護についてお伺いします。家族に介護が必要な場合、あなたはどのようにしますか（していますか）。（単数回答）

家族の介護についての考えでは、「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護したい（している）」が52.9%と最も高く、次いで「特別養護老人ホーム等の施設で介護を受けさせたい（受けさせている）」が31.7%となっています。

男女別で見ると、男女ともに「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護したい（している）」が最も高くなっていますが、男性では女性に比べて「行政や外部のサービスには頼らず、自宅で介護したい（している）」がやや高くなっています。



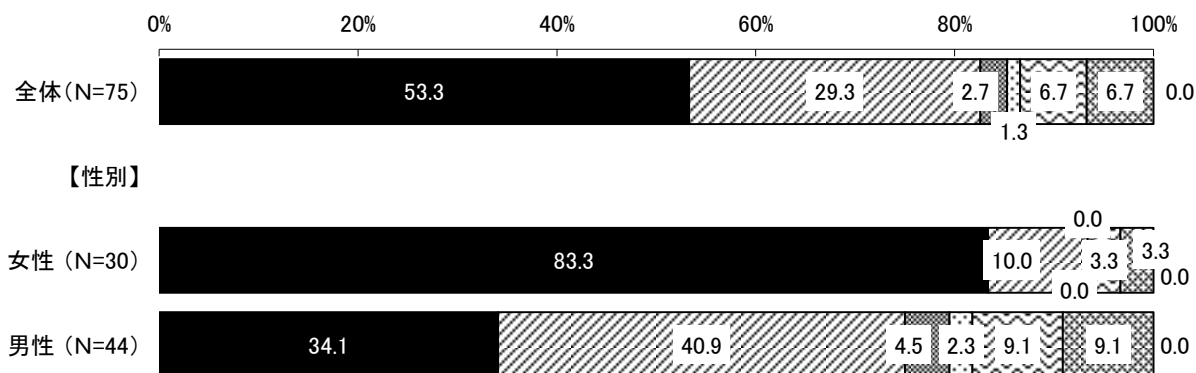
- 行政や外部のサービスには頼らず、自宅で介護したい(している)
- ▣ ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護したい(している)
- ▤ 特別養護老人ホーム等の施設で介護を受けさせたい(受けさせている)
- その他
- 不明・無回答

【問5で、「1」と回答された方のみ】

問6 自宅で家族を介護する（している）場合の主な介護者は誰ですか。（単数回答）

自宅で家族を介護する（している）場合の主な介護者では「主に、自分が介護すると思う（している）」が53.3%と最も高く、次いで「主に、自分の配偶者が介護すると思う（している）」が29.3%となっています。

男女別で見ると、女性では「主に、自分が介護すると思う（している）」が83.3%、男性では「主に、自分の配偶者が介護すると思う（している）」が40.9%となっており、それぞれ最も高くなっています。



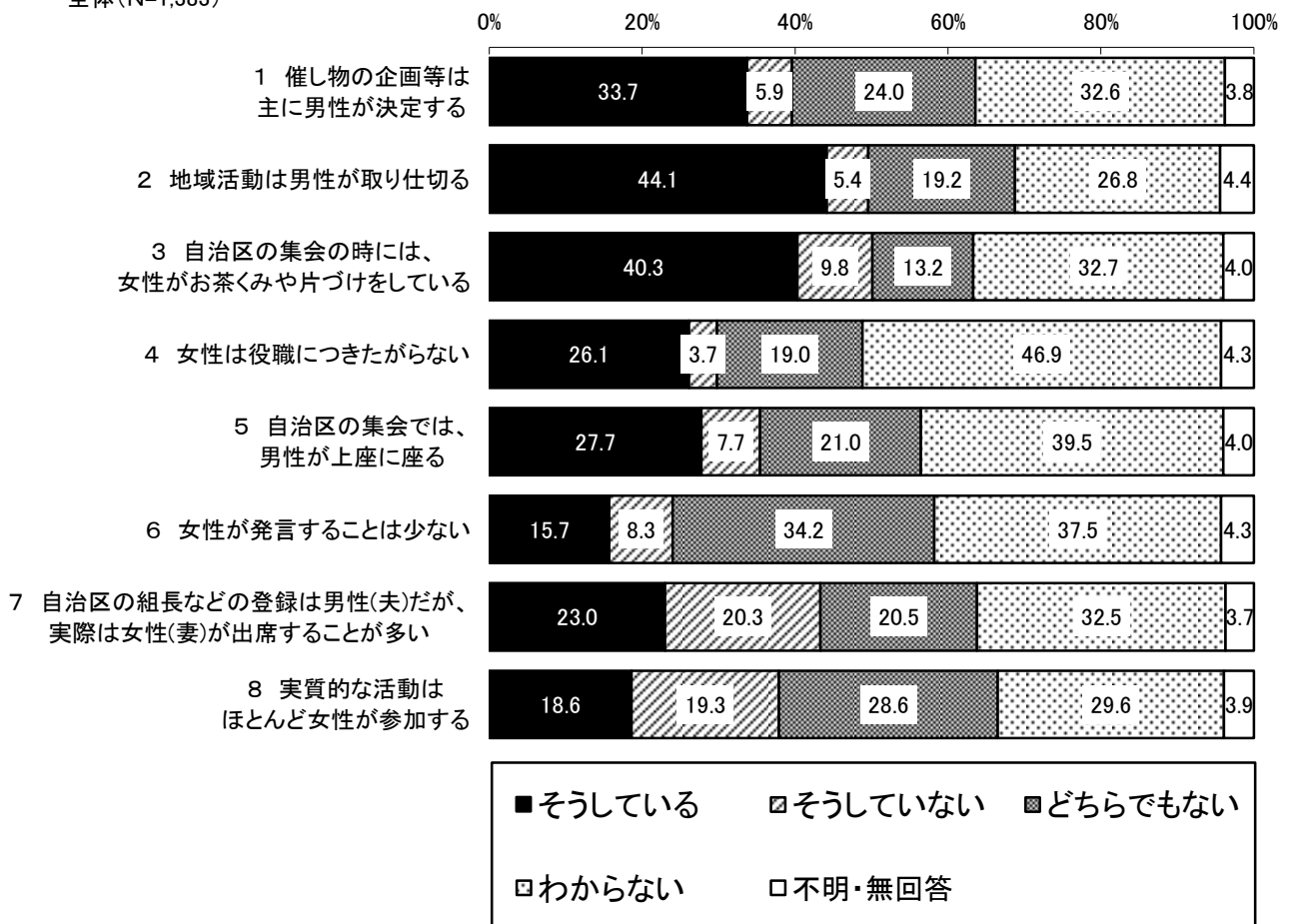
- 主に、自分が介護すると思う(している)
- ▣ 主に、自分の配偶者が介護すると思う(している)
- ▤ 主に、その他の家族(女性)が介護すると思う(している)
- ▥ 主に、その他の家族(男性)が介護すると思う(している)
- ▦ その他
- ▧ わからない
- 不明・無回答

5 地域活動における男女の役割分担について

問7 (1) あなたが参加している地域活動の現状について、【(1)現状】欄からあてはまるものを各々1つ選び○印をつけてください。(単数回答)

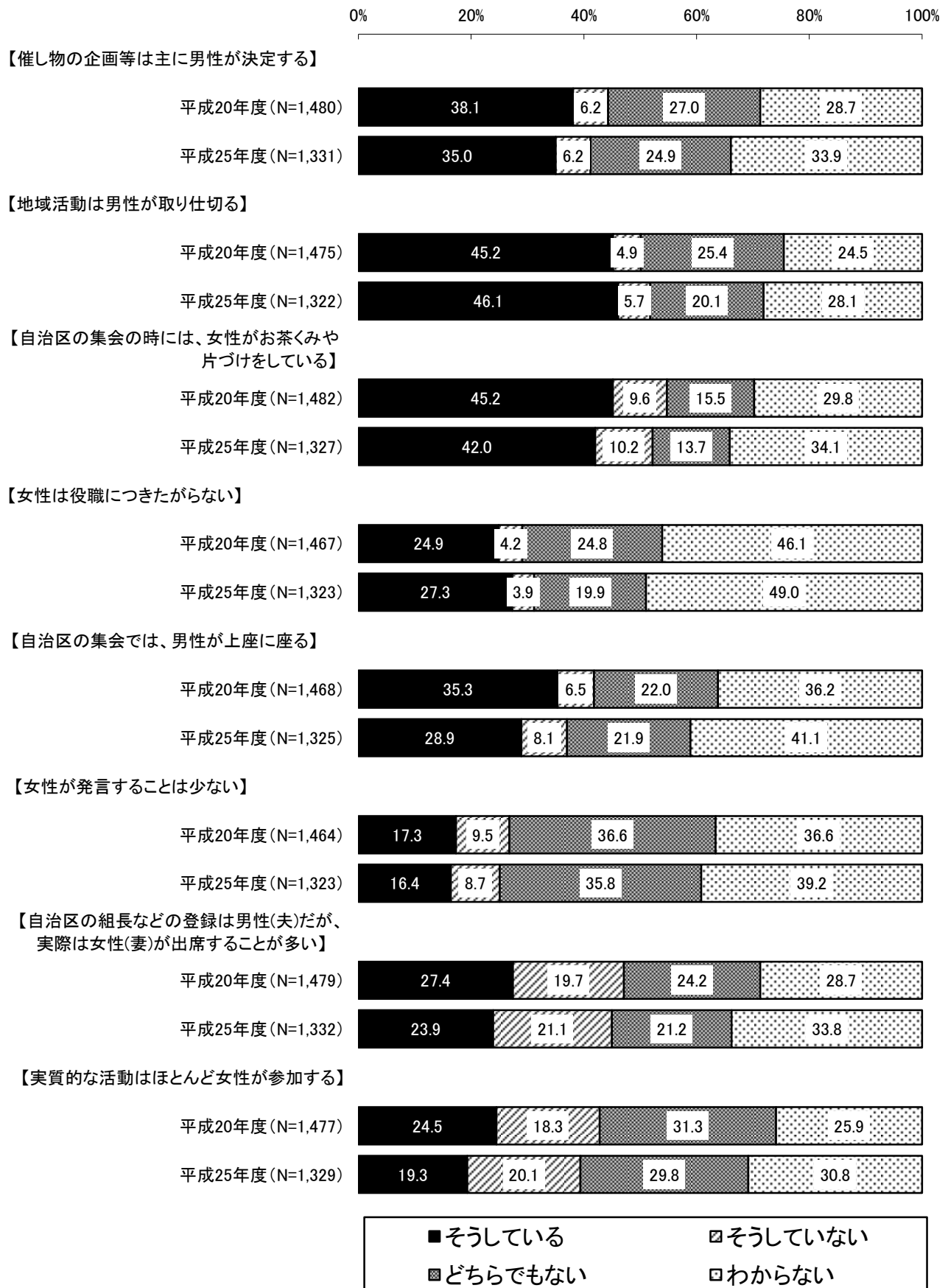
地域活動の現状について、「そうしている」割合が高いものは「2 地域活動は男性が取り仕切る」「3 自治会の集会の時には、女性がお茶くみや片づけをしている」「1 催し物の企画等は主に男性が決定する」となっています。また、「わからない」とする割合が項目全体を通じて高くなっています。

全体(N=1,383)



経年比較

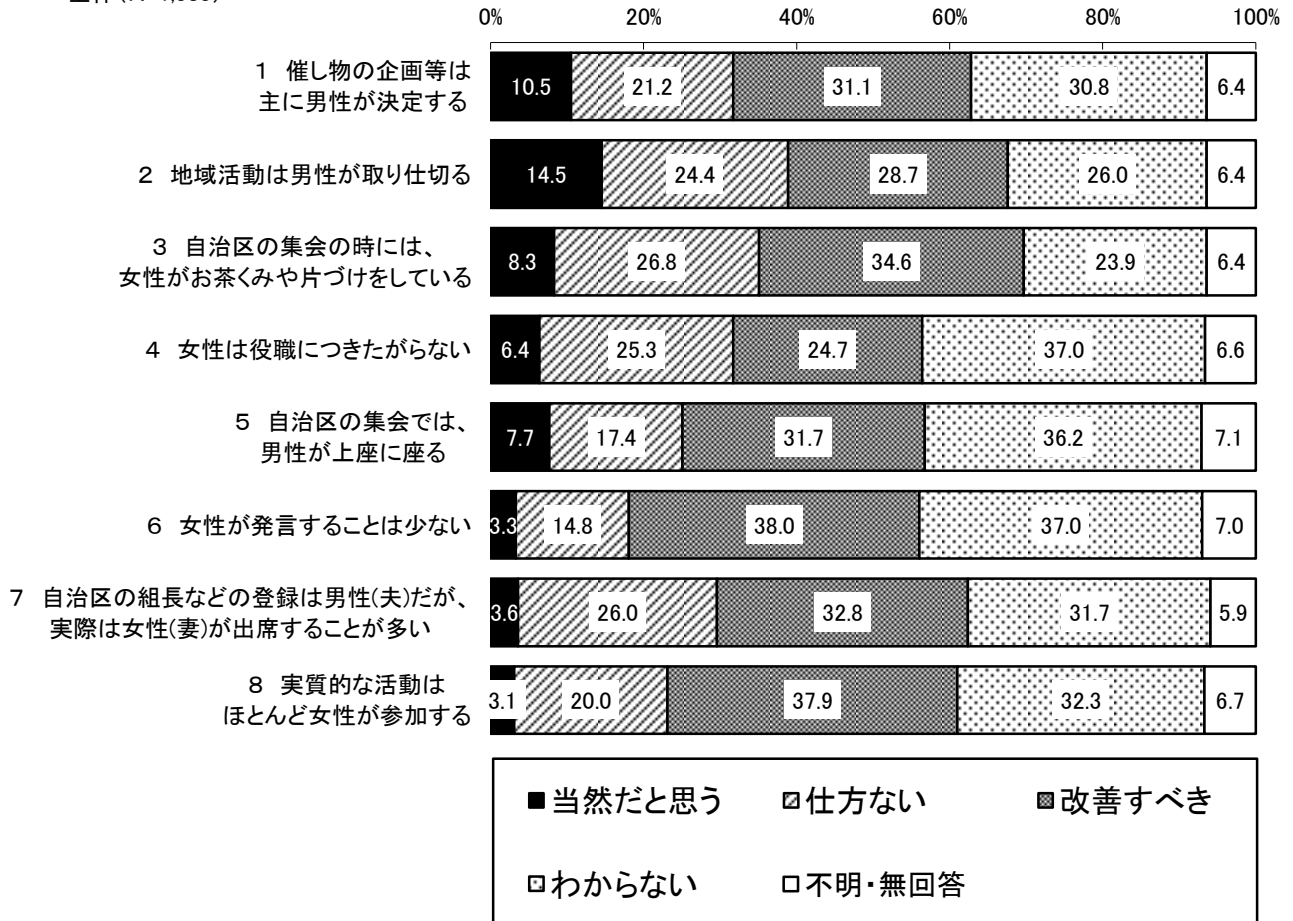
地域活動の現状について経年で比較すると、「地域活動は男性が取り仕切る」「女性は役職につきたがらない」以外の項目で「そうしている」割合が低下しています。



問7 (2) 地域活動の今後のあり方について、【(2)意識】欄からあなたの考えに最も近いものを各々1つ選び○印をつけてください。(単数回答)

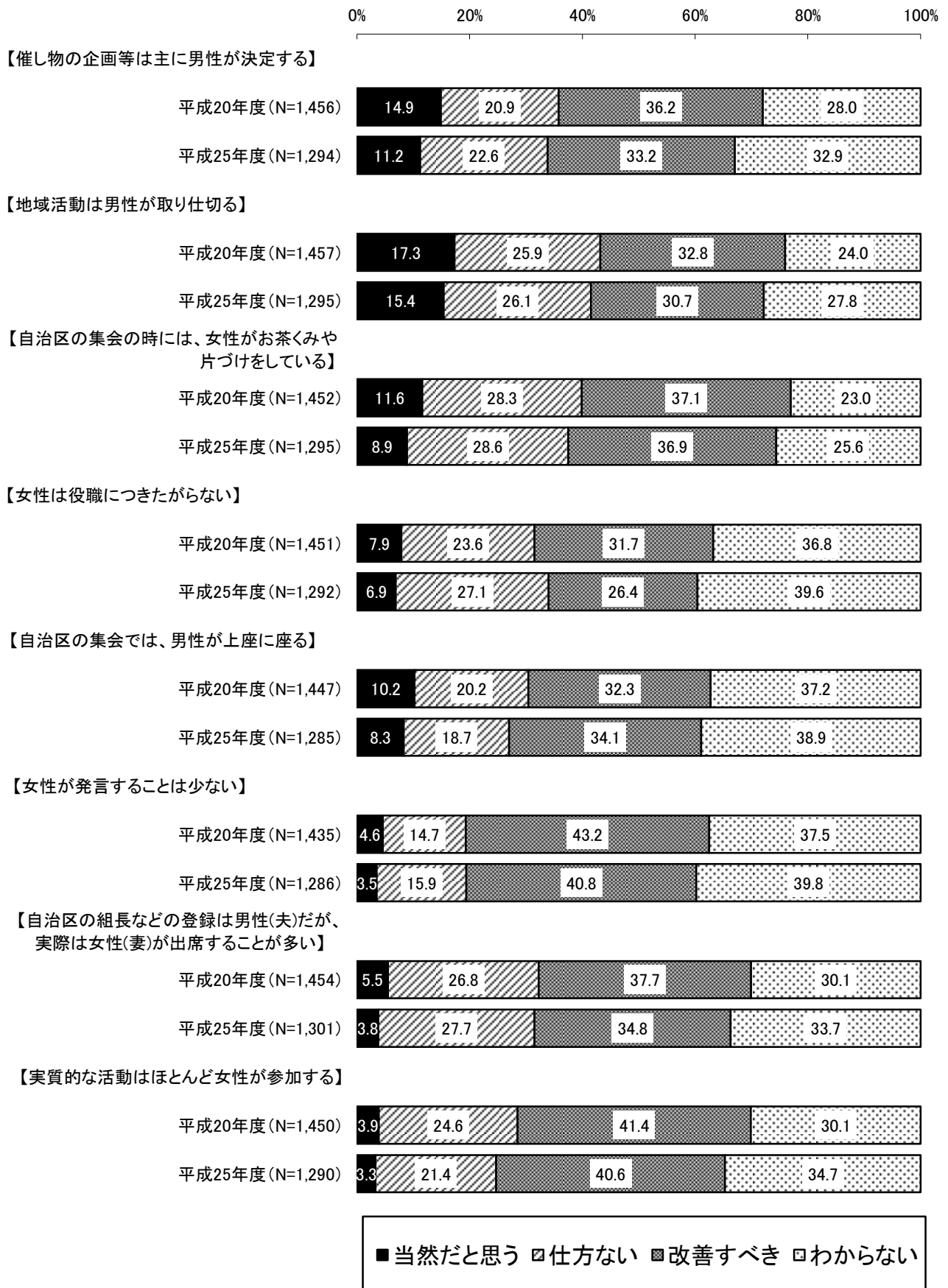
地域活動の今後のあり方についての考えでは、「改善すべき」が「6 女性が発言することは少ない」で38.0%、「8 実質的な活動はほとんど女性が参加する」で37.9%、「3 自治会の集会の時には女性がお茶くみや片づけをしている」で34.6%となっています。

全体(N=1,383)



経年比較

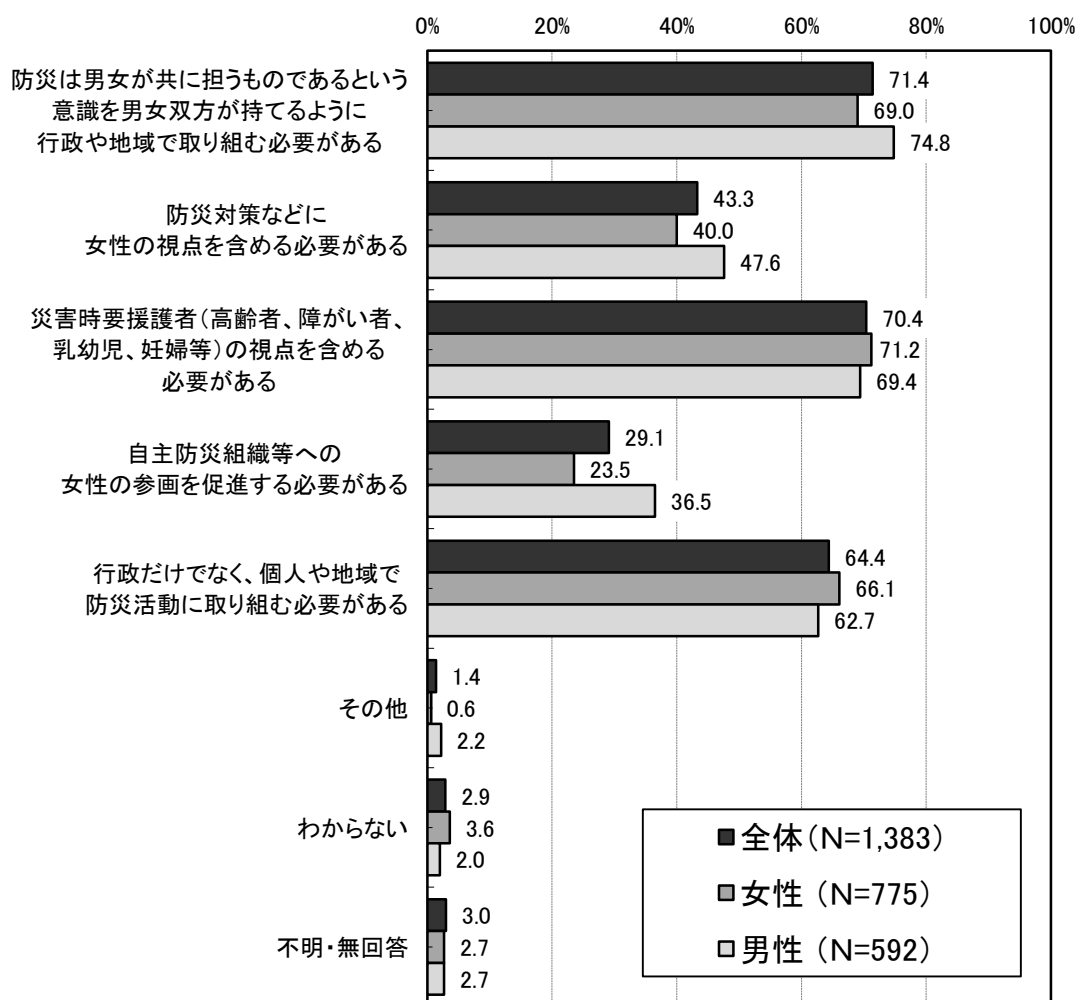
地域活動の今後のあり方についての考えを経年で比較すると、いずれの項目においても「当然だと思う」割合が低下しています。



問8 地域の防災（災害対策）活動を推進するにあたり、あなたはどのようにお考えですか。（複数回答）

地域の防災（災害対策）活動への考えについては、「防災は男女が共に担うものであるという意識を男女双方が持てるように行政や地域で取り組む必要がある」が71.4%と最も高く、次いで「災害時要援護者（高齢者、障がい者、乳幼児、妊婦等）の視点を含める必要がある」が70.4%となっています。また、男女ともに「防災対策などに女性の視点を含める必要がある」「自主防災組織等への女性の参画を促進する必要がある」では割合が低くなっています。

男女別でみると、女性では「災害時要援護者（高齢者、障がい者、乳幼児、妊婦等）の視点を含める必要がある」が71.2%、男性では「防災は男女が共に担うものであるという意識を男女双方が持てるように行政や地域で取り組む必要がある」が74.8%と、それぞれ最も高くなっています。



年齢別比較

年齢別では、いずれも「防災は男女が共に担うものであるという意識を男女双方が持てるように行政や地域で取り組む必要がある」「災害時要援護者（高齢者、障がい者、乳幼児、妊婦等）の視点を含める必要がある」が高くなっています。

「防災対策などに女性の視点を含める必要がある」は、女性の50歳代以上で低くなっています。

	防災は男女が共に担うものであるという意識を男女双方が持てるように行政や地域で取り組む必要がある	防災対策などに女性の視点を含める必要がある	災害時要援護者（高齢者、障がい者、乳幼児、妊婦等）の視点を含める必要がある	自主防災組織等への女性の参画を促進する必要がある	行政だけでなく、個人や地域で防災活動に取り組む必要がある	その他	わからない	不明・無回答
【年齢別・女性】								
20歳代（N=114）	78.9	43.9	76.3	21.1	61.4	1.8	3.5	0.0
30歳代（N=149）	68.5	47.7	77.2	22.1	67.8	1.3	4.0	1.3
40歳代（N=157）	64.3	43.3	74.5	24.2	71.3	0.6	2.5	0.0
50歳代（N=174）	66.1	37.9	73.0	21.3	63.2	0.0	4.6	2.3
60歳代（N=118）	73.7	29.7	61.9	26.3	69.5	0.0	2.5	5.1
70歳以上（N=63）	63.5	31.7	52.4	30.2	58.7	0.0	4.8	14.3
【年齢別・男性】								
20歳代（N=80）	75.0	48.8	70.0	27.5	53.8	1.3	1.3	1.3
30歳代（N=95）	64.2	43.2	74.7	35.8	58.9	6.3	3.2	3.2
40歳代（N=101）	70.3	54.5	69.3	34.7	65.3	0.0	1.0	5.0
50歳代（N=127）	74.8	46.5	70.1	33.1	59.1	3.9	3.1	1.6
60歳代（N=124）	84.7	49.2	69.4	47.6	71.8	0.8	1.6	0.8
70歳以上（N=65）	78.5	41.5	60.0	36.9	64.6	0.0	1.5	6.2

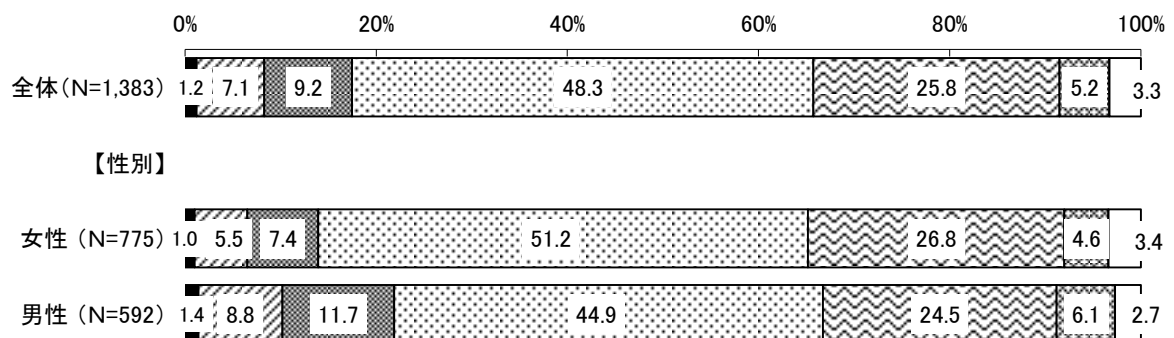
※不明・無回答を除き、回答の高いもの第1位と第2位に網掛けをしています。

6 職場における男女の役割分担について

問9 一般的に、女性が仕事を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。(単数回答)

女性が仕事を持つことについての考えでは、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つほうがよい」が48.3%と最も高く、次いで「子どもができて、ずっと仕事を続けるほうがよい」が25.8%となっています。

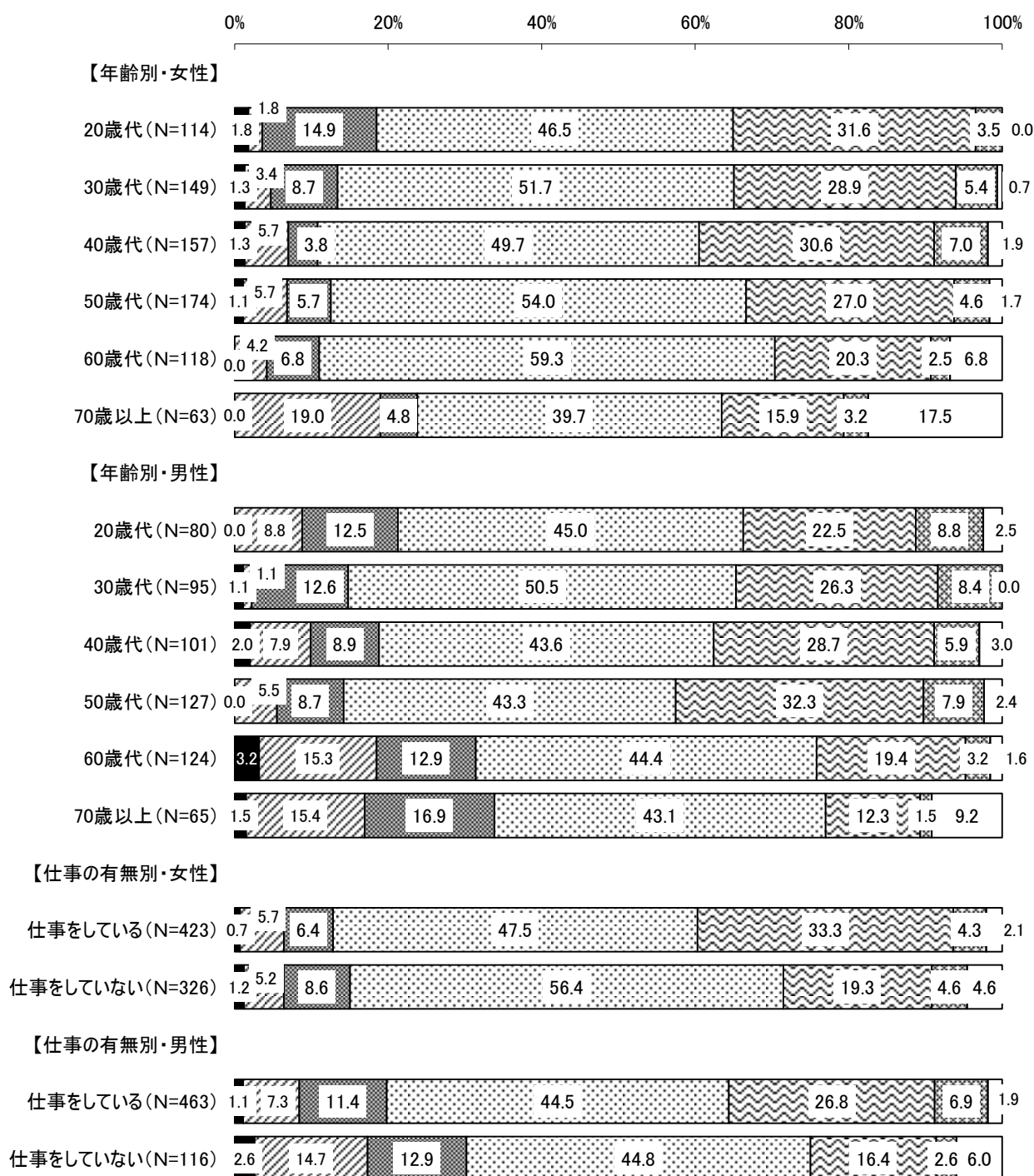
男女別でみると、男女ともに「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つほうがよい」が最も高くなっています。



- 女性は仕事を持たなくてもよい
- ▣ 結婚するまでは仕事を持つほうがよい
- ▣ 子どもができるまでは、仕事を持つほうがよい
- ▣ 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つほうがよい
- ▣ 子どもができて、ずっと仕事を続けるほうがよい
- ▣ その他
- 不明・無回答

年齢別・仕事の有無別比較

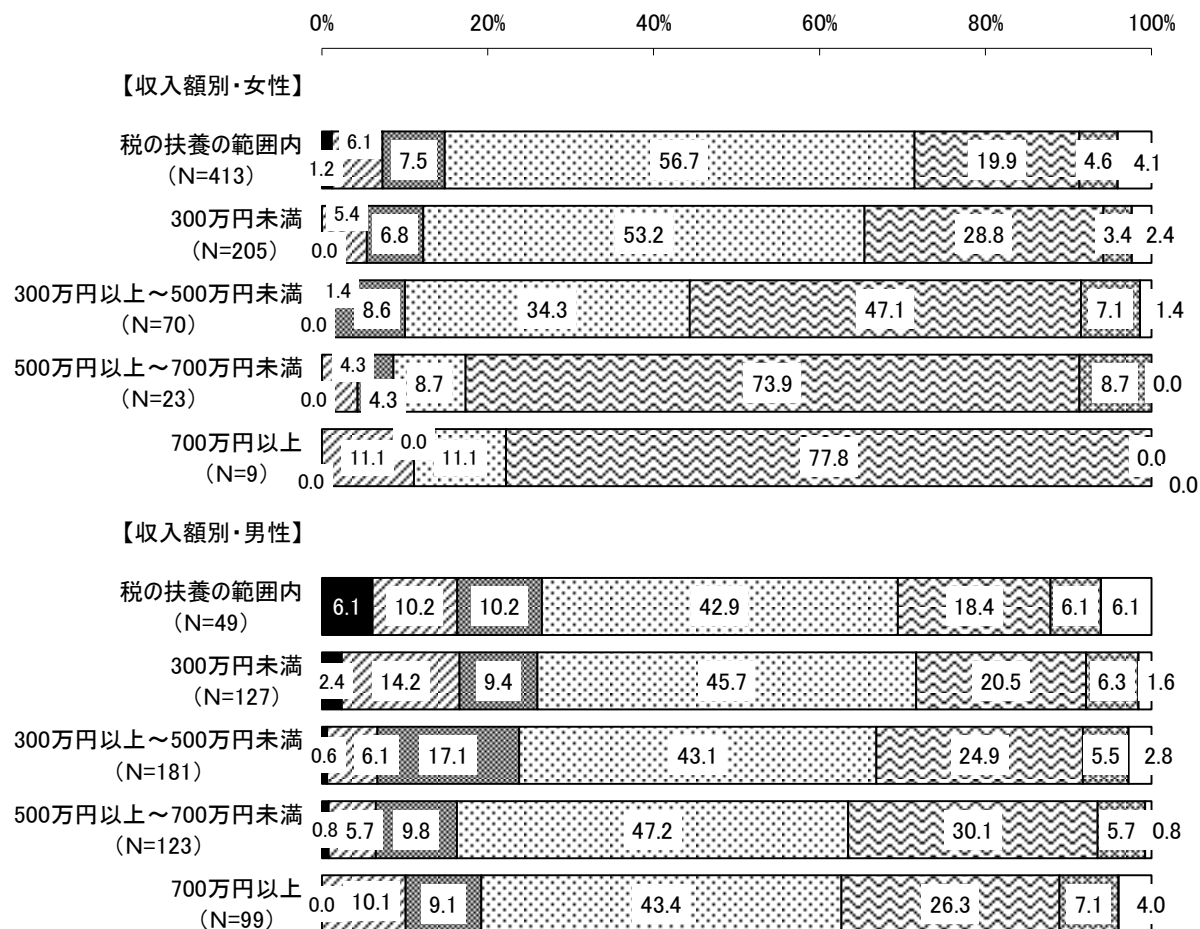
年齢別では、女性では40歳代で、男性では50歳代で「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」割合が高くなっています。



- 女性は仕事を持たなくてもよい
- ▨ 結婚するまでは仕事を持つ方がよい
- ▩ 子どもができるまでは、仕事を持つ方がよい
- ▧ 子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい
- ▦ 子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい
- ▤ その他
- 不明・無回答

年間収入額別比較

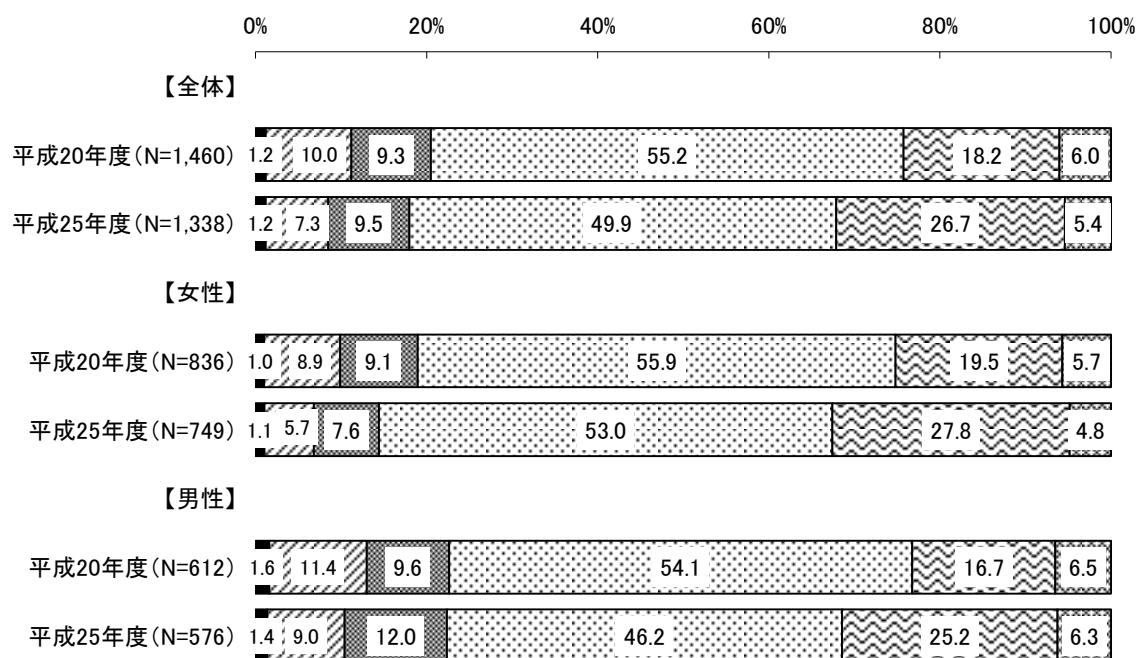
女性では年収が上がるにつれ「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」割合が高くなる傾向にあります。



- 女性は仕事を持たなくてもよい
- ▣ 結婚するまでは仕事を持つ方がよい
- ▣ 子どもができるまでは、仕事を持つ方がよい
- ▣ 子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい
- ▣ 子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい
- ▣ その他
- 不明・無回答

経年比較

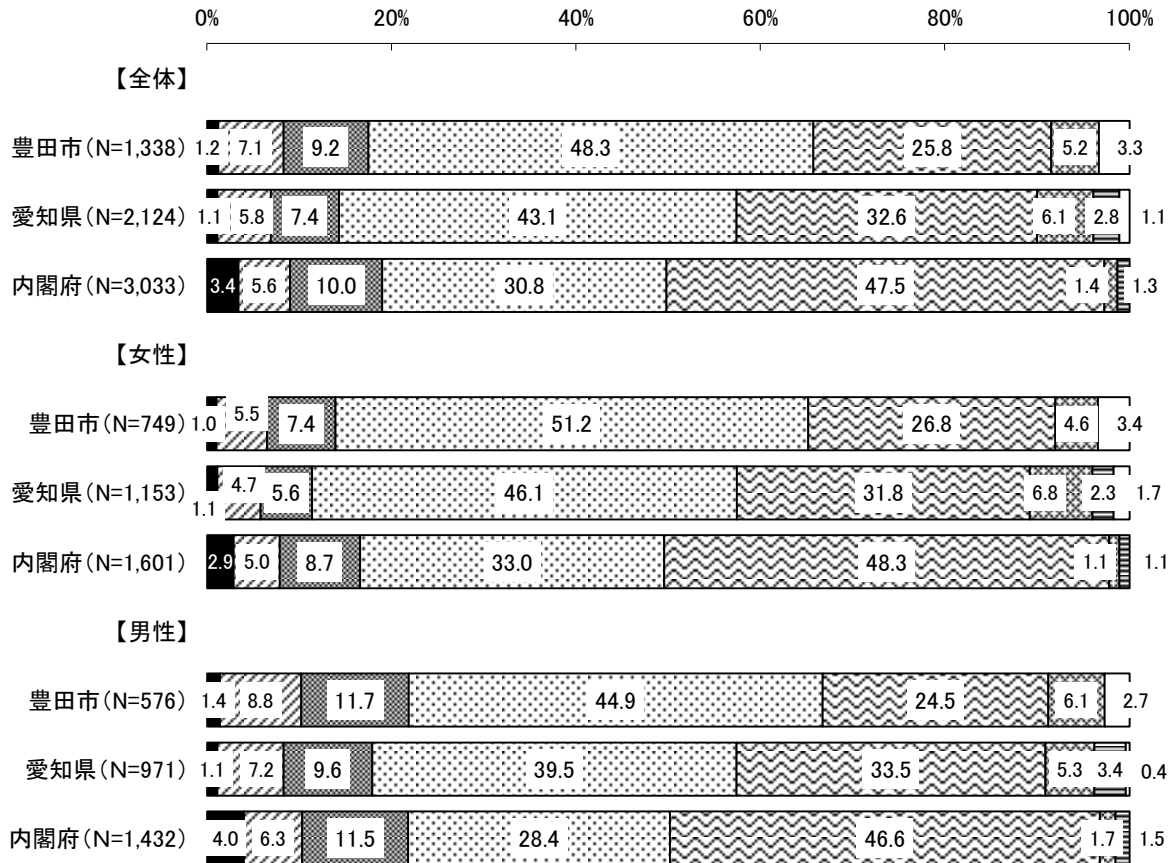
女性が仕事を持つことについての考えを経年で比較すると、「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」割合が男女ともに高まっています。



- 女性は仕事を持たなくてもよい
- 結婚するまでは仕事を持つ方がよい
- 子どもができるまでは、仕事を持つ方がよい
- 子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい
- 子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい
- その他

内閣府調査（全国）・愛知県調査との比較

内閣府において平成 24 年度に実施した「男女共同参画社会に関する世論調査」、愛知県において平成 20 年度に実施した「男女共同参画意識に関する調査」と比較すると、豊田市では男女ともに「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つほうがよい」が高く、「子どもができて、ずっと仕事を続けるほうがよい」割合が低くなっています。



- 女性は仕事を持たなくてもよい
- 結婚するまでは仕事を持つほうがよい
- 子どもができるまでは、仕事を持つほうがよい
- 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つほうがよい
- 子どもができて、ずっと仕事を続けるほうがよい
- その他
- わからない
- 不明・無回答

※内閣府調査、愛知県調査には「わからない」の選択肢がある。

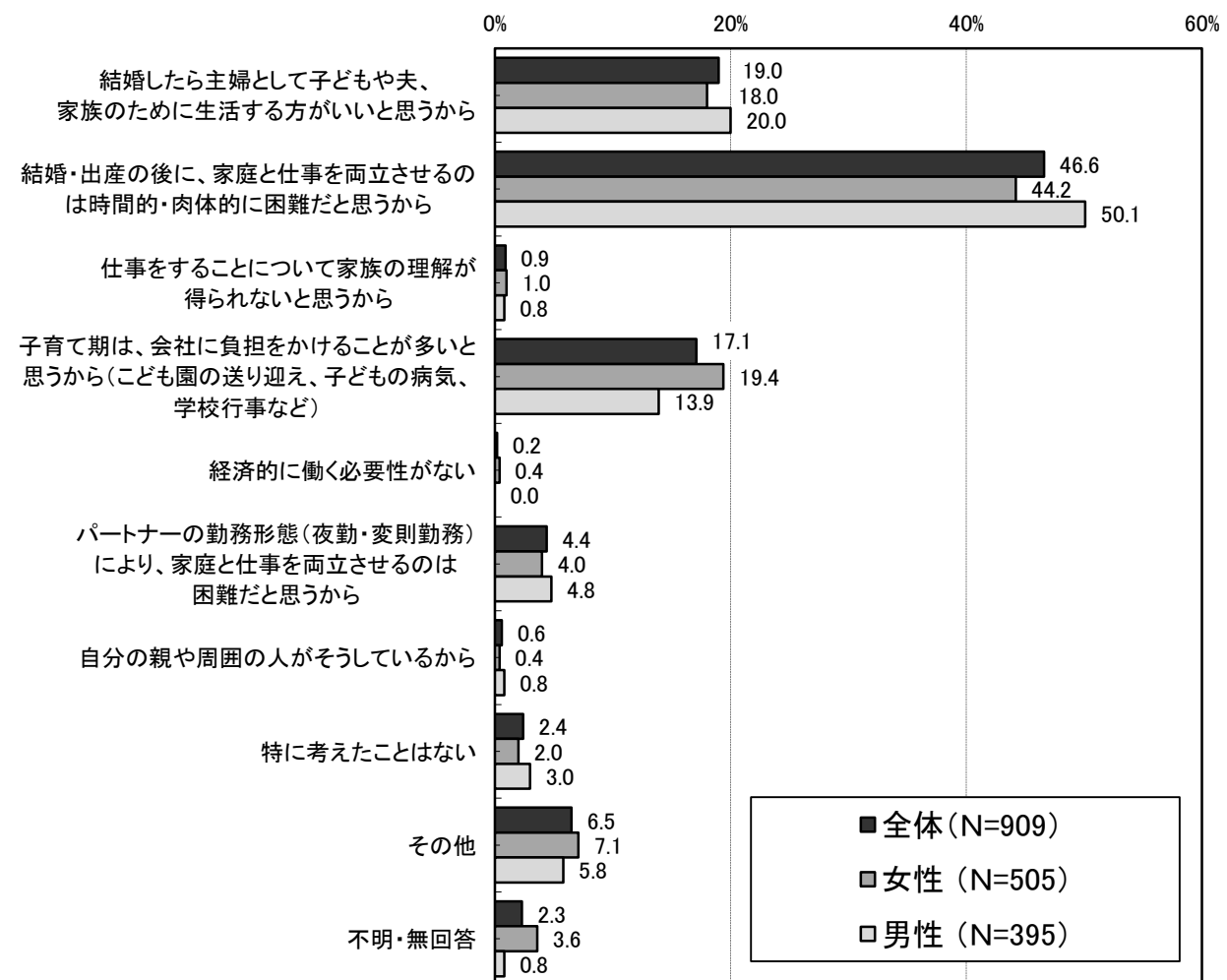
※内閣府調査は、調査員が直接聴き取る方法で調査を行っているため、「不明・無回答」がない。

【問9で「女性は仕事を持たなくてもよい」「結婚するまでは仕事を持つ方がよい」「子どもができるまでは、仕事を持つ方がよい」「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」と回答した方のみ】

問10 仕事をしない方がよいと考える理由は何ですか。(単数回答)

仕事をしない方がよいと考える理由については、「結婚・出産の後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから」が46.6%と最も高く、次いで「結婚したら主婦として子どもや夫、家族のために生活する方がよいと思うから」が19.0%となっています。

男女別でみると、男女ともに「結婚・出産の後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから」が最も高く、次いで女性では「子育て期は、会社に負担をかけることが多いと思うから(こども園の送り迎え、子どもの病気、学校行事など)」、男性では「結婚したら主婦として子どもや夫、家族のために生活する方がよいと思うから」が続いています。



年齢別比較・仕事の有無別比較

年齢別、仕事の有無別にみると、いずれも「結婚・出産の後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから」が最も高くなっています。女性の30歳代から60歳代、働いている女性では、次いで「子育て期は、会社に負担をかけることが多いと思うから」が高くなっています。

	結婚したら主婦として子どもや夫、家族のために生活する方がいいと思うから	結婚・出産の後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから	仕事をする事について家族の理解が得られないと思うから	子育て期は、会社に負担をかけることが多いと思うから（こどもの送り迎え、子どもの病気、学校行事など）	経済的に働く必要性がない	パートナーの勤務形態（夜勤・変則勤務）により、家庭と仕事を両立させるのは困難だと思うから	自分の親や周囲の人がそうしているから	特に考えたことはない	その他	不明・無回答
【年齢別・女性】										
20歳代（N=74）	29.7	47.3	0.0	4.1	1.4	1.4	1.4	1.4	12.2	1.4
30歳代（N=97）	18.6	45.4	1.0	22.7	0.0	3.1	0.0	0.0	5.2	4.1
40歳代（N=95）	14.7	52.6	1.1	15.8	0.0	5.3	0.0	2.1	8.4	0.0
50歳代（N=116）	10.3	45.7	1.7	20.7	1.7	1.7	0.9	3.4	9.5	4.3
60歳代（N=83）	18.1	33.7	0.0	30.1	1.2	9.6	0.0	2.4	1.2	3.6
70歳以上（N=40）	25.0	27.5	7.5	17.5	0.0	2.5	0.0	2.5	5.0	12.5
【年齢別・男性】										
20歳代（N=53）	11.3	54.7	1.9	7.5	0.0	3.8	1.9	7.5	9.4	1.9
30歳代（N=62）	16.1	51.6	3.2	12.9	1.6	4.8	0.0	1.6	8.1	0.0
40歳代（N=63）	17.5	60.3	1.6	6.3	0.0	4.8	1.6	1.6	6.3	0.0
50歳代（N=73）	21.9	43.8	2.7	15.1	0.0	5.5	0.0	4.1	6.8	0.0
60歳代（N=94）	25.5	43.6	1.1	18.1	1.1	4.3	0.0	2.1	2.1	2.1
70歳以上（N=50）	24.0	42.0	2.0	18.0	0.0	6.0	2.0	2.0	4.0	0.0
【仕事の有無別・女性】										
仕事をしている（N=255）	16.9	46.7	0.8	19.6	0.8	3.9	0.4	2.7	5.5	2.7
仕事をしていない（N=233）	19.3	41.2	2.1	18.5	0.9	3.9	0.4	1.3	7.7	4.7
【仕事の有無別・男性】										
仕事をしている（N=298）	19.1	50.7	2.0	12.1	0.7	4.4	0.7	3.0	7.0	0.3
仕事をしていない（N=87）	23.0	42.5	2.3	18.4	0.0	6.9	1.1	3.4	1.1	1.1

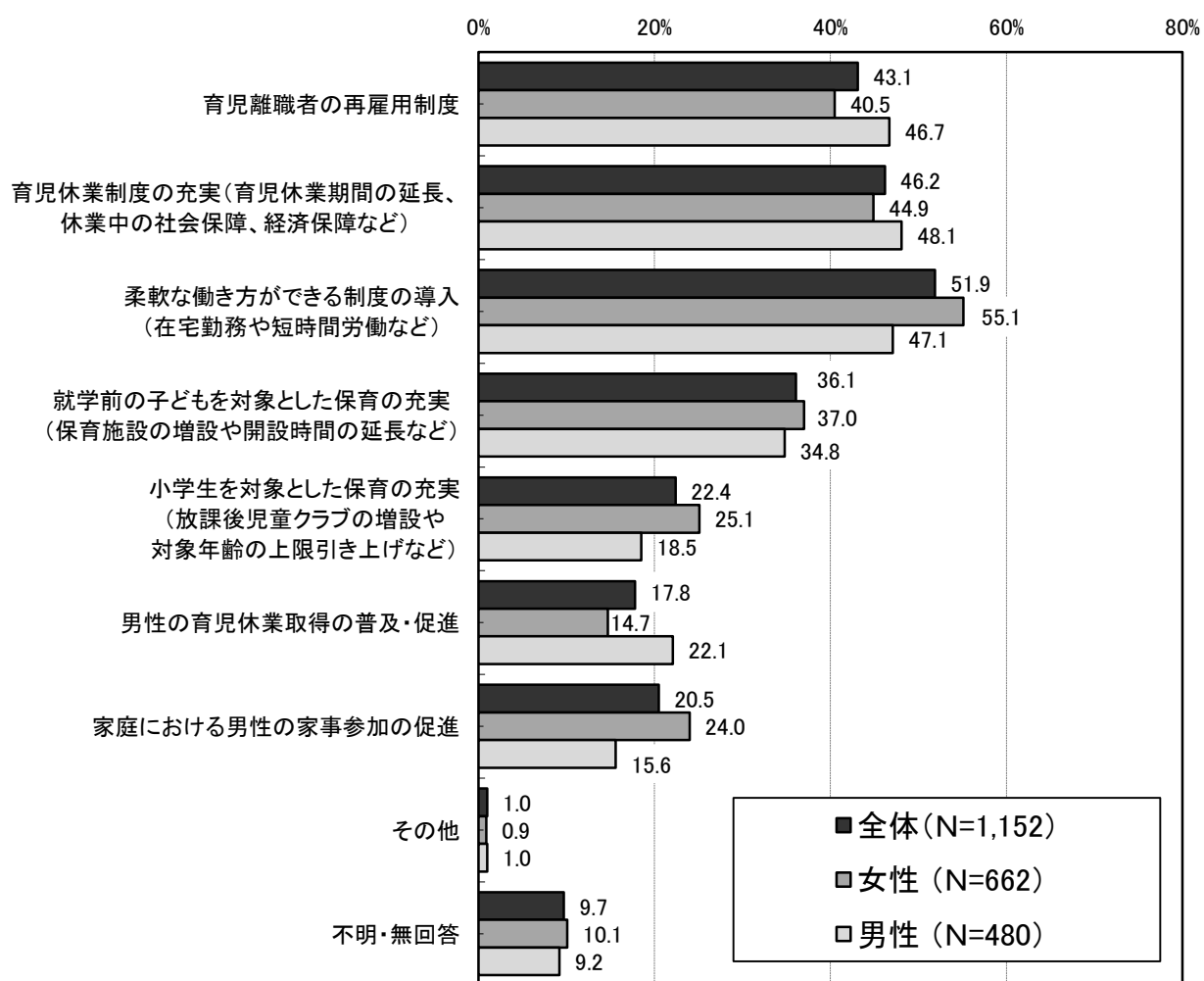
※不明・無回答を除き、回答の高いもの第1位と第2位に網掛けをしています。

【問9で「子どもができるまでは、仕事を持つ方がよい」「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」と回答した方のみ】

問11 結婚・出産後に女性が仕事をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

結婚・出産後に女性が仕事をするために必要なことについては、「柔軟な働き方ができる制度の導入(在宅勤務や短時間労働など)」が51.9%と最も高く、次いで「育児休業制度の充実(育児休業期間の延長、休業中の社会保障、経済保障など)」が46.2%、「育児離職者の再雇用制度」が43.1%となっています。

男女別で見ると、女性では「柔軟な働き方ができる制度の導入(在宅勤務や短時間労働など)」が55.1%、男性では「育児休業制度の充実(育児休業期間の延長、休業中の社会保障、経済保障など)」が48.1%とそれぞれ最も高くなっています。



年齢別比較・仕事の有無別比較

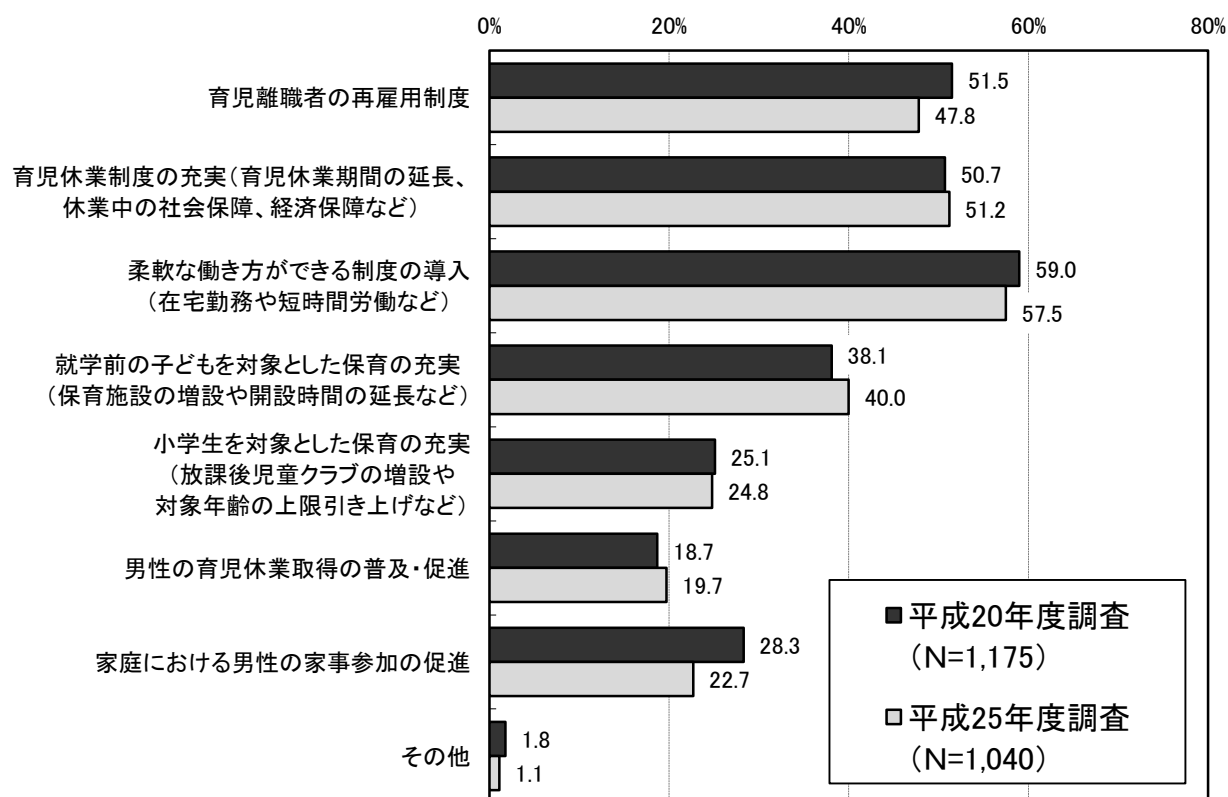
年齢別、仕事の有無別にみると、30歳代から50歳代までの女性で「柔軟な働き方ができる制度の導入（在宅勤務や短時間労働など）」が最も高くなっています。

	育児離職者の再雇用制度	育児休業制度の充実（育児休業期間の延長、休業中の社会保障、経済保障など）	柔軟な働き方ができる制度の導入（在宅勤務や短時間労働など）	就学前の子どもを対象とした保育の充実（保育施設の増設や開設時間の延長など）	小学生を対象とした保育の充実（放課後児童クラブの増設や対象年齢の上限引き上げなど）	男性の育児休業取得の普及・促進	家庭における男性の家事参加の促進	その他	不明・無回答
【年齢別・女性】									
20歳代（N=106）	47.2	67.9	59.4	43.4	15.1	17.0	24.5	0.0	3.8
30歳代（N=133）	39.8	39.1	65.4	39.8	36.1	13.5	29.3	1.5	6.8
40歳代（N=132）	35.6	34.1	62.9	34.8	29.5	19.7	21.2	0.0	11.4
50歳代（N=151）	38.4	47.7	54.3	33.8	23.8	13.2	23.2	0.0	12.6
60歳代（N=102）	44.1	42.2	37.3	39.2	21.6	11.8	17.6	2.0	12.7
70歳以上（N=38）	39.5	34.2	31.6	23.7	13.2	7.9	34.2	5.3	18.4
【年齢別・男性】									
20歳代（N=64）	43.8	50.0	45.3	31.3	10.9	20.3	12.5	0.0	6.3
30歳代（N=85）	44.7	51.8	50.6	31.8	24.7	28.2	16.5	1.2	4.7
40歳代（N=82）	51.2	42.7	47.6	31.7	18.3	30.5	12.2	2.4	12.2
50歳代（N=107）	47.7	49.5	57.0	34.6	14.0	21.5	15.9	1.9	4.7
60歳代（N=95）	48.4	49.5	44.2	44.2	24.2	12.6	18.9	0.0	12.6
70歳以上（N=47）	40.4	42.6	25.5	31.9	17.0	19.1	17.0	0.0	19.1
【仕事の有無別・女性】									
仕事をしている（N=369）	41.5	48.8	57.2	37.4	24.7	14.1	23.6	0.8	9.5
仕事をしていない（N=275）	40.0	39.6	53.1	36.7	24.7	14.9	23.6	1.1	11.3
【仕事の有無別・男性】									
仕事をしている（N=383）	46.5	48.3	49.3	35.2	18.5	23.0	15.4	1.3	7.3
仕事をしていない（N=86）	47.7	46.5	34.9	33.7	17.4	17.4	17.4	-	16.3

※不明・無回答を除き、回答の高いもの第1位と第2位に網掛けをしています。

経年比較

結婚・出産後に女性が仕事をするために必要なことを経年で比較すると、「家庭における男性の家事参加の促進」「育児離職者の再雇用制度」の割合が低下しています。

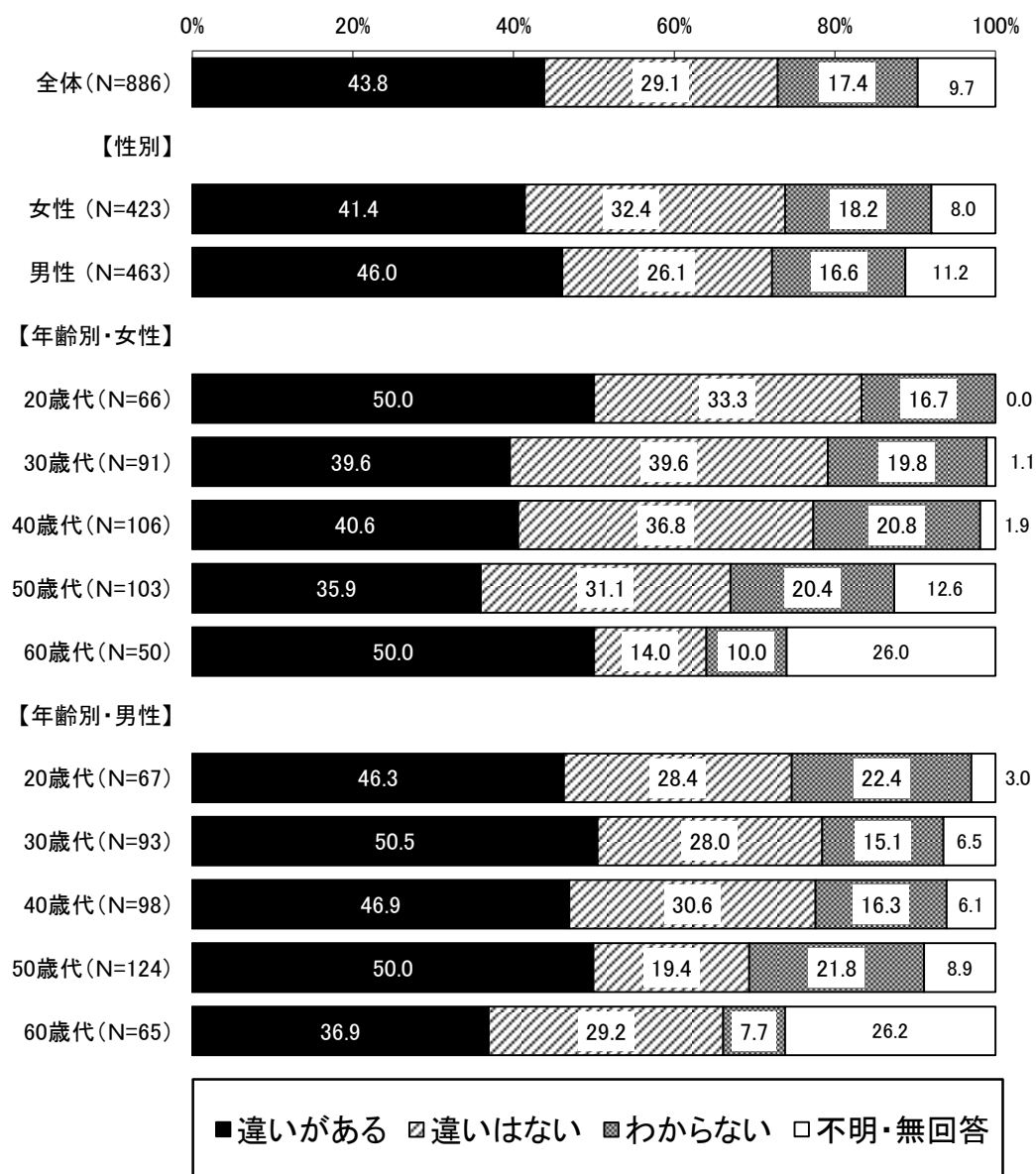


【現在働いている方のみ】

問 12（1） あなたの職場では、職場の慣行や待遇、仕事の内容等で、性別による違いがあると思いますか。（単数回答）

職場の慣行や待遇、仕事の内容等での性別による違いについては、「違いがある」が43.8%、「違いはない」が29.1%となっています。

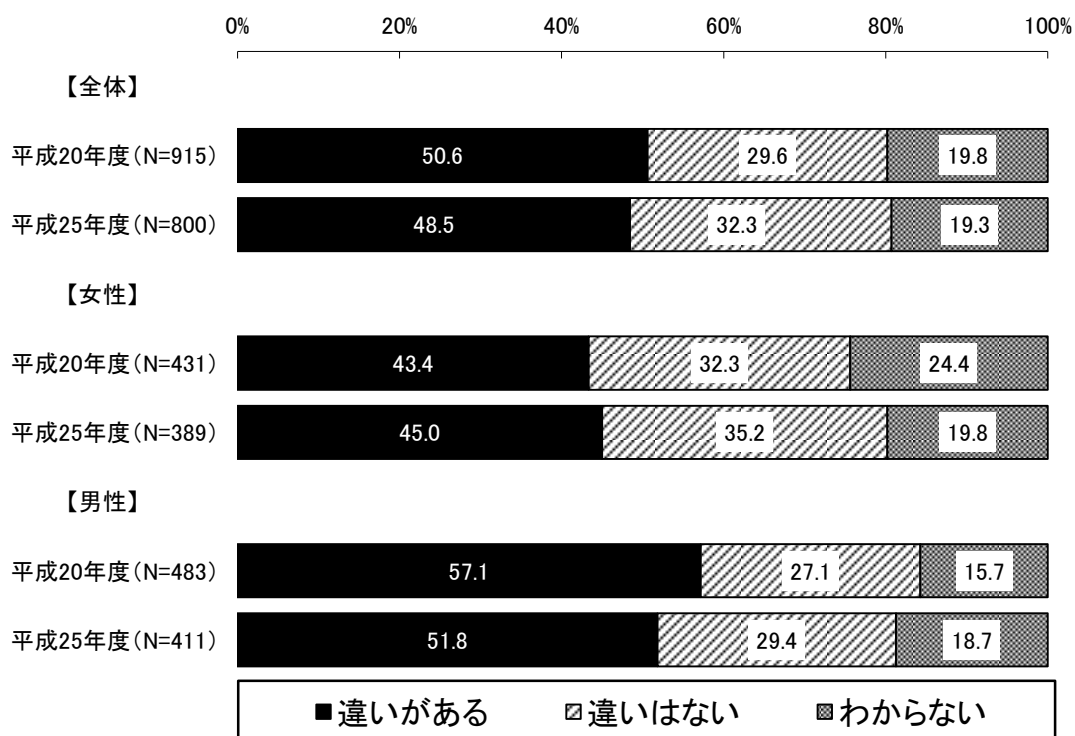
男女別でみると、女性に比べて男性で「違いがある」とする割合がやや高くなっています。



※女性、男性ともに「70歳以上」は回答者数が少ないため割愛

経年比較

職場の慣行や待遇、仕事の内容等での性別による違いについて経年で比較すると、男性で「違いがある」割合が低下しています。

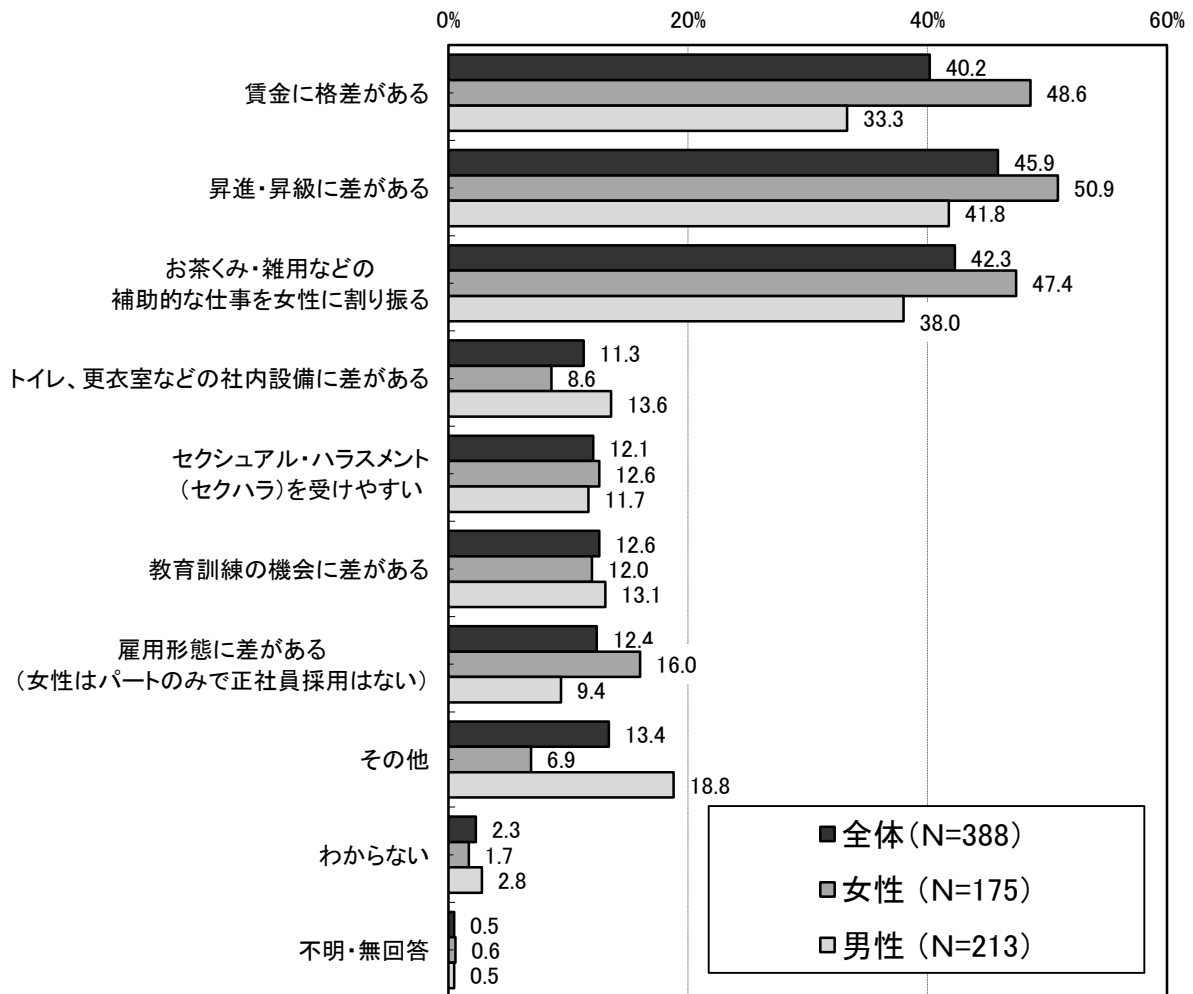


【問12(1)で「1 違いがある」と回答した方のみ】

問12(2) どのような違いがあるか、【(2)男女の違いの内容】欄より、あてはまるものすべてに○印をつけてください。(複数回答)

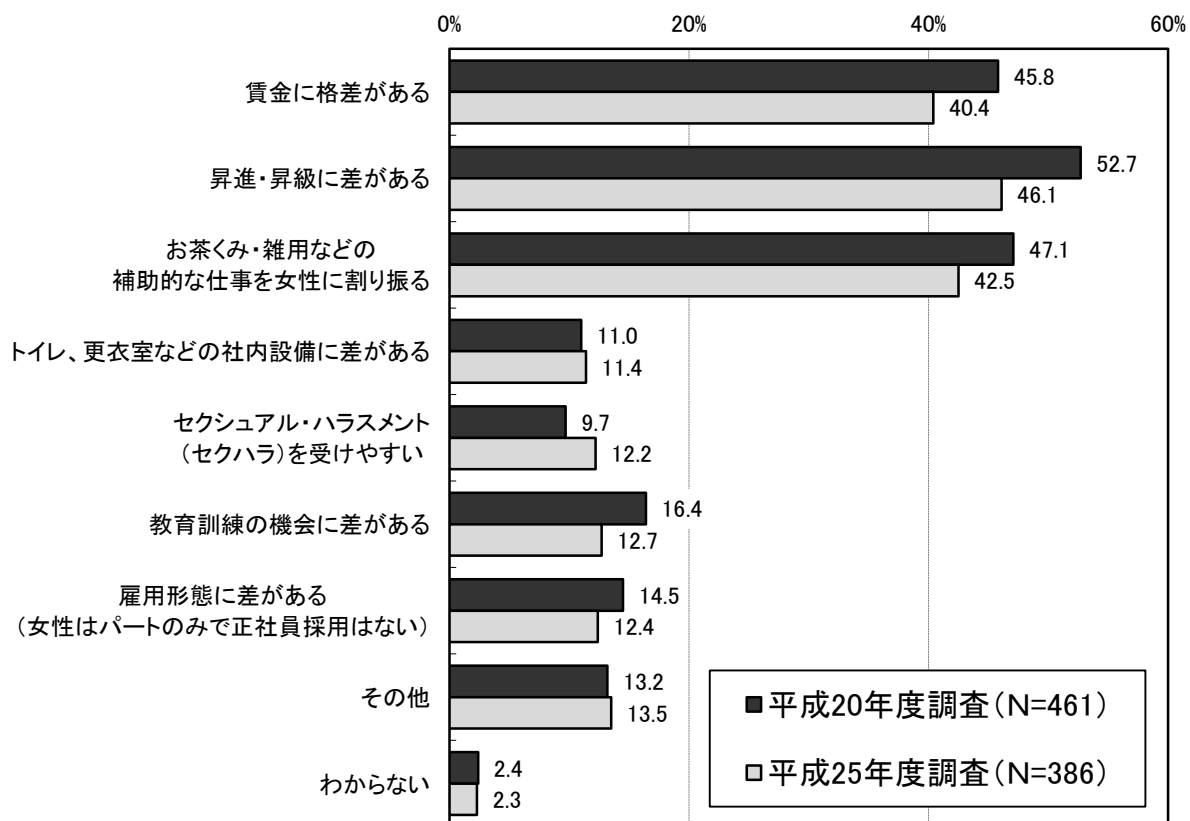
職場での性別による違いの内容では、「昇進・昇級に差がある」が45.9%と最も高く、次いで「お茶くみ・雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る」が42.3%、「賃金に格差がある」が40.2%となっています。

男女別でみると、女性、男性ともに「昇進・昇級に差がある」が最も高くなっています。また、「賃金に格差がある」は、男女間の差が大きくなっています。



経年比較

職場での性別による違いの内容について経年で比較すると、「賃金に格差がある」「昇進・昇級に差がある」「お茶くみ・雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る」の割合が低下しています。



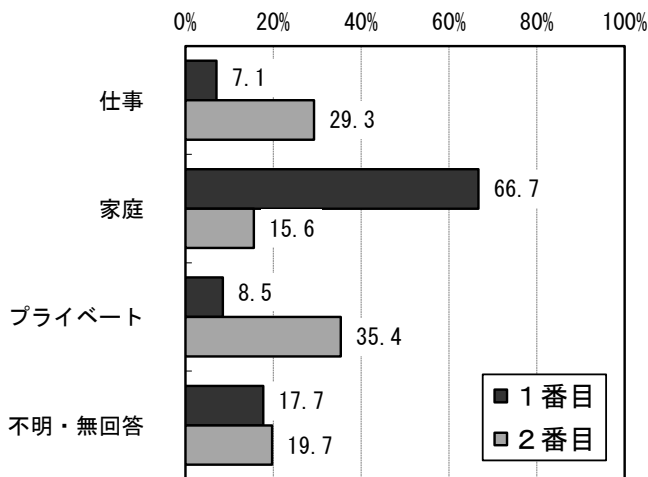
7 ワーク・ライフ・バランスについて

問 13 (1) あなたは、女性、男性それぞれについて、どのような優先順位が理想と考えますか。

女性、男性それぞれの理想の優先順位については、女性の1番目は「家庭」が66.7%、男性の1番目は「仕事」が51.6%となっています。

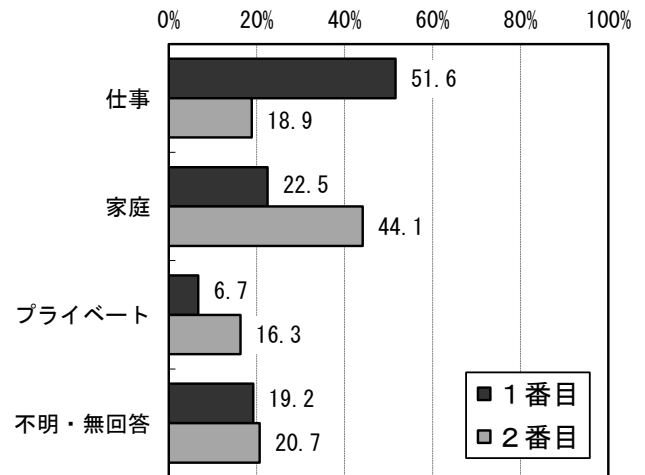
【理想の優先順位（女性）】

全体 (N=1,383)



【理想の優先順位（男性）】

全体 (N=1,383)

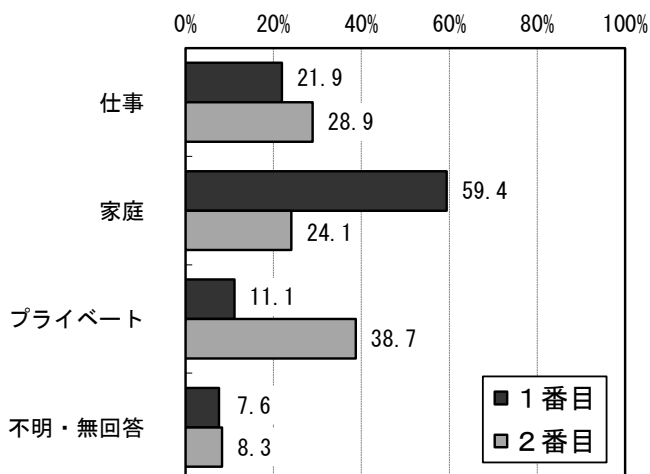


問 13 (2) あなたご自身の現実の生活における優先度が高い順に1~3より2つ選んで○印をつけてください。(複数回答)

女性、男性それぞれの現実の優先順位については、女性の1番目は「家庭」が59.4%、男性の1番目は「仕事」が61.1%となっています。

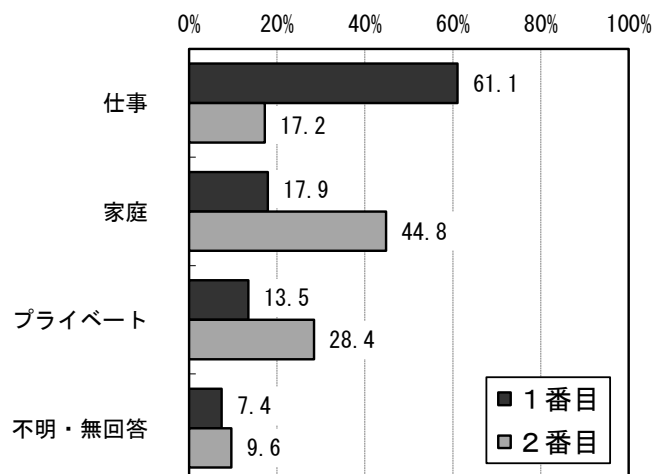
【現実の優先順位（女性）】

女性 (N=775)



【現実の優先順位（男性）】

男性 (N=592)



現実の優先度・年齢別比較

年齢別にみると、年齢にかかわらず、女性の1番は「家庭」、男性の1番は「仕事」となっています。

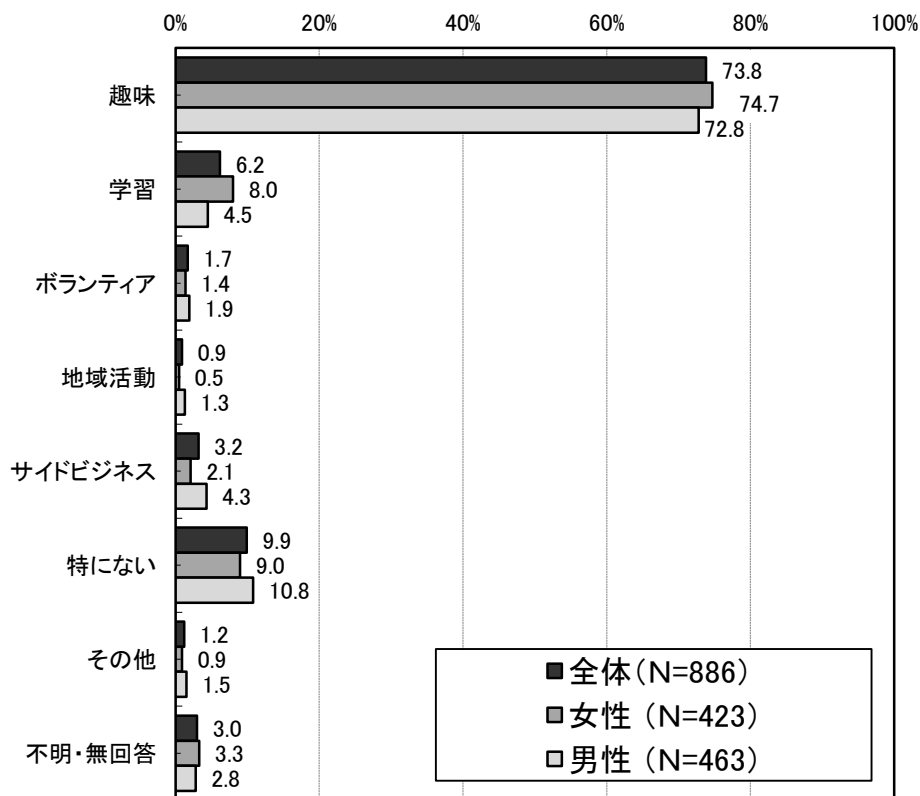
	1 番目				2 番目			
	仕事	家庭	プライベート	不明・無回答	仕事	家庭	プライベート	不明・無回答
【年齢別・女性】								
20 歳代 (N=114)	29.8	36.8	29.8	3.5	27.2	26.3	43.9	2.6
30 歳代 (N=149)	22.1	68.5	8.7	0.7	33.6	22.1	42.3	2.0
40 歳代 (N=157)	18.5	71.3	7.0	3.2	36.9	21.7	37.6	3.8
50 歳代 (N=174)	27.6	62.6	5.2	4.6	28.7	27.0	39.7	4.6
60 歳代 (N=118)	16.1	58.5	9.3	16.1	23.7	22.9	34.7	18.6
70 歳以上 (N=63)	11.1	41.3	12.7	34.9	11.1	25.4	28.6	34.9
【年齢別・男性】								
20 歳代 (N=80)	51.3	8.8	31.3	8.8	26.3	26.3	37.5	10.0
30 歳代 (N=95)	68.4	13.7	10.5	7.4	16.8	42.1	34.7	6.3
40 歳代 (N=101)	64.4	22.8	8.9	4.0	23.8	52.5	18.8	5.0
50 歳代 (N=127)	72.4	15.7	7.9	3.9	15.7	56.7	20.5	7.1
60 歳代 (N=124)	55.6	24.2	13.7	6.5	12.1	46.8	31.5	9.7
70 歳以上 (N=65)	46.2	20.0	13.8	20.0	9.2	32.3	32.3	26.2

※不明・無回答を除き、回答の高いもの第1位と第2位に網掛けをしています。

【現在働いている方のみ】

問 14 仕事以外で自分自身のための時間をより充実するためにあなたは何をしてみたいですか。(単数回答)

仕事以外でしてみたいことについては、「趣味」が73.8%と、群を抜いて高くなっています。男女別で見ると、男性に比べて女性で「学習」がやや高くなっています。

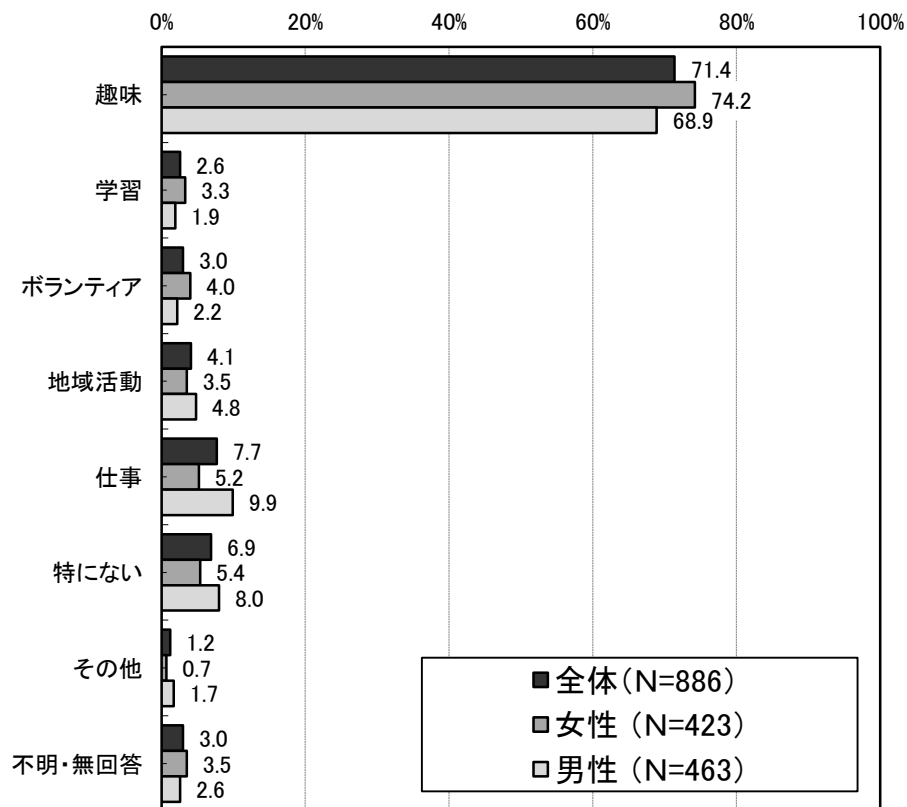


【現在働いている方のみ】

問15 定年後の生活（セカンドライフ）であなたは何をして過ごしてみたいですか。（単数回答）

定年後の生活（セカンドライフ）でやりたいことについては、「趣味」が71.4%と、群を抜いて高くなっています。

男女別で見ると、女性に比べて男性で「仕事」がやや高くなっています。

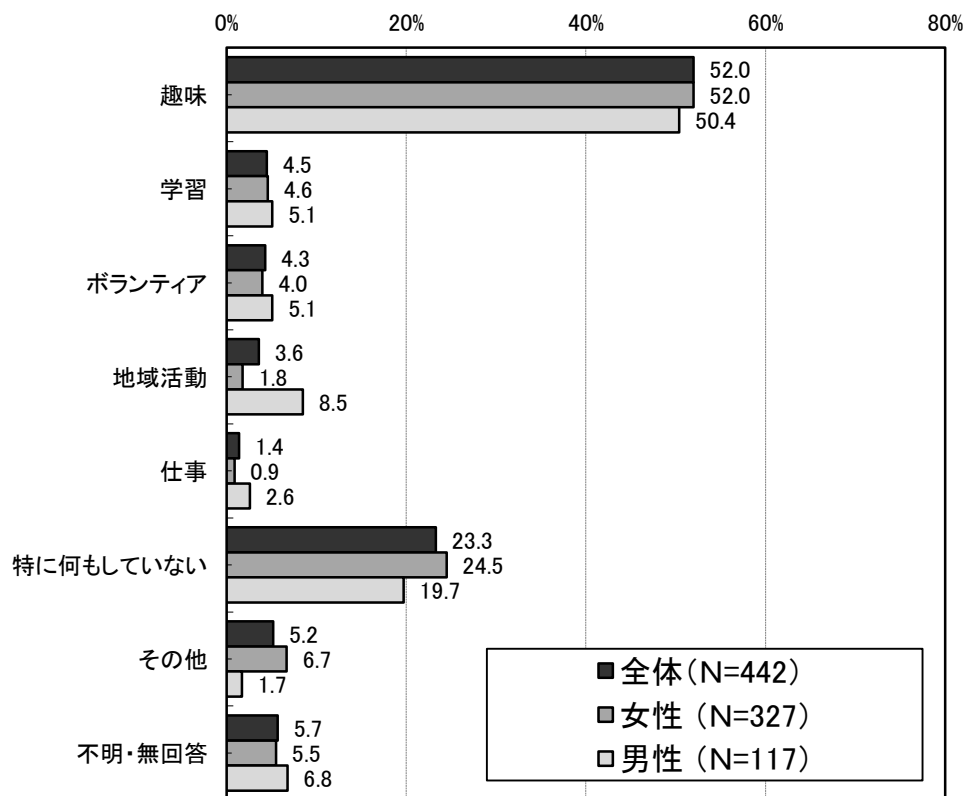


【現在働いていない方のみ】

問 16 自分自身のための時間をより充実するためにあなたは何をしていますか。(単数回答)

自分自身の時間をより充実するためにしていることについては、「趣味」が 52.0%と最も高く、次いで「特にない」が 23.3%となっています。

男女別で見ると、男性では女性に比べて「地域活動」の割合が高くなっています。

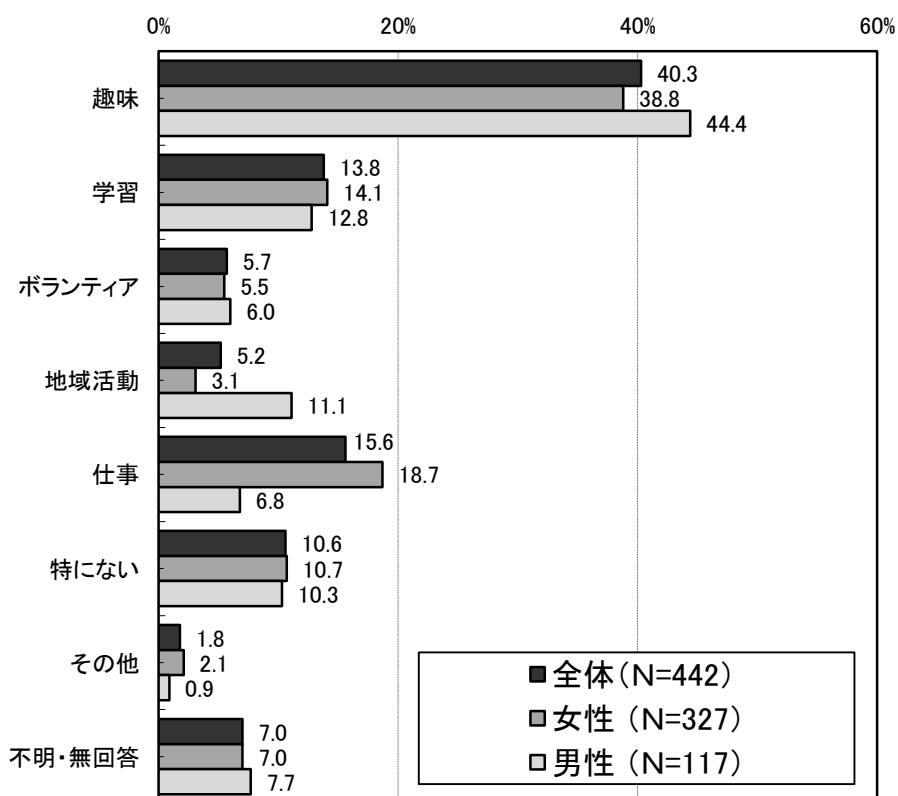


【現在働いていない方のみ】

問17 今後、より充実するためにあなたは何をしたいですか。(単数回答)

今後、より充実するためにしたいことについては、「趣味」が40.3%と最も高く、次いで「仕事」が15.6%となっています。

男女別で見ると、女性では男性に比べて「仕事」の割合が高くなり、男性では女性に比べて「地域活動」の割合が高くなっています。



年齢別比較

年齢別にみると、女性の30歳代、40歳代で「仕事」の割合が高くなっています。

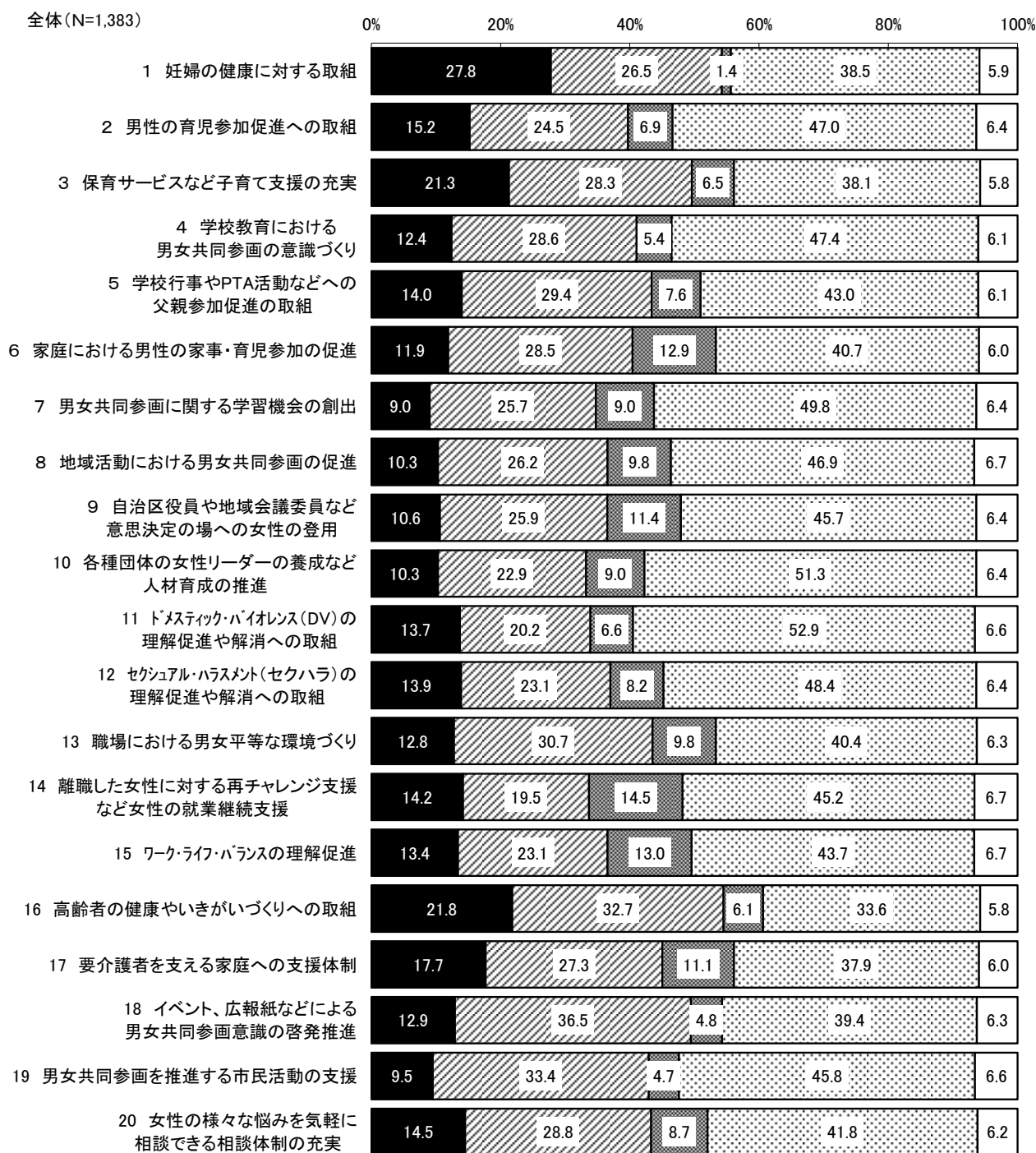
	趣味	学習	ボランティア	地域活動	仕事	特にない	その他	不明・無回答
【年齢別・女性】								
20歳代 (N=42)	38.1	28.6	4.8	2.4	16.7	2.4	2.4	4.8
30歳代 (N=54)	25.9	11.1	3.7	0.0	46.3	1.9	5.6	5.6
40歳代 (N=49)	30.6	20.4	4.1	2.0	34.7	8.2	0.0	0.0
50歳代 (N=65)	47.7	7.7	7.7	1.5	13.8	13.8	1.5	6.2
60歳代 (N=65)	40.0	13.8	4.6	9.2	1.5	23.1	1.5	6.2
70歳以上 (N=51)	47.1	9.8	7.8	2.0	3.9	9.8	2.0	17.6
【年齢別・男性】								
20歳代 (N=13)	38.5	38.5	0.0	0.0	15.4	7.7	0.0	0.0
30歳代 (N=2)	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
40歳代 (N=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
50歳代 (N=2)	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
60歳代 (N=51)	39.2	11.8	11.8	11.8	5.9	15.7	2.0	2.0
70歳以上 (N=47)	51.1	6.4	2.1	12.8	4.3	6.4	0.0	17.0

※不明・無回答を除き、回答の高いもの第1位と第2位に網掛けをしています。

8 男女共同参画社会実現に向けた豊田市の取組について

問18(1) 1～20にあげた豊田市が実施している取組(事業)について、あなたはどのように感じますか。(単数回答)

豊田市が実施している取組(事業)について「良い」と感じているものは「1 妊婦の健康に対する取組」が27.8%と最も高く、次いで「16 高齢者の健康やいきがづくりへの取組」が21.8%、「3 保育サービスなど子育て支援の充実」が21.3%となっています。

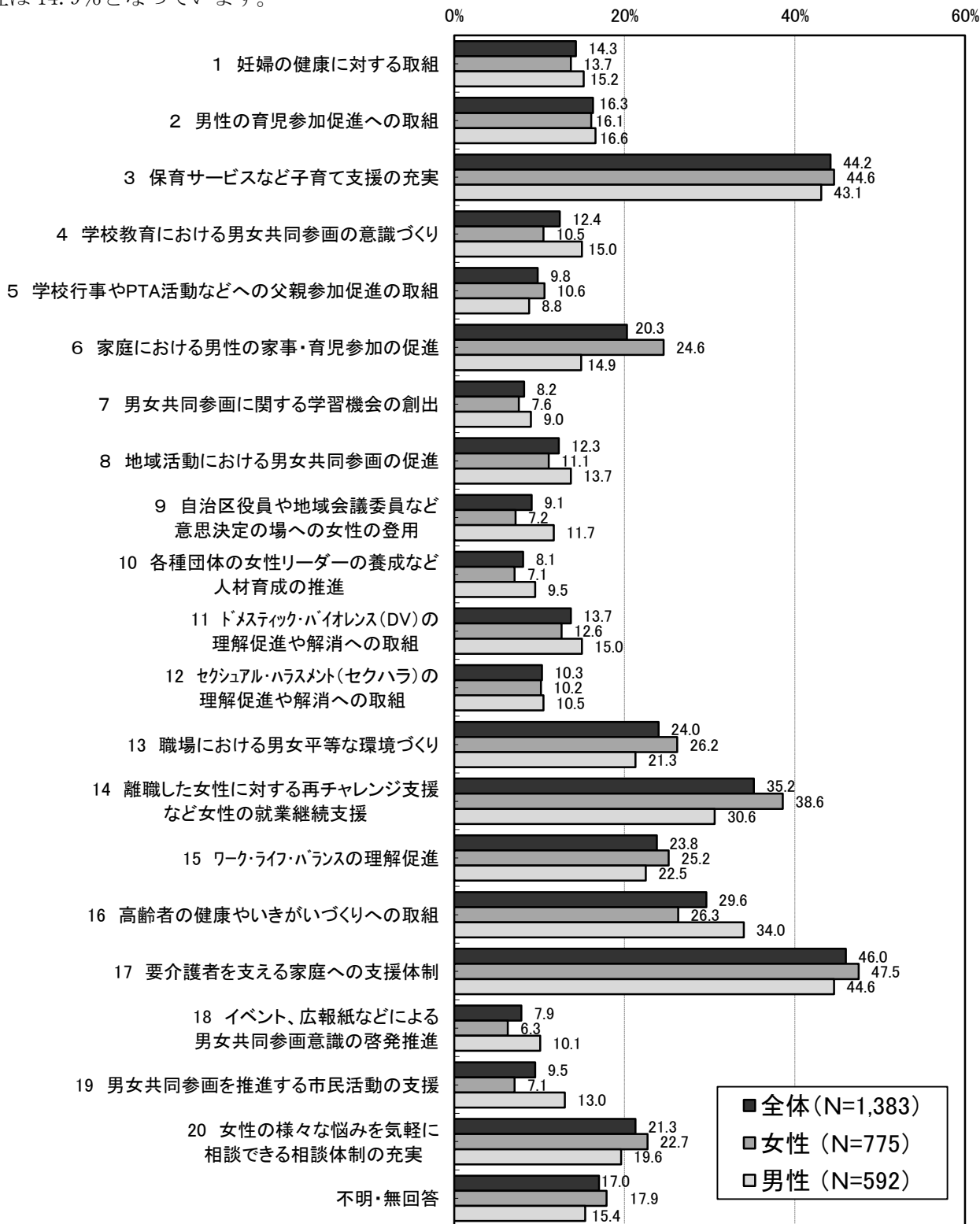


■良い □普通 ▣悪い □わからない □不明・無回答

問 18 (2) (1) の 1～20 の取組のうち、豊田市の男女共同参画社会の実現において、重要と思うものを5つ以内で選び、1～20の番号をご記入ください。(複数回答)

豊田市の男女共同参画社会の実現において重要と思うものについては、「要介護者を支える家庭への支援体制」が 46.0%と最も高く、次いで「保育サービスなど子育て支援の充実」が 44.2%となっています。

男女別でみると、男女ともに「要介護者を支える家庭への支援体制」が最も高くなっています。男女差が最も大きい項目は「家庭における男性の家事・育児参加の促進」であり、女性の 24.6%に対し、男性は 14.9%となっています。



年齢別比較・仕事の有無別比較

年齢別、仕事の有無別にみても、「要介護者を支える家庭への支援体制」と「保育サービスなど子育て支援の充実」が高くなっています。

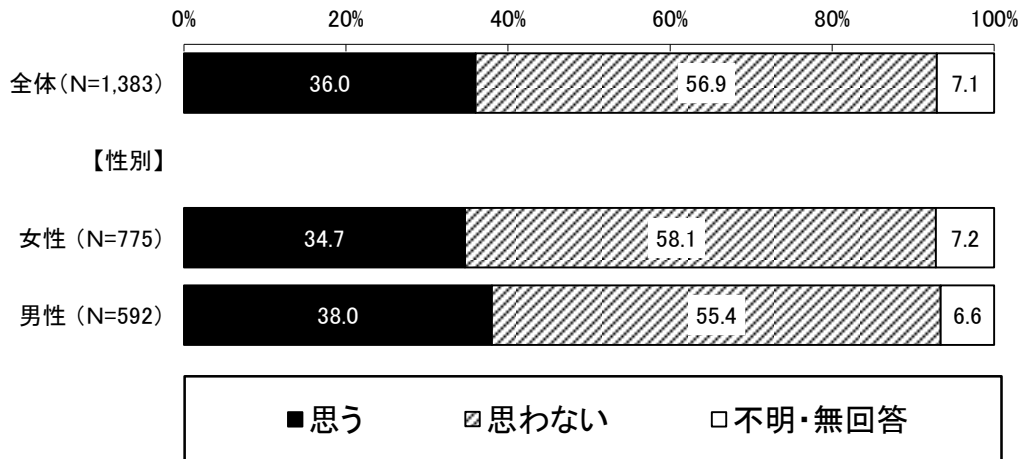
	妊婦の健康に対する取組	男性の育児参加促進への取組	保育サービスなど子育て支援の充実	学校教育における男女共同参画の意識づくり	学校行事やPTA活動などへの父親参加促進の取組	家庭における男性の家事・育児参加の促進	男女共同参画に関する学習機会の創出	地域活動における男女共同参画の促進	自治区役員や地域会議委員など意思決定の場への女性の登用	各種団体の女性リーダーの養成など人材育成の推進	ドメスティック・バイオレンス(DV)の理解促進や解消への取組	セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)の理解促進や解消への取組	職場における男女平等な環境づくり	離職した女性に対する再チャレンジ支援など女性の就業継続支援	ワーク・ライフ・バランスの理解促進(労働時間短縮、休暇制度の普及など)	高齢者の健康やいきがいきづくりへの取組	要介護者を支える家庭への支援体制	イベント、広報紙などによる男女共同参画意識の啓発推進	男女共同参画を推進する市民活動の支援	女性の様々な悩みを気軽に相談できる相談体制の充実	不明・無回答
【年齢別・女性】																					
20歳代(N=114)	29.8	21.9	56.1	4.4	6.1	34.2	7.0	9.6	6.1	9.6	14.0	15.8	43.0	46.5	42.1	15.8	43.0	7.0	7.0	20.2	4.4
30歳代(N=149)	18.8	23.5	47.0	13.4	12.8	24.2	4.0	6.7	6.7	6.0	12.8	8.7	24.8	39.6	32.2	16.8	43.6	4.0	2.7	20.8	14.8
40歳代(N=157)	10.2	14.6	42.0	12.1	12.7	28.0	10.8	14.0	5.7	3.8	14.0	10.2	31.8	42.7	33.1	24.8	55.4	9.6	8.3	22.9	9.6
50歳代(N=174)	8.6	14.9	49.4	11.5	12.6	24.7	6.9	13.2	8.6	8.0	12.1	11.5	23.6	35.6	15.5	32.8	55.2	8.0	11.5	24.1	17.2
60歳代(N=118)	9.3	12.7	41.5	7.6	8.5	20.3	9.3	13.6	5.1	8.5	11.9	5.9	18.6	38.1	11.0	39.0	48.3	4.2	6.8	26.3	28.0
70歳以上(N=63)	3.2	1.6	17.5	12.7	6.3	7.9	7.9	6.3	14.3	7.9	9.5	7.9	6.3	20.6	11.1	30.2	22.2	1.6	3.2	20.6	54.0
【年齢別・男性】																					
20歳代(N=80)	21.3	27.5	47.5	16.3	6.3	21.3	2.5	5.0	6.3	7.5	20.0	18.8	28.8	35.0	31.3	18.8	28.8	8.8	8.8	16.3	11.3
30歳代(N=95)	21.1	20.0	51.6	11.6	5.3	18.9	9.5	9.5	5.3	6.3	16.8	11.6	21.1	42.1	24.2	35.8	43.2	5.3	10.5	27.4	9.5
40歳代(N=101)	17.8	12.9	44.6	15.8	7.9	15.8	8.9	13.9	11.9	9.9	15.8	12.9	18.8	34.7	31.7	33.7	58.4	16.8	14.9	19.8	8.9
50歳代(N=127)	12.6	15.7	40.2	15.7	11.0	11.0	8.7	16.5	13.4	8.7	15.7	6.3	20.5	29.1	23.6	38.6	52.8	11.8	11.0	22.0	12.6
60歳代(N=124)	8.9	12.9	41.9	12.9	10.5	13.7	12.1	16.1	12.1	12.9	12.1	8.1	21.0	25.8	15.3	38.7	40.3	9.7	20.2	14.5	21.0
70歳以上(N=65)	12.3	12.3	30.8	20.0	10.8	9.2	10.8	20.0	23.1	10.8	9.2	7.7	18.5	13.8	6.2	32.3	36.9	6.2	9.2	16.9	33.8
【仕事の有無別・女性】																					
仕事をしている(N=423)	13.9	17.5	46.6	11.1	11.6	27.9	8.7	10.9	6.6	6.6	11.6	10.9	28.1	38.3	27.9	27	48.9	5.7	9.2	22.2	14.2
仕事をしていない(N=326)	13.5	14.4	42.3	9.5	9.5	21.5	6.1	11.0	7.7	8.3	13.2	9.2	24.2	39.9	22.1	25.8	46.0	7.4	4.3	23.3	22.1
【仕事の有無別・男性】																					
仕事をしている(N=463)	17.3	17.9	45.4	14.9	8.6	15.3	7.8	12.1	9.5	9.5	15.3	10.4	22.0	33.5	24.6	34.6	47.3	10.6	13.8	20.1	12.3
仕事をしていない(N=116)	6.0	12.9	32.8	15.5	7.8	13.8	12.9	19.0	19.8	10.3	14.7	11.2	18.1	19.8	13.8	32.8	33.6	6.9	9.5	19.0	27.6

※不明・無回答を除き、回答の高いもの第1位と第2位に網掛けをしています。

問 19 5年前と比べて、世の中の変化や豊田市の取組などによって、あなたご自身や家族の男女共同参画に関する理解が深まったと思いますか。(単数回答)

男女共同参画に関する理解が深まったと思うかでは、「思わない」が 56.9%、「思う」が 36.0%となっています。

男女別では、男性に比べて女性で「思わない」割合がやや高くなっています。

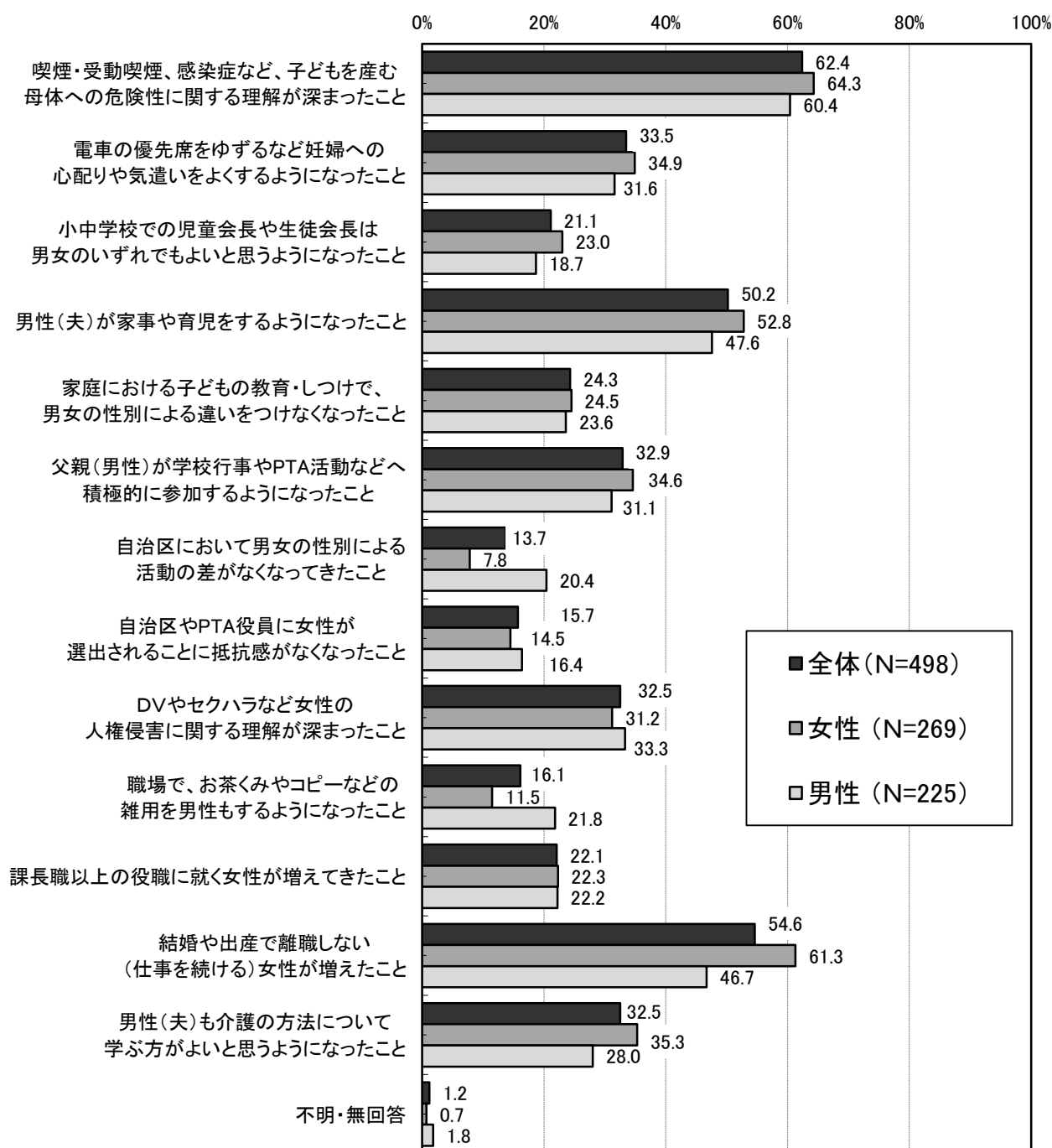


【問19で「1 思う」と回答した方のみ】

問20 あなたご自身や家族の男女共同参画に関する理解が深まったと思うことはどれですか。(複数回答)

男女共同参画に関する理解が深まったと思うことについては、「喫煙・受動喫煙、感染症など、子どもを産む母体への危険性に関する理解が深まったこと」が62.4%と最も高く、次いで「結婚や出産で離職しない(仕事を続ける)女性が増えたこと」が54.6%、「男性(夫)が家事や育児をするようになったこと」が50.2%となっています。

男女別でみると、男女間の差が最も大きいものは「結婚や出産で離職しない(仕事を続ける)女性が増えたこと」で、男性に比べて女性で割合が高くなっています。

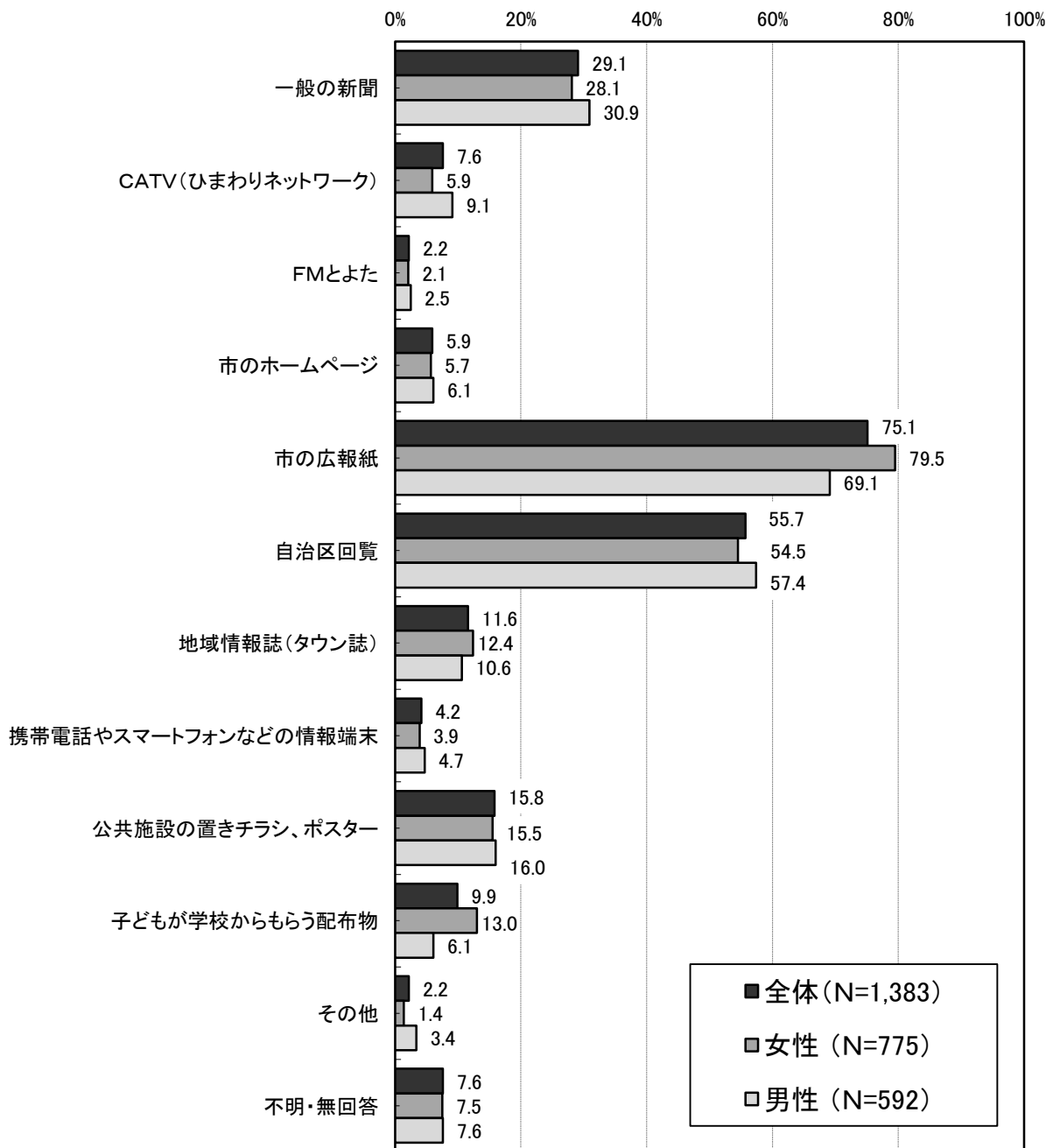


9 男女共同参画社会実現に関する今後の取組について

問21 あなたは、地域のイベントや行政が発信する情報をどこから得ることが多いですか。(複数回答)

地域のイベントや行政が発信する情報の取得方法については、「市の広報紙」が75.1%と最も高く、次いで「自治区回覧」が55.7%となっています。

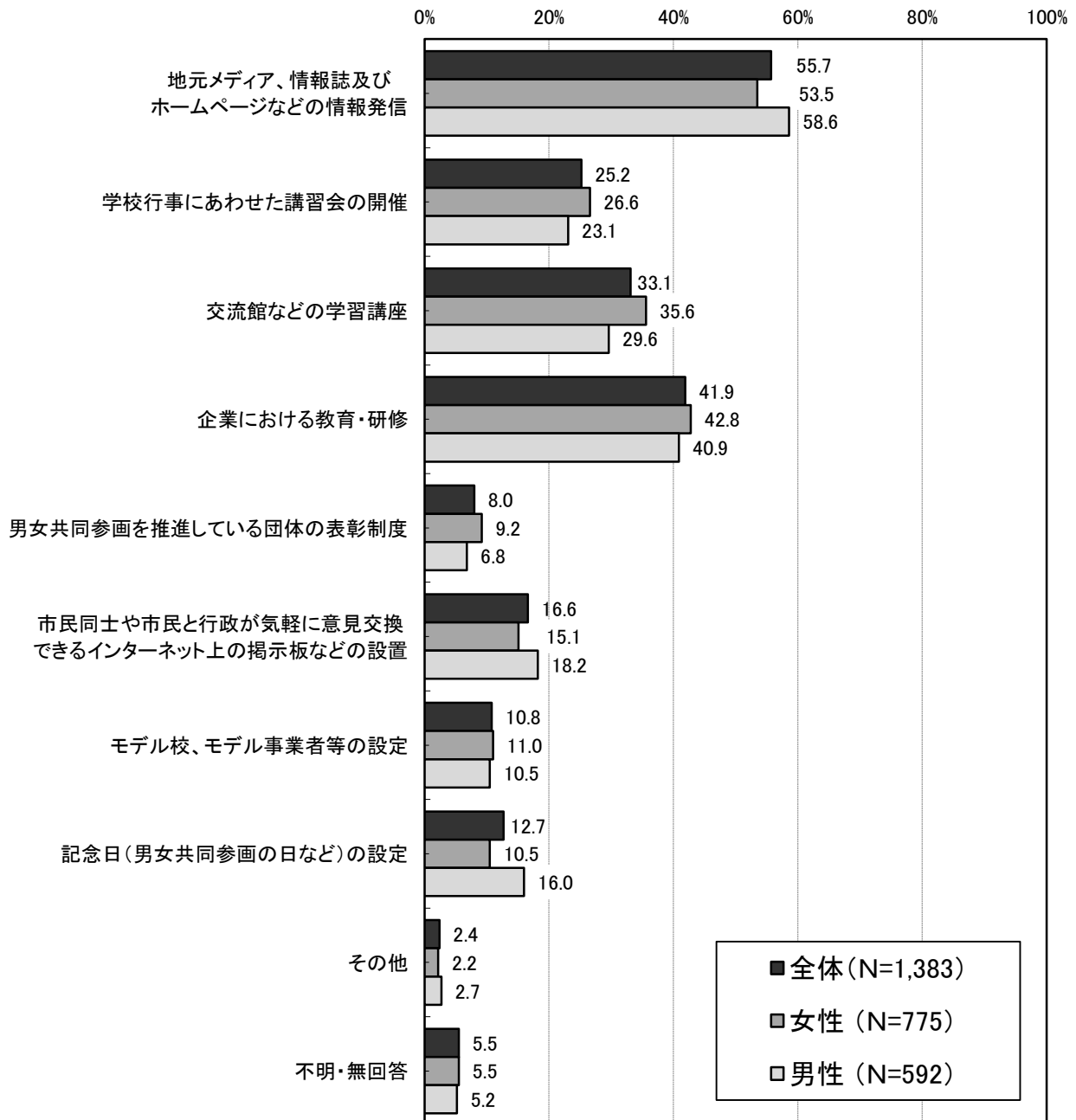
男女別にみると、女性、男性ともに「市の広報紙」が最も高くなっています。また、女性では男性に比べて「子どもが学校からもらう配布物」の割合が高くなっています。



問 22 あなたは、行政が男女共同参画に関する意識啓発を推進する方法として、どれが有効だと思いますか。(複数回答)

行政の男女共同参画に関する意識啓発の推進方法で有効なものについては、「地元メディア、情報誌及びホームページなどの情報発信」が 55.7%と最も高く、次いで「企業における教育・研修」が 41.9%となっています。

男女別にみると、女性、男性ともに「地元メディア、情報誌及びホームページなどの情報発信」がそれぞれ最も高くなっています。



IV その他・自由回答

1 回答者の属性

F3 未婚・既婚の別（単数回答）

回答内容	件数
将来結婚する予定で現在同棲中である	1
結婚している	1
準備中である	1

F5 回答者の職業（単数回答）

回答内容	件数
団体職員	2
農業	2
専門職	2
会社役員	2
専門職（医療分野）	1
臨床検査技師	1
医療事務	1
介護士	1
病院薬剤師	1
不動産収入	1
アパート経営	1
幼稚園教諭	1
支援員	1
法人役員	1
家事手伝い	1
自営業手伝い	1
年金暮らし、農業	1
フリーター	1
産休中	1
キリスト教牧師	1

【F3で「結婚している（内縁を含む）」と回答した方のみ】

F7 配偶者の職業（単数回答）

回答内容	件数
死別	2
会社役員	1
期間社員	1
大工	1
団体職員	1
農業	1

2 家庭における女・男のあり方について

問5 介護についてお伺いします。家族に介護が必要な場合、あなたはどのようにしますか（していますか）あてはまるものを1つ選び○印をつけてください。

回答内容	件数
本人の希望による	8
本人の意思を尊重する	6
介護を受ける側の希望によっても変わると思う	1
予算に応じて、本人の希望する介護方法を検討する	1
家族での介護と介護サービスの併用	10
できるだけ自宅で介護する。状況に応じ、施設利用を検討	1
仕事をしながらの介護は無理があるので、行政のサービスをフルに利用したい	1
ショートステイを使いながら、月に3、4日は自宅介護をする	1
施設に通わせながら介護をしたい	1
できる所まで家族みんなで協力し、不都合が生じた場合はサービスを取り入れる	1
介護度により自宅または福祉サービス・施設利用を検討する	1
初期は自宅、要介護4以上は施設利用を検討する	1
認知症などで家庭での介護が難しくなれば施設を利用する。それまでは、通所・訪問介護サービスを利用しながら自宅介護する	1
ショートステイ等を利用しながら、家族が介護をすることができなくなったらグループホーム等の小規模な施設を利用する	1
自宅で介護を続けてきたが病気により病院へ入所	1
その他	12
その時にならないとわからない	6
介護していない	2
その時の状況で決める	2
独身の場合なら施設へ	1
一度、母親で福祉サービスを利用したことがある	1

問6 問5で【1と回答された方にお伺いします。】自宅で家族を介護する（している）場合の主な介護者は誰ですか。あてはまるものを1つ選び○印をつけてください。

回答内容	件数
家族全員で介護する	3
家族全員で話し合っ決めて	1
2人で介護した	1
主に父母、自分が介護した	1
自分の親であれば自分で介護する	1
自分が主体となり全員で介護していきたい	1
その時の状況に応じて変わる	1
わからない	1

3 地域活動における男女の役割分担について

問8 地域の防災（災害対策）活動を推進するにあたり、あなたはどのようにお考えですか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

回答内容	件数
地域でともに助け合う事ができるように普段から地域のつながりが必要である	1
「男」「女」だけでなく性的少数者（LGBT）への配慮が必要である	1
必ず情報が行き渡る方法をつくるべきである	1
災害対策に男女差は必要ないが、区別は必要であり、やれることをやるのが一番である	1
自治区の防災訓練に若い人がいない状況である	1
個人の危機管理能力を上げる事が第一である。そこから地域や行政を考えるべきである	1
仕事や環境によって参加できない家庭もあるので難しい	1
回覧もないし、活動が活発に行われていない	1
男性のリード、体力が必要である	1
他力本願でなく自助努力をする意識を持てるような社会全体の仕組みが必要ではないか。根本から見直してほしいと思う	1
男女というより、幅広い視点で活動を推進すべきである	1
とにかく全員参加、参画の場にする	1
地域住民が、自立で歩けない人の自宅場所などを、常時見まわりする	1
災害時の備品、飲料水、テントなど地域ごとに準備する	1
自分で決める	1

4 職場における男女の役割分担について

問 10 【問9で1～4と回答された方にお伺いします】仕事をしない方がよいと考える理由は何ですか。あなたの考えに最も近いものを1つ選び○印をつけてください。

回答内容	件数
乳幼児期は母親と子どもの関係が成長期に大切になってくる	1
子どもをしっかり育てる事が優先されるべきである	1
子どものため、父か母かどちらかはそばにいるべきである	1
出産後は十分な愛情を持ち育て、夫を含め家族としての生活が大切である	1
子どもとのスキンシップが大事である	1
学校から帰ってきた時に誰か家にいた方が良いと思う	1
幼少期に母親がそばにいないのはかわいそう	1
孫としっかりコミュニケーションをとった方が良いと思う	1
仕事でストレスなどあり、帰ってきて子どもに当たったりするのが怖いから	1
子育ての期間は一生のうちでその時しかできないから子どもが小さいうちは子育てに専念した方が良い親子関係が築けると思うから	1

問 11 問9で【3と5と回答された方にお伺いします。】結婚・出産後に女性が仕事をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに最も近いものを3つ以内で選び○印をつけてください。

回答内容	件数
家庭の協力について	3
三世代同居	3
職場の協力について	4
長時間残業に対応できることが評価につながるという一般の考え方を変えること	1
年齢制限のない雇用の募集	1
すべての会社ができるわけがないため制度のある会社に勤めてほしい	1
入園前の子どもを8時間以上家に置いて仕事をしてきた。自分のことは自分で責任を持つ人間に育ててくれた	1
その他	4
当事者だけでなく社会全体でサポートできる体制	1
親として就学前の子どもは自分で見る事が必要。優しさを持って育ててもらいたい。他人や社会のせいにならない	1
子育てに専念するためにも必ずしも復職は必要ではない	1
わからない	1

問12 【現在働いている方にお伺いします】

- (1) あなたの職場では、職場の慣行や待遇、仕事の内容等で、性別による違いがあると思いますか。【(1) 男女の違いの有無】欄より、あてはまるものを1つ選び○印をつけてください。
- (2) 「1違いがある」と回答された方には、どのような違いがあるか、【(2) 男女の違いの内容】欄より、あてはまるものすべてに○印をつけてください。

回答内容	件数
女性が多い職場で女性の方が優遇されている	2
力仕事は女性に割り振らない	2
作業上の規制	1
男性のみに結婚したら家族手当が支給される	1
労働時間、仕事内容、女性の方が少ない	1
女性に残業、休日出勤がない	1
職場に制限がある。女性は「ここ」しか配属できないといわれる	1
女性自身にそのような意識あり	1
職種自体が違うので比較できないが、可能な手技等の差はあると思う	1
本人の能力と仕事に対する取り組み方の違い	1
女性に対して待遇は十分である。むしろ多すぎる	1

5 ワーク・ライフ・バランスについて

- 問14 【現在働いている方にお伺いします】仕事以外で自分自身のための時間をより充実させるためにあなたは何をしてみたいですか。あてはまるものの中から主なものを1つ選び○印をつけてください。

回答内容	件数
旅行	2
趣味	1
家族とのふれあい	1
夫婦共通の事を探したい	1
農業	1
家庭サービス・農業	1
スポーツ	1
体力づくり	1
心身修行	1
お金をたくさん使う	1

回答内容	件数
体を休めたい	1
ぼーっとできる時間	1
そんな余裕はない	1

問 15 定年後の生活（セカンドライフ）であなたは何をして過ごしてみたいですか。あてはまるものの中から主なものを1つ選び○印をつけてください。

回答内容	件数
旅行	3
海外生活	1
ロングステイ	1
自由にしたいことをする	1
料理が好きなので食堂	1
ケーキ屋	1
自給自足生活（田舎）	1
趣味を生かしたボランティア	1
現実には甘くない、皆仕事しないと生活できないと思う	1
その時の状況で	1
まだ考えられない	1
考えた事がない	1

問 16 【現在働いていない方にお伺いします】働いている方は問 18 へお進みください。自分自身のための時間をより充実するためにあなたは何をしていますか。あてはまるものの中から主なものを1つ選び○印をつけてください。

回答内容	件数
農業・畑仕事など	8
子育て	3
親の介護	2
孫の世話、友人	1
夫の介護	1
闘病中のため静養	1
夫、私の実家の世話	1
月に4日くらいアルバイト	1
バイト	1
健康づくり	1
スポーツクラブ	1

回答内容	件数
家族や友達と出かける	1
友達との会話	1
定年後の家のメンテ活動	1
子どもと一緒に習い事	1
家事	1
自分自身の時間などない	1
自由がない	1
できない、やらせてもらえない	1

問 17 今後、より充実するためにあなたは何をしたいですか。あてはまるものの中から主なものを1つ選び○印をつけてください。

回答内容	件数
旅行	2
旅行と趣味	1
老母の世話で大変疲れる	1
資格を取得したい	1
家の手伝い	1
家族や友達と出かける	1
結婚、出産、子育て	1
一人暮らしの人が楽しく集まれる食堂をつくりたい	1
山林、田畑の手入れ	1
畑仕事	1
居心地のよい仕事探し	1
子どもが小さいので子ども中心	1
休日を増やしたい	1
家庭菜園	1
考え中	1
考えられない	1

6 男女共同参画社会実現に関する今後の取組について

問 21 あなたは、地域のイベントや行政が発信する情報をどこから得ることが多いですか。あてはまるものを3つ以内で選び○印をつけてください。

回答内容	件数
クチコミ	3
親から	3
妻から	1
家族から	1
学校から	1
子どもに配る配布物（教師なので）	1
子ども会の回覧板	1
テレビ	1
女子会	1
地域のボランティア活動	1
地方紙	1
職場のチラシ	1
インターネット	1
facebook	1

問 22 あなたは、行政が男女共同参画に関する意識啓発を推進する方法として、どれが有効だと思いますか。あてはまるものを3つ以内で選び○印をつけてください。

回答内容	件数
子どもへの教育	3
子どもの頃から少しずつ教えて行くと良いのでは	1
学校で使われる連絡用のE-mailへの配信	1
子どもへの学校教育、家庭教育	1
家庭での意識改革	1
夫婦間の意識	1
地域での啓発	3
町内、学区内の行事	1
自治区活動の振興	1
自治区、地域に共同参画の意識課題の取り組みが必要だと思う	1
職場での意識改革	1
ワーク・ライフ・バランスの改善、会社経営者の意識改革	1

回答内容	件数
PR活動	4
他のイベントのついでに展開するやり方	1
ホームページへ意見入力ができること、また意見に対しての返事があること	1
インターネットやスマートフォンが普及しているので情報誌のIT化	1
今はインターネットが多いが、ある年齢以上の人にはできないため、回覧が良い	1
その他	11
よくわからない	3
男女差でなく、能力差により格差が生じていることを啓発すること	1
既に意識はあるのではないかと、実際にやるかやらないかは個々の人間の性格に問題があるので外部が推進しようとしてもできないと感じる	1
共同参画にはならないと思う	1
そもそもいない	1
情報もなく知りえない	1
無理だと思う	1
そもそも男性が参画できる環境にない。平日に参画したくてもできない	1
どれでも今の日本では無理	1

7 自由回答

問 23 最後に豊田市が進める男女共同参画社会づくりのための取組についてご意見等がございましたら、以下にご記入ください。

性	年齢	内容	件数
健康づくりについて			1
男性	30代	男女共同参画社会づくりからは少し離れるが、不妊治療などにも力を入れてほしい	1
子育てについて			5
女性	20代	子育て世代（特に未就学児家庭）を大切にしてほしい。交流館の利用基準が不明確	1
女性	20代	学生で東京在住なので豊田市の取り組みを体感できる立場ではないですが、豊田市は子育てがしやすい所かもしれません。上京して感じます。仕事で女性が活動しやすい環境があったらなお良いと思います	1
女性	30代	結婚、出産のため退職しましたが、子どもが1歳になったら再就職を考えています。しかし託児場所がないことや、託児のための金額が高く、働きたくても迷っています	1
女性	30代	他県から越してきたばかりで詳しくわからない。こども園の費用の安さや子育てについての様々な支援は女性が働きながら育児しやすいと思う	1
男性	60代	結婚、出産しても仕事を続けるのなら、祖父母に頼らずにできる「児童保育制度」にすべきである。現在の制度では年寄りに負担がかかる	1
教育・啓発について			7
女性	20代	子どもが小さい時から、学校などで教育されたらどうですか	1
女性	30代	長期の視点で若い20代の世代を中心にしていくほうがよい。（年配の方の意識を変えるのは難しいので）男性、女性向きの仕事や役割があるのは事実で、一概に男女平等が良いともいえない	1
女性	40代	まずは私たちが実行に移さなくてはいけない。それを見て育つ子どもたちが男女共同参画社会をつくっていくでしょう	1
女性	40代	直接男性に話しかける場がないと、男女平等の意識は変わっていかないと思う。学校からの配布物や広報誌などの情報には男性が目を通す機会は少ないし、市のホームページなどを、わざわざ見ない。企業が動かないと無理	1
女性	50代	子ども時代からの教育をもっと見直して頂きたい。人に対する思いやり、良いこと、悪いことをしっかり教える。男女平等、人の役に立つ人になる、他人との関わりを大事にする	1
男性	30代	年代による意識格差を縮めていくことは難しい。その年代が受けてきた教育、社会背景は塗り替えることはできない。これからの子どもたちが、どんどん変えていってください	1
不明	不明	相手の立場を思いやる心を、小さい頃から育てる事が大切だと思う。女性が働きやすい社会というだけでなく、子どもが親から愛される社会づくりをして頂きたい	1

性	年齢	内容	件数
家庭での男女共同参画について			6
女性	20代	どちらの良い面も汲み取り、男だから女だからという差別を、できるだけ少なくする方が良いと思う。まずは、男性が家事を手伝っていくことが大切なのではないかを感じる	1
女性	30代	子どもが産まれてからも、主人が家事・育児に興味をもってくれません。交流館などでお父さんむけの講座があっても、興味がないので参加する気が起こらないようです。職場で教育、研修をやっていたきたいです	1
女性	30代	男性が子育ての意識を、育むことができるような講座を多く開く。ある程度強制力もないと、男性は動かない	1
女性	70代	高齢者には良い社会と思っていますが、30、40代の家庭を守ってやれる政策を望んでいます。共同参画は、夫婦仲良く過ごせることが第一ですね	1
男性	60代	男女の特性はあると思うので、すべてを平等とする必要性はあまり感じられない。男性の子育てへの参加を促すことは、とても良い取り組みだと思う	1
不明	60代	男性の考え方が変わらないかぎり、実現は難しいと思う。男性の家庭への協力が進んでできる事が望まれる	1
地域での男女共同参画について			4
女性	30代	主人は勤務状況上、地域のイベント参加はまったくできません。そのような家庭では、男女共同参画は無理。税金の無駄使いのような気がします	1
女性	40代	自治区や地域の活動から男女共同参画できるような体制にしていく方が良い	1
男性	60代	地域活動等、男女分け隔てなくやっているが、女性は役職を引き受けない。リーダー的存在になりたくない人が多い	1
男性	70代	地域の役員を、女性が多く参加できるよう希望する	1
職場での男女共同参画について			21
女性	20代	会社の有休をきちんと取れるような制度をつくってほしい。もっと家族の時間がないと、良い子育てができない	1
女性	20代	現在でも男女に格差がある職場はまだあると思う。女性の働きやすい職場がもっと増えると良いと思う	1
女性	20代	男性の育児休暇があっても、実際は周囲の目があり、休むことができない。仕事の支障になると考えるところがある	1
女性	30代	たくさんの人に取り組みを知ってもらうことが第一だと思う。企業等で全員参加型の研修をするなど、受身の人にも情報を届ける努力が必要だと思う	1
女性	30代	女性が結婚・出産を機に、働きにくくなる社会を改善してほしい	1
女性	40代	特に男性は、会社などで説明会や講習会をして、参加をすると良いと思う	1
女性	40代	結婚して子どもができれば会社を辞める→ある程度成長したらキャリアを生かし再就職。そんな男女共同参画ができる支援をお願いします	1
女性	40代	女性が育児で働きづらい環境がある。企業は男尊女卑の傾向がある。男女、関係なく意欲や意志によって、前に進める環境づくりをしてほしいです	1
女性	50代	子育て時期はとても大事だと思うので、仕事をもっていても子育てに手を抜かずにできる制度の確立。また、仕事に戻れる社会づくり	1
女性	60代	女性が男性と同じように、安心して結婚し、子どもも育てられるような体制づくりが第一	1

性	年齢	内容	件数
女性	60代	年代の違いから、わからない部分もあるが、若い母親たちが働ける環境、保育所、企業等の協力も必要。また、お年寄りにも老人ホームなどができると思う。市民が気軽にアンケートをできるように、交流館などに置いたら良いと思う	1
女性	60代	有休が取りにくい。男女共同参画には直接関係ないが、仕事を休めないとい何も進めません	1
男性	20代	女性の労働力確保は大切な事だと思う。家庭→仕事に復帰しやすい施策をお願いします。①会計・英語などの修得機会 ②子どもを預けられる施設の確保 ③職場の理解度アップ	1
男性	30代	結婚している女性が働きづらい。税金の体系、公的年金制度、これらを改めない限り、女性が社会に積極的にでていかないと思う。今後の人口減少社会を乗り切るために、真の男女平等を目指して良い制度にしてほしい	1
男性	30代	男女の大きな違いとして「出産」があります。出産で女性が職を失ったり、再就職できないのが大きな問題だと思います。しっかりと的を絞って、ひとつひとつ解決してほしいと思います	1
男性	30代	はじめて「男女共同参画社会」という言葉を知りました。特に女性に対して“優しくない”と感じるのは産休です。出産直前まで仕事をするのはおかしいと思います。妊娠5か月から取れても良いと思います	1
男性	30代	取り組みがわからない。大企業では男女共同との意識を感じるが、豊田市としては感じない。中小企業への働きかけを増やすべきでは	1
男性	40代	職場での昇進の機会を、女性にも与えてほしい	1
男性	40代	基本的に男性は仕事があるので参画しにくい	1
男性	50代	現役だと参画はしない。できないと思う	1
男性	60代	男はダメ人間が多くなった。女性は最近、物わकारいの良い人が増えた。もっと女性の地位を上げてやれ	1
高齢者福祉・介護について			8
女性	40代	豊田市は先進的なことができる自治体なので、どの世代も満足できるような（特にこれからは高齢者増加を配慮）優しい住みやすい市にしてほしい	1
女性	60代	70歳以上の人にも、もう少し目を向けてください。子どもばかりに目がいつているように思います	1
女性	60代	若い男女には情報が届きやすく（方法が多い）中高年（50～70歳）にはなかなか届かないように思います。特に高齢者の多い地区ではその人たちが男女共同参画社会には理解が難しいのでは	1
女性	60代	住みよい地域社会とは、人間が孤立しないこと。一人暮らしの老人向けに、そこに行けば誰かと関わられる”居場所”を提供すること	1
男性	30代	介護において、すぐ対応できる所があれば良いと思う。安い介護施設があれば、すぐにでも申込みたい	1
男性	60代	取り組みへの発想が、現職（公務員）の発想にとどまっている。高齢者の意識啓発は特に必要と思われる。高齢者への心配りがある、男女共同参画社会づくりの施策を期待します	1
男性	70代	企業人として定年退職をする時点で、これからの基本は地域住民としての役割、分担が必要であるということを、研修する必要がある	1
不明	不明	団塊世代の夫婦が、これからの人生のための講座、講演会を開催して、それぞれ意見交換のできる場を提供してほしい	1

性	年齢	内容	件数
情報発信について			55
女性	20代	実際、経験してみないと分からない。もっと豊田市にわかってもらうべきである。豊田市にもマスコットキャラクターをつくりもっとアピールしていけば良い	1
女性	20代	取り組みが伝わってこない。市での取り組みを発信する事で多くの人の意識が変わるのではないか	1
女性	20代	そもそも「男女共同参画社会」実現に向けて、豊田市がどのような取り組みをしているのか知りませんでした	1
女性	20代	知らないことが多すぎる。市民がもっと情報を得やすいような場所、行事をやってほしい	1
女性	20代	豊田市の取り組みの認知度が低いと思う。広報誌なども、流し見る程度で詳しいところはわからないと思う	1
女性	30代	取り組みを初めて知りました。誰のための取り組みなのか、何も情報がありません。推進活動をお願いします	1
女性	30代	取り組みについてよく理解できていない。PR不足なのか名称だけ聞いたことがある程度です	1
女性	30代	取り組みを知らなかった	1
女性	30代	情報をわかりやすく公開していただきたい	1
女性	30代	情報源が主に自治区の回覧板、子ども会の回覧板、小学校からの手紙ですが、サインをして回す物に情報を載せれば目にする機会が増えると思う。広報も届くが必要な時にしか目を通さないのが現状	1
女性	30代	転入してきたばかりで、豊田市がどのような取り組みをしているのか知りません。情報が入ってこないのが現状です。私には興味のない内容です	1
女性	40代	ホームページなどだけではなく、一人でも多くの人が、知るきっかけを持てるような情報発信をしてもらいたい	1
女性	40代	よくわからない。一部の人しか知らないのでは。セミナーなどが必要では。全員参加型のようなものが必要	1
女性	40代	情報が偏って届いているので、週1回程度、豊田市からのメールマガジンを作成して情報発信したらどうか	1
女性	40代	正直、市がやっていることが見えてきません（実感もなし）必要なことは継続して頂きたいと思う	1
女性	40代	男女共同参画社会づくりのための豊田市の取り組みをあまり意識していませんでした。これからは、興味を持ってみたいと思います	1
女性	50代	「キラッ☆とよた」がどんな活動をしているのか、ほとんどわかりません。会社でも聞きましたが20代～50代（男女）従業員は100%知りませんでした	1
女性	50代	まだまだ一般に理解されずに空回りの部分が多く見られる。求める人たちのみを対象となりがちな活動であるように思われる。一部の地域活動を長く続けている人たちの意識にも、新しい風を吹き込むことも必要である	1
女性	50代	市外で働いていると、市が何をやりたいのか何をしているのか実際の事がわからない。ホームページを見ることはあるが、もっと手軽に情報が入ると生活しやすいと思う	1
女性	50代	取り組みを知らなかった。一般にもっと情報を流してほしい。今後の社会に重要な施策だと思いました	1
女性	50代	男女共同参画社会づくりのための取り組みを知らなかった。もう少し勉強します	1

性	年齢	内容	件数
女性	50代	男女共同参画社会について知らない事ばかりでした。もっと、地域に情報発信した方が良いと思います。もっと、目にとまるように	1
女性	60代	みよし市の男女共同参画のビッグイベントがあり参加しました。内容が抜群でした。みよし市のようにダイナミックに男女共同参画への拡大意識アップを図ることが必要では	1
女性	60代	色々な活動に参加しない人の場合、取り組み内容を知ることは難しい。自然と目にとまったり、耳に入ったりという方法、活動はないか、情報誌を見ても細かすぎて見にくい、言葉がわかりにくいと思ったこともある	1
女性	60代	豊田市がどのように共同社会づくりをしているのか具体的によくわからない	1
女性	70代	取り組みをもっと一般の人たちにもわかりやすく発信してください	1
男性	20代	取り組みがわからない、わかっていない。若者向けに何か行うことが必要だと思う	1
男性	20代	取り組みについて活動の動きが見えないので「男女共同参画社会づくり」といわれてもわかりません	1
男性	20代	全体的に興味を持つことが少ないので、その周辺の意識づくりが必要だと思います	1
男性	30代	取り組みの認識がなく、あまり認知されていないと思う。職場、学校などに協力していただき、市民への意識付けができれば豊田市の取り組みに共感するかたも増えるはず。まずは知ってもらうことからだと思ふ	1
男性	30代	なぜ男女共同参画が必要とされるのかわからない。男女の差に関わらず、取り組みたい人と負担だと思ふ人をサポートし合える社会の仕組みを議論すべき	1
男性	30代	市民が取り組みについてあまり知らないのが正直なところだと思う	1
男性	30代	取り組みがよくわからない。もう少し伝わってくればと思う	1
男性	30代	取り組みが見えてこない。自らが情報を得にいかうとしない限りは見えてこない仕組みになっているのでは	1
男性	30代	取り組みを知らない。知らない人が多いのに、活動しても成果が小さい。女性が社会に出てきて、女性を守る法律ができて、男性を守る法律がない。そこは不公平に思われないのか	1
男性	40代	何かの理由や目的があって探ることがない限り、情報に接したり意識して頭に入れることは少ないと思う。市民が参加するイベントなどで、もっと周知していくことが大切ではと思う	1
男性	40代	何を実施しているのかまったくわからない（知らない）	1
男性	40代	取り組みがいつ、どこで行われたのか知らなかった。「男女共同参画」という言葉自体が理解しにくいのでは	1
男性	50代	このような取り組みをしていることを初めて知った	1
男性	50代	市民への認知度は、まだまだのような気がします。高齢者にホームページやインターネットはやや困難なのは	1
男性	50代	具体例で示すと理解しやすくなる。情報が多すぎて、選別するのが大変なので、重要度をアピールできないと捨てられてしまう時代だと感じる	1
男性	50代	今回の調査で初めて取り組みを知りました。思うように休みの取れない仕事をしているので、ほとんど情報を得ていません。バラツキのない仕事環境があればと思う	1
男性	50代	市が進めている施策が市民に理解されていない（伝わっていない、見えていない）ような気がします。もう少しPRをお願いします	1

性	年齢	内容	件数
男性	50代	市の活動について全く知りませんでした	1
男性	50代	取り組みについてあまり一般に知られていないように思う。もっとアピールしては	1
男性	50代	取り組みについて深く考えた事がなかったので、今回色々触れられたことが良かったと思う。このような機会を作るのも大切だと思う	1
男性	50代	情報誌の有効活用を、お願いしたいです	1
男性	50代	男女共同参画社会づくりのための取り組みを、豊田市が行っていることを知らなかった	1
男性	60代	市の職員（先生、色々な公共施設の職員）等、多くの場所に女性の登用を進め、働きやすい環境を整え、その人たちの意見をすいあげていくことが全体（市）につながっていくと思う	1
男性	60代	このアンケートで初めて取り組みを知った。もっと「広報とよた」等で周知を図った方が良いのでは	1
男性	60代	このアンケートで初めて取り組みを知った。市民に浸透している情報だと、まったく思えない	1
男性	60代	活動のことをよく知らなかった。もっと興味を持つように宣伝して頂ければ目にはいったかも	1
男性	70代	「男女共同参画社会」実現と言う言葉は、73歳の私は初めて知りました。もう少しわかりやすく市広報誌等で説明すべきだと思います	1
男性	70代	高齢者の中には、インターネット（ホームページ）を操作して、閲覧ができない人がいます。どのように情報を得るのか	1
男性	70代	多くの方が「推進しているな」とわかるような象徴的な行事、記念日などがあること	1
人権について			3
女性	30代	セクハラだけでなく、パワハラを理解促進や、解消への取り組みも積極的に行ってほしい	1
男性	30代	年配の男性はセクハラのラインが把握できていないと思う	1
男性	40代	セクハラについて、女性の意見が通ってしまう	1
アンケートについて			23
女性	20代	無作為に選ぶのではなく、もっとしっかり選んだ方が良いと思う。回答が「わからない」ばかりになってしまい、参考になる意見は得られないと思う	1
女性	20代	無作為抽出のため、学生でまだ職場や結婚など意識したことがないので答え方が難しかった	1
女性	30代	今回のアンケートはすごく難しかった。地域の活動については知らない事ばかりだった	1
女性	30代	私自身、意識が低く具体的な事がわからなかった。幼児教育、母子関係は非常に重要と思っています。母性は父親の存在なくしては発揮できないし、女性のニーズと母子関係や家庭の必要性が合っていないと感じています	1
女性	40代	アンケートが答えにくい。共同参画なのに女性、男性の優先順位を書け、とか	1
女性	40代	この問題以上に、早急に解決しなければならないことがあると思う。この質問を作成した人に、男女性差の偏見があるのではないかと	1
女性	40代	以前回答したアンケートで、何が改善されたのかわかりませんでした。結果がでないが無意味です	1
女性	40代	過去3回アンケート記入しています。本当に無作為 1,500人なのでしょいか	1

性	年齢	内容	件数
女性	50代	今回のアンケートで豊田市が色々な取り組みをしている事がわかりました。ホームページをみてみたいと思いました	1
女性	50代	私は障がい者のため、色々な方に迷惑になりますが、このアンケートには、あまりあてはまりません	1
女性	50代	税金を使ったこのような調査方法が、無駄にならない事を希望します	1
女性	50代	まったく理解していないようです	1
女性	50代	男女共同参画という言葉について理解できていない。このアンケートで少しわかってきた。今後の男女共同参画に期待しています	1
女性	60代	今回のように無記名アンケートも良い方法だと思います	1
女性	70代	取り組みに関する知識が乏しく、曖昧な回答が多くなりました。学校での男女混合名簿等の導入には疑問を感じます。システム効率や女性らしさ、男性らしさも尊重されるべきだと思います	1
男性	20代	アンケートの必要性が良くわからない	1
男性	30代	普段あまり考える事がなかったのですがアンケートを通して考える事ができた。定期的にこのようなアンケートされたら良いと思う	1
男性	40代	1,500人に…税金を使ってそこまでしないとイケないのか？半分くらいは交流館などに設置しても良かったかも	1
男性	40代	子どもがまだ幼いので、子どもの情報以外はあまり見ない事が多いが、今回のアンケートの内容は、良い案が多いと思います	1
男性	40代	独身者より結婚している女性の意見を聞いたほうが、より良いのでは	1
男性	50代	平等にすることに精神的苦痛を感じる人への配慮はどうするのか？このアンケート自体が、とても女性目線（中心）の文言に感じる	1
男性	60代	質問の定義が個人の思惑によって捉え方が違う。女性の働き方、役割は家族の考え方で変わる	1
男性	70代	50歳以下の人にアンケートしてほしい	1
男女共同参画への思いについて			43
女性	20代	男女が互いの人権を尊重し責任を分かち合い、個性と能力を十分に発揮できるように取り組んでほしい	1
女性	20代	男女それぞれに得意、不得意が違うことを認識し、その上でお互いの苦手な部分を補っていけるような社会になれば良い。男女で、できる事が違うため、ある程度仕方のない事だと思う	1
女性	20代	「上に立つ人」「何かを発信し、変える人」女性が増えれば声は届きやすいし、その目線に立って男女の意見が見えてくる部分もあるのではないか	1
女性	20代	結局、表面上の男女平等しかできないと思う。本当にやる気があるなら、古い考えの口だけの役職についた人を辞めさせるべき	1
女性	30代	男女平等というもとに、全て同じ役割をできるとは思いません。男性だから、女性だからできることが必ずあると思います	1
女性	30代	子育て、仕事、学校行事、役員等の参加、地域活性や家庭での役割、介護と女性の負担が大きいのがまだまだ現実だと思う。男女にとらわれず、負担が偏らない社会づくりが必要と考えます	1
女性	40代	男女共同参画社会をつくらないといけないのかどうか自体がよくわからない	1
女性	40代	男女平等と言っても無理があると思います。男の人にできる事と女の人にできる事があるのでこのままで良いと思います。子育てに関しても、自分の子どもは自分でという考えです	1

性	年齢	内容	件数
女性	50代	会社を退職し、ボランティアや地域活動に参加できるかたは、平等に対して感じてもらえていると思う。女性も前に出ることを嫌がっていることもいけないと思う	1
女性	50代	考えかたを変えるためには長い時間が必要です。若い頃の考え（男女差別）がなかなか変わりません。少しでも良い関係で生活できるよう、私たちも変わらねばと思っています	1
女性	60代	例えば、市議員の定数を男女何名にするとか、区長、副区长など女性を必ず一名入れるなど。我々60歳以上は古い考えにとらわれ過ぎてているのかも。次の世代に期待します	1
女性	70代	考え方の古いかたが、頭の切り替えをするにはどうすればよいのか。自治区でも一番困ることです	1
女性	70代	結婚している人にはわかる事ばかりで、改善されているところが、独身者には分かりづらい。給料は男女差がありすぎると思う	1
女性	70代	職場で精一杯活動するには、家庭がしっかりしていないとできません。男らしく、女らしくを大切にしてほしいと思う	1
女性	70代	本当にできるのか疑問。育ってきた環境、しつけなどで、考えはなかなか変えられない。祖父母、周囲の大人たちの考えも影響するのでは	1
男性	20代	男女共同参画社会という言葉初めて聞いた。男女が平等な社会になれば良いと思う	1
男性	30代	なぜ男女共同参画が必要とされるのかわからない。男女の差に関わらず、取り組みたい人と負担だと思ふ人をサポートし合える社会の仕組みを議論すべき	1
男性	30代	共同参画に向けて弊害になっていることは、事例としてどんなことでしょうか？自分の周りでは男女差をなくすことは感じられない	1
男性	30代	男女で適している違いがある事は当然だと思う。しかし、男女だけではなくひとりの人間として、やれる事を精一杯やるのが大事だと思う。こういった取り組みは根気強く続けて頂きたい	1
男性	30代	日本人の考え方を変えない限り、今の日本では無理。法律で規制するしかないかも。世の中の現実もわからないと	1
男性	30代	本人の意識次第。差はまだ続くように思う。難しい問題	1
男性	30代	目指すべきは「男女共同参画社会」より「人（男女関わらず）を大切に社会」	1
男性	40代	非常に難しい問題だと思う。法の下での平等でも実際のところ、男女差はなくなることはないため、教育の始まる幼年期から社会全体の成立を教える日本であってほしい	1
男性	40代	世界の豊田から男女参画社会づくりを広めて行ってほしい	1
男性	40代	性別に関係なく、住みよい社会になっていくようにしていきたい。活動、がんばってください	1
男性	40代	老いた人が多い組織は何も変化しないと思う。新しい風を流してほしいと思う	1
男性	50代	まだまだ（学校行事、地域行事）女性参加のかたが多い等、見えない決まり事があると思う。それらがなくなる世の中になるべきだと思う	1
男性	50代	男女共同参画社会づくりに関心のない人に、不利な社会にならないようにしてもらいたい	1
男性	50代	メリット、デメリットを挙げてほしい。対等というだけでは、具体性がなく、わからない	1
男性	50代	よく理解はできていないが、我が家は共働きなので家事は時間のあるほうがします。何十年も前から、役員もふたりで分担しています	1

性	年齢	内容	件数
男性	50代	何をもって共同参画社会というものか見えない	1
男性	50代	外国人も多く住む豊田市なので、国際的な男女共同参画社会を目指していくべきだと思います。特に、外国人女性に雇用の機会が均等に与えられていると思えません	1
男性	50代	市が真剣に取り組もうとしていることがわかりました。期待しています。まずは、市職員、議会での女性の躍進を期待	1
男性	50代	男と女は基本的に違う生き物である。区別と平等を一緒にしたジェンダーフリーには反対である。男には男にしかできない、女には女にしかできない事があると認め、子どもの頃から教えるべきだ	1
男性	50代	男女平等が難しい部分があるが、若い人ほど平等の大切さをわかっているようにも思え、年老いた人の方が、理解に時間がかかると思う	1
男性	60代	どちらかといえば女性が保守的で意識が薄いと思います。女性の意識改革が先決	1
男性	60代	男女の平等の考えかたで、何が平等なのかを深く考え、男性、女性の得意分野での社会の貢献を望みたい	1
男性	60代	常識や道徳を守った社会づくりに取り組んでほしい。男女共同参画のことはよくわからないが、それでDVやモラル低下を妨げられるとは思えない	1
男性	60代	昔に比べたら数段に進歩しています。娘たちを見ていると家事に育児に協力して頑張っています。私たち親もできることは応援していきたいと思います。この企画に期待しています	1
男性	60代	男女差でなく、能力差により格差が生じていることを啓発すべき	1
男性	70代	男女共同参画社会への方向性は大賛成。誰の目にも見える活動、制度の変更を進めるよう意識へのPRも年数経れば変わるが	1
男性	70代	ひとりひとりが尊重される社会づくりに大切なことは、正しい教養を学び、正しく理解し、受け止め、実行することから始まる	1
男性	70代	早急にスタートすべし	1
その他			26
女性	20代	そのような視線で見えていなかった。今後、自分の視野を広げていきたい	1
女性	20代	もっともっとより良い豊田市にしてください	1
女性	20代	情報誌などで見ているとよくやっていると思います	1
女性	20代	未婚、実家暮らしのため、地域の活動から離れていたためこのアンケートを機に興味、関心が持てそうです	1
女性	30代	P T Aを廃止して、やりたい人だけ募らせてやれば良い。みんなやりたがらない理由をわかってない	1
女性	30代	こども園の保護者の会は結局、母親が主体です。働くママが多く、手がかかる幼児のママなので園が負担を減らしてはどうか	1
女性	40代	女性が活躍できる「市」なのか	1
女性	50代	豊田市以外に住んだ事がないので、他市との違いがわかりません。子育てなど豊田市は素晴らしい支援をしています	1
女性	50代	住みやすい豊田市になるように希望します。老若男女すべての人	1
女性	60代	男女共同参画社会について、自分ごとと捉えたことがあまりありませんでした。出産し仕事を続けるようになり、少し考えるようになりました	1
女性	60代	より住み良い豊田市にしてほしいです	1

性	年齢	内容	件数
女性	70代	夫婦高齢のため、今の若い世代の生活など、あまり知りません	1
男性	20代	お金のかかる事はやらないから	1
男性	30代	B1グランプリやB級グルメを男女で新しく提案して豊田市を活性化していただきたい	1
男性	30代	性的少数者（LGBT）や外国人に対する施策を打つ時代がきていると思う。マイノリティが生きやすい社会＝多様性を認め合う社会である	1
男性	40代	市民が平等にサービス等を受けられるようになってほしい	1
男性	50代	“むこう三軒両隣”を願っています	1
男性	50代	急な改革は市民がついていけない。あわてず気長な取り組みが必要	1
男性	50代	子孫繁栄の原点に戻り、考えてください	1
男性	50代	実際に社会のためになっているか疑問。朝鮮系の企業、個人は排除してほしい	1
男性	50代	浄水町に住んでいます。急に家が増え、色々な人が住むようになり、治安面で心配しております	1
男性	50代	土日、祝日が休みではないので、共同参画といわれてもほとんどが土日、祝日が多々、よくわからない、意見の出しようがない	1
男性	60代	基本的に市民平等な社会づくりを考えて頂きたい	1
男性	60代	長期の海外生活、岡崎市の会社勤務で豊田市の活動については知らないのが現実です	1
男性	70代	自治区ならびに、コミュニティ単位の集まり等で、ほとんど話題にならないことがさみしいです	1
男性	70代	税金関係が他に比較して豊田市は高いと思う	1

V 調査票



この調査票に記入された内容については、統計以外の目的に使ったり、他にもしたりすることは一切ありませんので、ありのままをご記入ください。

男女共同参画社会に関する意識調査のお願い

平素から市政に深いご理解とご協力をいただきありがとうございます。

豊田市では、女性も男性も対等なパートナーとして共に支えあう「男女共同参画社会」の実現に向けて様々な取組を行っています。

平成22年度に策定された「第2次とよた男女共同参画プラン（クローバープランII）」は、平成26年度に計画期間終了を迎えます。

本調査は、新たな男女共同参画プランを策定するにあたり、今後の施策展開の基礎資料とするために、現在の市民の皆様の日常やお考えをお聞かせするものです。

調査対象者は、豊田市にお住まいの**20歳以上の男女各1,500人を無作為に選ばせていただきました**。調査票に個人のお名前をご記入いただく必要は一切ありません。またご回答いただいた結果は、全て統計的に処理し、回答者個人にご迷惑をおかけすることはございませんので、ありのままにご回答ください。

お忙しいところ大変恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成25年9月 豊田市長 太田 裕彦

【ご記入に際してのお願い】

- 封筒のあて名の方【ご本人】がお答えください。
- 【ご本人】が長期で不在の場合や、その他の事情（病気など）で回答できない場合は、お手数ですが調査票を廃棄していただきますようお願いいたします。
- 質問ごとに「○は1つ」「○は3つ以内」など指定しておりますので、その数に際してご回答ください。
- 回答の際、「問△で○と回答された方」となっている場合は、それに際してご回答ください。
- 回答いただきました調査票は、返信用封筒に入れ

10月11日（金）までにご返送下さい。（切手不要）

問合せ先：とよた男女共同参画センター（キラックとよた）
豊田市小坂本町 1-25 豊田産業文化センター2階
電話：31-7780 担当：松澤・澤田

はじめに、あなたご自身のことについてご記入ください。

【F1からF8について、あてはまる番号を各々1つ選び○印をつけてください】

※9月1日現在の状況でお答えください。

F1 あなたの性別

1 女性	2 男性
------	------

F2 あなたの年齢

1 20歳代	2 30歳代	3 40歳代	4 50歳代
5 60歳代	6 70歳以上		

F3 あなたは現在結婚していますか。

1 結婚している(内縁を含む)	2 結婚していない
3 結婚していたが、離婚・死別した	4 その他()

F4 家族構成

1 1人暮らし	2 夫婦のみ
3 2世代家族(親とその子ども(未婚)の世帯)	4 2世代家族(親と子ども夫婦の世帯)
5 3世代家族(親とその子ども(既婚)と孫の世帯)	6 その他の世帯(1～5のいずれにも該当しない)

F5 あなたの職業

1 会社員	2 公務員	3 自営業・家業(農業含む)
4 派遣・請負社員	5 パート・アルバイト・嘱託等	6 専業主婦・専業主夫
7 学生	8 無職	9 その他()

F6 あなたの年間収入額(年金収入等含む)

1 税の扶養の範囲内	2 300万円未満	3 300万円以上～500万円未満
4 500万円以上～700万円未満	5 700万円以上	

F7 【F3で「結婚している(内縁を含む)」と回答した方にお伺いします】あなたの配偶者の職業

1 会社員	2 公務員	3 自営業・家業(農業含む)
4 派遣・請負社員	5 パート・アルバイト・嘱託等	6 専業主婦・専業主夫
7 学生	8 無職	9 その他()

F8 【F3で「結婚している(内縁を含む)」と回答した方にお伺いします】

あなたの配偶者の年間収入額(年金収入等含む)

1 税の扶養の範囲内	2 300万円未満	3 300万円以上～500万円未満
4 500万円以上～700万円未満	5 700万円以上	

F9 【子どものいる方にお伺いします】お子さんの年代と男女別の人数を()内にご記入下さい。

1 就学前の乳幼児	(男____人、女____人)
2 小学生	(男____人、女____人)
3 中学生	(男____人、女____人)
4 高校生・予備校生	(男____人、女____人)
5 短大・各種専門学校生	(男____人、女____人)
6 大学生・大学院生	(男____人、女____人)
7 社会人	(男____人、女____人)

<用語解説>

以下に、男女共同参画社会を理解する上で必要な用語を掲載しますので、アンケートにご回答いただく際にご参考にして下さい。

a 男女共同参画社会

女性と男性が社会を構成する対等なメンバーとして認め合い、仕事、家庭、地域などあらゆる分野に参画し、喜びも責任も、ともに分かち合う社会をいいます。

b ジェンダー

生物学的な性別ではなく、『女らしさ、男らしさ』など文化的・社会的につくられた性差を指します。このようなジェンダー意識を持つことは、例えば「男は仕事・女は家庭」などのように、個人の個性や能力と関わりなく、男女の性別による役割を与えることにつながり、結果として女性も男性も生き方の幅を狭めてしまします。

c ドメスティック・バイオレンス (DV)

配偶者(事実婚、別居を含む)やパートナーなど親密な関係にある(あった)人から振るわれる暴力のことです。暴力には殴る蹴るなどの暴力のみならず、威嚇する、生活費を渡さない、仕事につかせない、性行為の強要、外出や交友関係を制限して孤立させるといった精神的な苦痛や経済的な抑圧なども含まれます。また、子どもに暴力をみせることも含まれます。親密な関係の男女間のことであっても、刑法に規定されている暴行、脅迫等の行為が行われた場合は犯罪となります。

d ワーク・ライフ・バランス

老若男女誰もが、仕事、家庭生活、地域生活などにおいて、自らが希望するバランスのとれた生活を送ることを指します。そのような生活を実現させるためには、働き方の見直しや家庭における家族の役割分担などが必要とされています。

e とよた男女共同参画センター(キラツタとよた)

豊田市が設置・運営している男女共同参画社会実現のための拠点施設で、情報誌の発行、セミナー・講座やイベントの開催、団体支援等様々な活動を行っています。(豊田産業文化センター2階 電話: 31-7780)

次の質問からは、あなたご自身の日常生活や考え方などをお伺いしていきます。日頃、感じているままにご回答ください。

男女平等観について

問1 1～5の分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。また、6、7にあげた社会全体の仕組みにおいてはどうかになっていますか。1～7について、あてはまるものを各々1つ選びO印をつけてください。

	女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	平等である	男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	どちらでもない	わからない
1 家庭生活で	1	2	3	4	5	6	7
2 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6	7
3 職場で	1	2	3	4	5	6	7
4 政治の場で	1	2	3	4	5	6	7
5 地域社会の場で	1	2	3	4	5	6	7
6 法律や制度で	1	2	3	4	5	6	7
7 社会通念・慣習やしきたりで	1	2	3	4	5	6	7

注) 「2 学校教育の場」とは、授業や学校生活など学校の環境全体とお考えください。

男女の関わり・役割分担について

- 問2 男女の関わりに関する以下の考え方や行動について、あなたはどのような考えますか。
- (1) 1~8それぞれについて、あなたはどのよう思われますか。【(1)考え方】欄からあなたの考えに最も近い番号を各々1つ選び○印をつけてください。
- (2) 1~8それぞれについて、あなたはどのように行動していますか。【(2)実際の行動】欄からあなたの行動に最も近い番号を各々1つ選び○印をつけてください。

	【(1)考え方】					【(2)実際の行動】				
	そう思う	そう思うかといえは	どちらかといえは	そう思わない	わからない	そうしている	そうしているかといえは	どちらかといえは	そうしていない	わからない
1 結婚してもそれぞれ自分名義の財産を持った方がよい	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2 子育ては女性も男性も協力して行う	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3 男性も家事をきちんとできる方がよい	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4 「男は仕事・女は家庭」という考え方はよい	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5 「女は女らしく、男は男らしく」する方がよい	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
6 女性は仕事を持って家事・育児もきちんとする方がよい	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
7 女性は自分のことより家族のことを優先する方がよい	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
8 男性は家庭や地域のことより仕事を優先する方がよい	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

家庭における女・男のあり方について

- 問3 家庭における夫婦の役割分担について、お伺いします。
- (1) 【全ての方に伺います。】1~5に示す各場面で、夫婦のどちらが役割を担う方がよいと思えますか。【(1)理想】欄からあなたの考えに最も近いものを各々1つ選び○印をつけてください。
- (2) 【結婚している方にお伺いします。】あなたの家庭では、1~5に示す各場面で、実際に夫婦のどちらが役割を担っていますか。【(2)現状】欄から現状に最も近いものを各々1つ選び○印をつけてください。

	全ての方【(1)理想】					結婚している方【(2)現状】				
	主婦の役割がよい	主婦の役割がよい	主婦の役割がよい	その他	その他	主婦が役割	主婦が役割	主婦が役割	その他	その他
1 家事全般（食事、洗濯、掃除等）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2 家計の管理	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3 子育て全般	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4 老親等の世話・介護	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5 地域活動への参加	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

- 問4 家庭における子どもの育て方についてお伺いします。1~7について、「女の子の場合」と「男の子の場合」別に、あてはまるものを各々1つ選び○印をつけてください。それぞれの子育て経験のない方は、あなたの考えにより近いものに○印をつけてください。

	女の子の場合					男の子の場合				
	いる子育て	いる子育て	いる子育て	わからない	わからない	いる子育て	いる子育て	いる子育て	わからない	わからない
1 女らしく、男らしく育てる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2 家事能力（料理、掃除など）のある子に育てる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3 経済力のある子に育てる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4 リーダーシップのある子に育てる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5 4年制大学以上に進学させる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
6 性別にとらわれず個性を伸ばすように育てる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
7 言葉遣いや立ち居振る舞いを注意する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

問5 介護についてお伺いします。家族に介護が必要な場合、あなたはどのようにしますか（していますか）あてはまるものを1つ選び○印をつけてください。

1 行政や外部のサービスには頼らず、自宅で介護したい（している） 問6へ

2 ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護したい（している）

3 特別養護老人ホーム等の施設で介護を受けさせたい（受けさせている）

4 その他（ ）

問6 問5で、【1と回答された方にお伺いします】自宅で家族を介護する（している）場合の主な介護者は誰ですか。あてはまるものを1つ選び○印をつけてください。

1 主に、自分が介護すると思う（している）

2 主に、自分の配偶者が介護すると思う（している）

3 主に、その他の家族（女性）が介護すると思う（している）

4 主に、その他の家族（男性）が介護すると思う（している）

5 その他（ ）

6 わからない

地域活動における男女の役割分担について

問7 地域活動における男女の役割分担についてお伺いします。

- (1) あなたが参加している地域活動の現状について、【(1)現状】欄からあてはまるものを各々1つ選び○印をつけてください。
- (2) 地域活動の今後のあり方について、【(2)意識】欄からあなたの考えに最も近いものを各々1つ選び○印をつけてください。

	【(1)現状】					【(2)意識】		
	いそいそして	いそいそ	はたはた	わらわら	わらわら	当然だと	仕方ない	改善すべき
1 催し物の企画等は主に男性が決定する	1	2	3	4	4	1	2	3
2 地域活動は男性が取り仕切る	1	2	3	4	4	1	2	3
3 自治区の集会の時には、女性がお茶くみや片づけをしている	1	2	3	4	4	1	2	3
4 女性は役職につきだがない	1	2	3	4	4	1	2	3
5 自治区の集会では、男性が上座に座る	1	2	3	4	4	1	2	3
6 女性が発言することは少ない	1	2	3	4	4	1	2	3
7 自治区の組長などの登録は男性(夫)だが、実際は女性(妻)が出席することが多い	1	2	3	4	4	1	2	3
8 実質的な活動はほとんど女性が参加する	1	2	3	4	4	1	2	3

問8 地域の防災（災害対策）活動を推進するにあたり、あなたはどのようなようにお考えですか。あてはまるものをすべてに○印をつけてください。

1 防災は男女が共に担うものであるという意識を男女双方が持てるように行政や地域で取り組みが必要がある

2 防災対策などに女性の視点を含める必要がある

3 災害時要援護者（高齢者、障がい者、乳幼児、妊婦等）の視点を含める必要がある

4 自主防災組織等への女性の参画を促進する必要がある

5 行政だけでなく、個人や地域で防災活動に取り組み必要がある

6 その他（ ）

7 わからない

職場における男女の役割分担について

問9 一般的に、女性が仕事を持つことについて、あなたはどのようなにお考えですか。あてはまるものを**1つ選**びO印をつけてください。

1 女性は仕事を持たなくてもよい	} 問10,12△
2 結婚するまでは仕事を持つ方がよい	
3 子どもができては、仕事を持つ方がよい	} 問10,11,12△
4 子どもがきたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい	
5 子どもができては、ずっと仕事を続ける方がよい	→ 問11,12△
6 その他(具体的に)	→ 問12△

問10 【問9で1~4と回答された方にお伺いします】仕事をしない方がよいと考える理由は何ですか。あなたの考えに最も近いものを**1つ選**びO印をつけてください。

1 結婚したら主婦として子どもや夫、家族のために生活する方がよいと思うから))
2 結婚・出産の後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから	
3 仕事をすることについて家族の理解が得られないと思うから	
4 子育て期は、会社に負担をかけることが多いと思うから(こども園の送り迎え、子どもの病気、学校行事など)	
5 経済的に動く必要がない	
6 パートナーの勤務形態(夜勤・変則勤務)により、家庭と仕事を両立させるのは困難だと思うから	
7 自分の親や周囲の人がそうしているから	
8 特に考えたことはない	
9 その他()	

問11 【問9で3~5と回答された方にお伺いします。】結婚・出産後に女性が仕事をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに最も近いものを**3つ以内**で選びO印をつけてください。

1 育児職者の再雇用制度))
2 育児休業制度の充実(育児休業期間の延長、休業中の社会保険、経済保障など)	
3 柔軟な働き方ができる制度の導入(在宅勤務や短時間労働など)	
4 就学前の子どもを対象とした保育の充実(保育施設の増設や開設時間の延長など)	
5 小学生を対象とした保育の充実(放課後児童クラブの増設や対象年齢の上限引き上げなど)	
6 男性の育児休業取得の普及・促進	
7 家庭における男性の家事参加の促進	
8 その他()	

問12 【現在働いている方にお伺いします。】それ以外の方は、問13にお進みください。

(1) あなたの職場では、職場の慣行や待遇、仕事の内容等で、性別による違いがあると思いますか。
【(1)男女の違いの有無】欄より、あてはまるものを**1つ選**びO印をつけてください。

(2) 「1 違いがある」と回答された方には、どのような違いがあるか、【(2)男女の違いの内容】欄より、あてはまるものを**すべて**にO印をつけてください。

【(2)男女の違いの内容】

【(1)男女の違いの有無】	1の人はのへ
1 違いがある	↑
2 違いはない	
3 わからない	
【(2)男女の違いの内容】	
1 賃金に格差がある))
2 昇進・昇級に差がある	
3 お茶くみ・雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る	
4 トイレ、更衣室などの社内設備に差がある	
5 セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)を受けやすい	
6 教育訓練の機会に差がある	
7 雇用形態に差がある(女性はパートのみで正社員採用は少ない)	
8 その他()	
9 わからない	

ワーク・ライフ・バランスについて

問13 【生活の中で、仕事・家庭(家事・育児・家族関係・地域活動など)・プライベート(趣味など)人の楽しみ)の優先度についてお伺いします。

(1) あなたは、女性、男性それぞれについて、どのような優先順位が理想と考えますか。

【(1)理想】優先度が高い順に**1~3より2つ選**んでO印をつけてください。

* あなたの性別に関係なく両方お答えください

(2) 【(2)現実】あなたご自身の現実の生活における優先度が高い順に**1~3より2つ選**んでO印をつけてください。

1 仕事 2 家庭(家事・育児・家族関係・自治区活動など) 3 プライベート(趣味など個人の楽しみ)	注) 【(1)理想】 【(2)現実】	女性の場合 男性の場合 あなたご自身	優先度が高い順に1~3より1つずつ選		
			1. 番目(1つ)	2. 番目(1つ)	
			1	2	3
			1	2	3
			1	2	3

注) 【(1)理想】は、あなたの性別に関係なく両方お答えください。

問 14 **【現在、働いている方にお伺いします。】** 働いていない方は問 16へお進みください。仕事以外で自分自身のための時間をより充実するためにあなたは何をしてみたいですか。あてはまるものの中から**主なもの**を1つ**選**び**〇**印をつけてください。

1 趣味	2 学習	3 ボランティア	4 地域活動
5 サイドビジネス	6 特にない	7 その他 ()	

問 15 定年後の生活（セカンドライフ）であなたは何をしてみたいですか。あてはまるものの中から**主なもの**を1つ**選**び**〇**印をつけてください。

1 趣味	2 学習	3 ボランティア	4 地域活動
5 サイドビジネス	6 特にない	7 その他 ()	

問 16 **【現在、働いていない方にお伺いします。】** 働いている方は問 18へお進みください。自分自身のための時間をより充実するためにあなたは何をしてみたいですか。あてはまるものの中から**主なもの**を1つ**選**び**〇**印をつけてください。

1 趣味	2 学習	3 ボランティア	4 地域活動
5 サイドビジネス	6 特にもしていない	7 その他 ()	

問 17 今後、より充実するためにあなたは何をしてみたいですか。あてはまるものの中から**主なもの**を1つ**選**び**〇**印をつけてください。

1 趣味	2 学習	3 ボランティア	4 地域活動
5 サイドビジネス	6 特にない	7 その他 ()	

男女共同参画社会実現に向けた豊田市の取り組みについて

問 18 (1) 1~20 にあて豊田市が実施している取組（事業）について、あなたほどのように感じますか。あてはまるものを各々1つ**選**び**〇**印をつけてください。

	良い	普通	悪い	わからない
出産子育て				
1 妊婦の健康に対する取組	1	2	3	4
2 男性の育児参加促進への取組（父親向け育児講座の開催など）	1	2	3	4
3 保育サービスなど子育て支援の充実	1	2	3	4
4 学校教育における男女共同参画の意識づくり	1	2	3	4
5 学校行事やPTA活動などへの父親参加促進の取組	1	2	3	4
6 家庭における男性の家事・育児参加の促進	1	2	3	4
7 男女共同参画に関する学習機会の創出	1	2	3	4
8 地域活動における男女共同参画の促進（不平等な役割分担をなくすなど）	1	2	3	4
9 自治区役員や地域会議委員など意思決定の場への女性の登用	1	2	3	4
10 各種団体の女性リーダーの養成など人材育成の推進	1	2	3	4
11 ドメイン・リテラシー（DV）の理解促進や解消への取組	1	2	3	4
12 セクハラ・ハラスメント（セクハラ）の理解促進や解消への取組	1	2	3	4
13 職場における男女平等な環境づくり	1	2	3	4
14 離職した女性に対する再チャレンジ支援など女性の就業継続支援	1	2	3	4
15 ワーク・ライフ・バランスの理解促進（労働時間短縮、休暇制度の普及など）	1	2	3	4
16 高齢者の健康やいきいきづくりへの取組	1	2	3	4
17 要介護者を支える家庭への支援体制	1	2	3	4
18 イベント、広報紙などによる男女共同参画意識の啓発推進	1	2	3	4
19 男女共同参画を推進する市民活動の支援	1	2	3	4
20 女性の様々な悩みを気軽に相談できる相談体制の充実	1	2	3	4
高齢前期				
17 要介護者を支える家庭への支援体制	1	2	3	4
18 イベント、広報紙などによる男女共同参画意識の啓発推進	1	2	3	4
19 男女共同参画を推進する市民活動の支援	1	2	3	4
20 女性の様々な悩みを気軽に相談できる相談体制の充実	1	2	3	4
職 場				
12 セクハラ・ハラスメント（セクハラ）の理解促進や解消への取組	1	2	3	4
13 職場における男女平等な環境づくり	1	2	3	4
14 離職した女性に対する再チャレンジ支援など女性の就業継続支援	1	2	3	4
15 ワーク・ライフ・バランスの理解促進（労働時間短縮、休暇制度の普及など）	1	2	3	4
高 齢 期				
16 高齢者の健康やいきいきづくりへの取組	1	2	3	4
17 要介護者を支える家庭への支援体制	1	2	3	4
18 イベント、広報紙などによる男女共同参画意識の啓発推進	1	2	3	4
19 男女共同参画を推進する市民活動の支援	1	2	3	4
20 女性の様々な悩みを気軽に相談できる相談体制の充実	1	2	3	4
学 校				
4 学校教育における男女共同参画の意識づくり	1	2	3	4
5 学校行事やPTA活動などへの父親参加促進の取組	1	2	3	4
家 庭・地 域				
6 家庭における男性の家事・育児参加の促進	1	2	3	4
7 男女共同参画に関する学習機会の創出	1	2	3	4
8 地域活動における男女共同参画の促進（不平等な役割分担をなくすなど）	1	2	3	4
9 自治区役員や地域会議委員など意思決定の場への女性の登用	1	2	3	4
10 各種団体の女性リーダーの養成など人材育成の推進	1	2	3	4
11 ドメイン・リテラシー（DV）の理解促進や解消への取組	1	2	3	4
出 産・子 育 て				
1 妊婦の健康に対する取組	1	2	3	4
2 男性の育児参加促進への取組（父親向け育児講座の開催など）	1	2	3	4
3 保育サービスなど子育て支援の充実	1	2	3	4
4 学校教育における男女共同参画の意識づくり	1	2	3	4
5 学校行事やPTA活動などへの父親参加促進の取組	1	2	3	4
6 家庭における男性の家事・育児参加の促進	1	2	3	4
7 男女共同参画に関する学習機会の創出	1	2	3	4
8 地域活動における男女共同参画の促進（不平等な役割分担をなくすなど）	1	2	3	4
9 自治区役員や地域会議委員など意思決定の場への女性の登用	1	2	3	4
10 各種団体の女性リーダーの養成など人材育成の推進	1	2	3	4
11 ドメイン・リテラシー（DV）の理解促進や解消への取組	1	2	3	4
12 セクハラ・ハラスメント（セクハラ）の理解促進や解消への取組	1	2	3	4
13 職場における男女平等な環境づくり	1	2	3	4
14 離職した女性に対する再チャレンジ支援など女性の就業継続支援	1	2	3	4
15 ワーク・ライフ・バランスの理解促進（労働時間短縮、休暇制度の普及など）	1	2	3	4
16 高齢者の健康やいきいきづくりへの取組	1	2	3	4
17 要介護者を支える家庭への支援体制	1	2	3	4
18 イベント、広報紙などによる男女共同参画意識の啓発推進	1	2	3	4
19 男女共同参画を推進する市民活動の支援	1	2	3	4
20 女性の様々な悩みを気軽に相談できる相談体制の充実	1	2	3	4
高 齢 期				
16 高齢者の健康やいきいきづくりへの取組	1	2	3	4
17 要介護者を支える家庭への支援体制	1	2	3	4
18 イベント、広報紙などによる男女共同参画意識の啓発推進	1	2	3	4
19 男女共同参画を推進する市民活動の支援	1	2	3	4
20 女性の様々な悩みを気軽に相談できる相談体制の充実	1	2	3	4
職 場				
12 セクハラ・ハラスメント（セクハラ）の理解促進や解消への取組	1	2	3	4
13 職場における男女平等な環境づくり	1	2	3	4
14 離職した女性に対する再チャレンジ支援など女性の就業継続支援	1	2	3	4
15 ワーク・ライフ・バランスの理解促進（労働時間短縮、休暇制度の普及など）	1	2	3	4
高 齢 期				
16 高齢者の健康やいきいきづくりへの取組	1	2	3	4
17 要介護者を支える家庭への支援体制	1	2	3	4
18 イベント、広報紙などによる男女共同参画意識の啓発推進	1	2	3	4
19 男女共同参画を推進する市民活動の支援	1	2	3	4
20 女性の様々な悩みを気軽に相談できる相談体制の充実	1	2	3	4
学 校				
4 学校教育における男女共同参画の意識づくり	1	2	3	4
5 学校行事やPTA活動などへの父親参加促進の取組	1	2	3	4
家 庭・地 域				
6 家庭における男性の家事・育児参加の促進	1	2	3	4
7 男女共同参画に関する学習機会の創出	1	2	3	4
8 地域活動における男女共同参画の促進（不平等な役割分担をなくすなど）	1	2	3	4
9 自治区役員や地域会議委員など意思決定の場への女性の登用	1	2	3	4
10 各種団体の女性リーダーの養成など人材育成の推進	1	2	3	4
11 ドメイン・リテラシー（DV）の理解促進や解消への取組	1	2	3	4
出 産・子 育 て				
1 妊婦の健康に対する取組	1	2	3	4
2 男性の育児参加促進への取組（父親向け育児講座の開催など）	1	2	3	4
3 保育サービスなど子育て支援の充実	1	2	3	4
4 学校教育における男女共同参画の意識づくり	1	2	3	4
5 学校行事やPTA活動などへの父親参加促進の取組	1	2	3	4
6 家庭における男性の家事・育児参加の促進	1	2	3	4
7 男女共同参画に関する学習機会の創出	1	2	3	4
8 地域活動における男女共同参画の促進（不平等な役割分担をなくすなど）	1	2	3	4
9 自治区役員や地域会議委員など意思決定の場への女性の登用	1	2	3	4
10 各種団体の女性リーダーの養成など人材育成の推進	1	2	3	4
11 ドメイン・リテラシー（DV）の理解促進や解消への取組	1	2	3	4
12 セクハラ・ハラスメント（セクハラ）の理解促進や解消への取組	1	2	3	4
13 職場における男女平等な環境づくり	1	2	3	4
14 離職した女性に対する再チャレンジ支援など女性の就業継続支援	1	2	3	4
15 ワーク・ライフ・バランスの理解促進（労働時間短縮、休暇制度の普及など）	1	2	3	4
16 高齢者の健康やいきいきづくりへの取組	1	2	3	4
17 要介護者を支える家庭への支援体制	1	2	3	4
18 イベント、広報紙などによる男女共同参画意識の啓発推進	1	2	3	4
19 男女共同参画を推進する市民活動の支援	1	2	3	4
20 女性の様々な悩みを気軽に相談できる相談体制の充実	1	2	3	4

(2) (1) の 1~20 の取組のうち、豊田市の男女共同参画社会の実現において、重要と思うものを5つ以内で**選**び、1~20 の番号をご記入ください。

--	--	--	--	--

問 19 5年前と比べて、世の中の変化や豊田市の取組などによって、あなたご自身や家族の男女共同参画に関する理解が深まったと思いませんか。どちらかあてはまるものに○印をつけてください。

「1 思う」と回答した方は問20へ、「2 思わない」と回答した方は問21へお進みください。

1 思う (問20へ) 2 思わない (問21へ)

問 20 問 19で「1 思う」と回答した方にお伺いします。あなたご自身や家族の男女共同参画に関する理解が深まったと思うことはどれですか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

- 1 喫煙・受動喫煙、感染症など、子どもを産む母体への危険性に関する理解が深まったこと
- 2 電車の優先席をゆずるなど妊婦への心配りや気遣いをよくするようになったこと
- 3 小中学校での児童会長や生徒会長は男女のいずれでもよいと思うようになったこと
- 4 男性（夫）が家事や育児をするようになったこと
- 5 家庭における子どもの教育・しつけ（礼儀、作法、態度）で、男女の性別による違いをつけなくなったこと
- 6 父親（男性）が学校行事やPTA活動などへ積極的に参加するようになったこと
- 7 自治区において男女の性別による活動の差がなくなってきたこと
- 8 自治区やPTA役員に女性が選出されることに抵抗感がなくなってきたこと
- 9 DVやセクハラなど女性の人権侵害に関する理解が深まったこと
- 10 職場で、お茶くみやコピーなどの雑用を男性もするようになったこと
- 11 課長職以上の役職に就く女性が増えてきたこと
- 12 結婚や出産で離職しない（仕事を続ける）女性が増えたこと
- 13 男性（夫）も介護の方法について学び方がよいと思うようになったこと

男女共同参画社会実現に関する今後の取り組みについて

問 21 あなたは、地域のイベントや行政が発信する情報をどこから得ることが多いですか。あてはまるものを3つ以内で選び○印をつけてください。

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1 一般の新聞 | 2 CATV（ひまわりネットワーク） |
| 3 FMとよた | 4 市のホームページ |
| 5 市の広報紙 | 6 自治区回覧 |
| 7 地域情報誌（タウン誌） | 8 携帯電話やスマートフォンなどの情報端末 |
| 9 公共施設の置きチラシ、ポスター | 10 子どもが学校からもらう配布物 |
| 11 その他（ ） | |

問 22 あなたは、行政が男女共同参画に関する意識啓発を推進する方法として、どれが有効だと思いますか。あてはまるものを3つ以内で選び○印をつけてください。

- 1 地元メディア、情報誌及びホームページなどの情報発信
- 2 学校行事にあわせて講習会の開催
- 3 交流館などの学習講座
- 4 企業における教育・研修
- 5 男女共同参画を推進している団体の表彰制度
- 6 市民同士や市民と行政が気軽に意見交換できるインターネット上の掲示板などの設置
- 7 モデル校、モデル事業者等の設定
- 8 記念日（男女共同参画の日など）の設定
- 9 その他（ ）

問 23 最後に、豊田市が進める男女共同参画社会づくりのための取組についてご意見等がございましたら、以下にご記入ください。

男女共同参画に関する施策に関心を持たれた方は、とよた男女共同参画センター（キラツ☆とよた）のホームページをご覧ください。（<http://www.wjhm4.aitaine.jp/~clover/>）

これでアンケートは終了です。ご意見を参考にによりよいものにしていくための資料とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

平成 25 年度
豊田市男女共同参画社会に関する意識調査報告書
平成 26 年 3 月発行

発行 豊田市 社会部 共働推進室 生涯学習課
とよた男女共同参画センター
〒471-0034
豊田市小坂本町 1-25
豊田産業文化センター 2 階
TEL : 0565(31)7780
FAX : 0565(31)3270

